

企画管理部政策推進課 資料1-2

3月定例会 全員協議会

令和2年2月21日

地方創生に関するアンケート調査 集計分析結果 概要報告書（案）

令和2年2月

射水市

目次

I アンケート調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の内容.....	1
3 集計、分析.....	2
II アンケート全体の集計分析結果【要旨】.....	3
1 市のイメージ.....	3
(1) 市への愛着度.....	3
(2) 市の印象（市民）.....	5
(3) 市の魅力.....	6
2 居住環境.....	7
(1) 住み心地.....	7
(2) 射水市での居留意向.....	7
(3) 継続居住を希望する理由.....	10
(4) 転居を希望する理由.....	15
3 就労環境（市民）.....	19
(1) 現在の職場環境の改善要望（市民）.....	19
(2) 働きたいが条件に合う仕事がない理由（市民）.....	21
(3) 定年後の就労希望（市民）.....	21
(4) 働くために必要な条件（市民）.....	21
4 進路希望（高校生、学生）.....	22
(1) 卒業後の進路希望（高校生・学生）.....	22
(2) 進学希望先（高校生）.....	22
(3) 進学希望先の選択理由（高校生）.....	23
(4) 就職希望業種（高校生、学生）.....	25
.....	26
(5) 就職希望地域（高校生、学生）.....	26
(6) 就労への支援（学生）.....	31
5 結婚.....	32
(1) 結婚希望.....	32
(2) 結婚していない、希望しない理由（市民）.....	33
(3) 必要な婚活施策（市民）.....	35
6 子育て.....	37
(1) 理想の子ども数.....	37
(2) 理想の子ども数を実現するために必要なこと（市民）.....	38
(3) 射水市に対する子育てしやすさの評価（市民）.....	41
(4) 市の子育て支援施策に対する満足度と重要度（市民）.....	42

7	地域活動（高校生、学生）	44
	（1）地域活動への関心度（高校生、学生）	44
	（2）地域活動への参加と参加意向の（高校生、学生）	45
	（3）卒業後の地域（射水市）との関わり（学生）	46
8	まちづくり	47
	（1）市の施策の満足度と重要度（市民）	47
	（2）市の行政施策への関心度（高校生、学生）	49
	（3）若者が市の施策に関心を持つために必要な取組（高校生、学生）	49
	（4）まちの活性化や地域貢献にふさわしい分野・方法（高校生、学生）	51
	（5）まちの活性化のために重要な取組（高校生、学生）	52
	（6）持続可能なまちづくりのために重視すべきSDGs	52

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、一般市民や将来を担う若者（学生・高校生）の結婚・出産・子育てに関する意識や希望、定住や移住への意識や希望、将来の展望等についての考え方等を把握し、第2期射水市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の基礎資料として活用することを目的とする。

2 調査の内容

	市民アンケート	学生アンケート	高校3年生アンケート
調査対象	・射水市内に居住する満18歳以上の市民3,500人(住民台帳より無作為抽出)	・射水市内の高等教育機関(富山県立大学、富山高等専門学校、富山福祉短期大学、富山情報ビジネス専門学校)に在籍する学生650人(各校150人を基本としたが、クラス単位で配布したため、150人を超えて配布した学校もあった)	・射水市内に居住する満18歳の市民(高校3年生世代)300人(住民台帳より無作為抽出)
調査方法	・アンケート調査票を郵送で配布し、同封の返信封筒にて回収	・市から各校へ配布・回収を依頼 ・各校はクラス単位で実施(配布・回収方法は各校へ一任)	・アンケート調査票を郵送で配布し、同封の返信封筒にて回収
調査期間	・令和元年8月～9月	・令和元年9月～10月	・令和元年8月～9月
配布数	3,500票	650票	300票
回収数	1,302票	610票	90票
回収率	37.2%	93.8%	30.0%

3 集計、分析

集計にあたっては、それぞれの設問ごとに、有効回答、無回答、不明回答に分けて集計し、主に有効回答を母数として分析を行った。

集計表の構成比は四捨五入した結果を表示しているため、合計が 100 にならない場合がある。

※無回答：回答の記載がないもの

※不明回答：回答の記載があるが、設問の求めに対応していない回答（例えば、選択肢 1 つを選ぶところで 2 つ以上の選択をした回答など）

Ⅱ アンケート全体の集計分析結果【要旨】

1 市のイメージ

(1) 市への愛着度 (市民 Q2, Q3、高校生 Q20、学生 Q16、)

- ・射水市を好きな人の割合は、市民アンケートでは71.7%、高校生アンケートでは83.3%、学生アンケートでは対象者全体で37.4%であり、市内居住者の方が市に愛着を持っている傾向にある。(図 2-1)
- ・市に愛着を感じる対象として、いずれのアンケートにおいても「友人関係」や「景観・自然環境」を多くあげている。(図 2-2)

図 2-1 市への愛着度 (市民、高校生、学生)

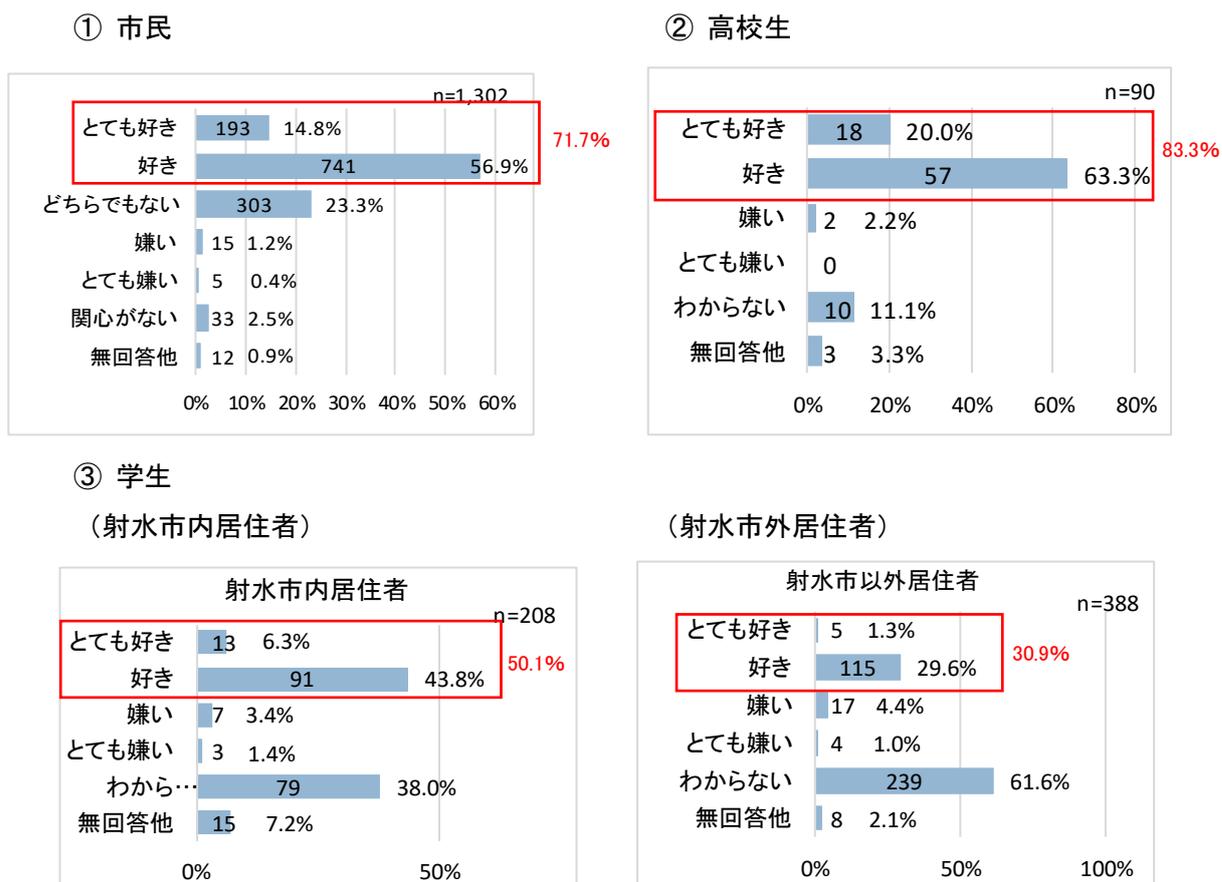
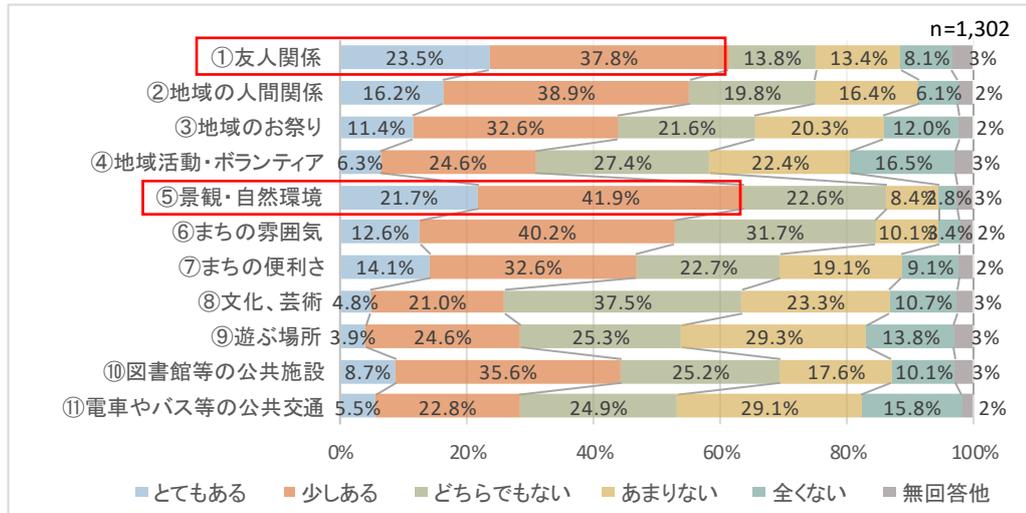
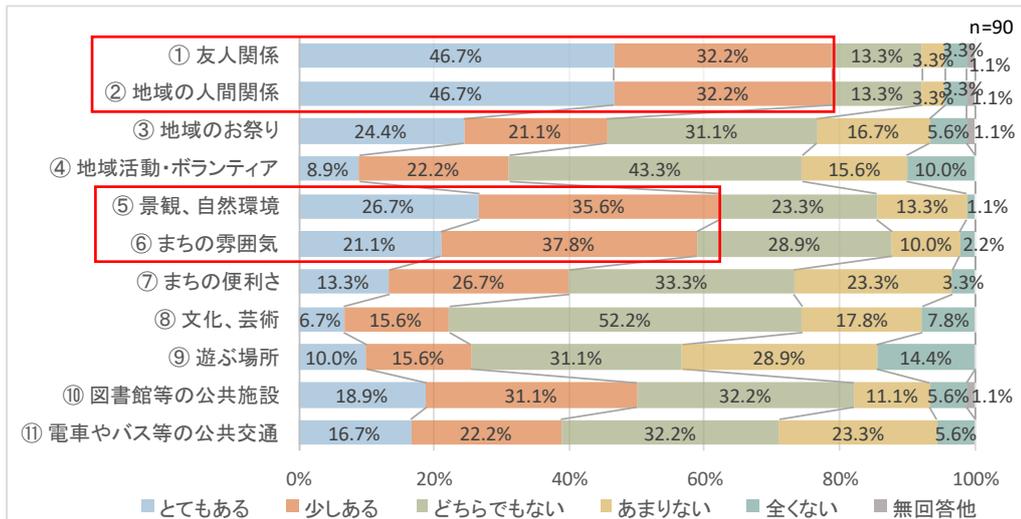


図 2-2 市に愛着を感じるもの（市民、高校生、学生）

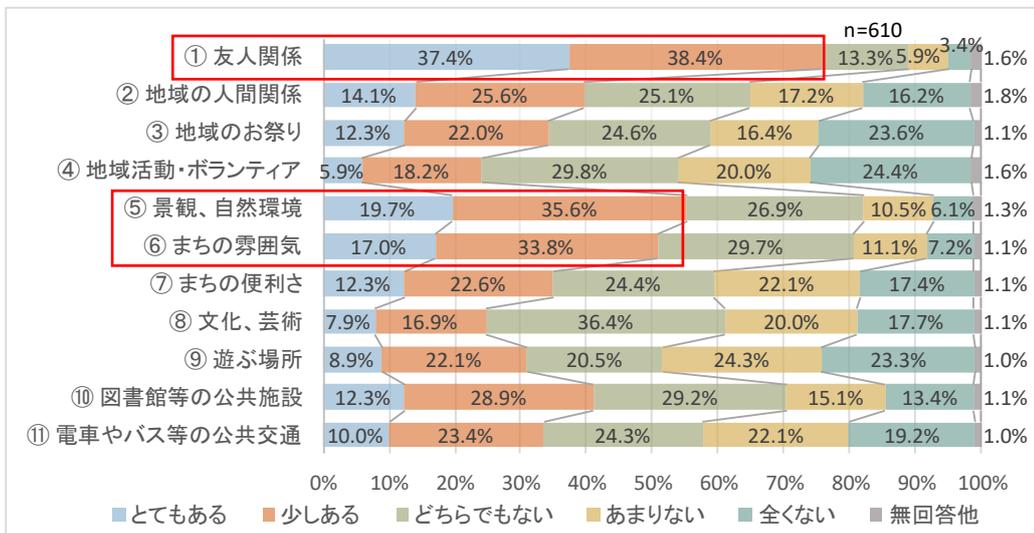
① 市民



② 高校生



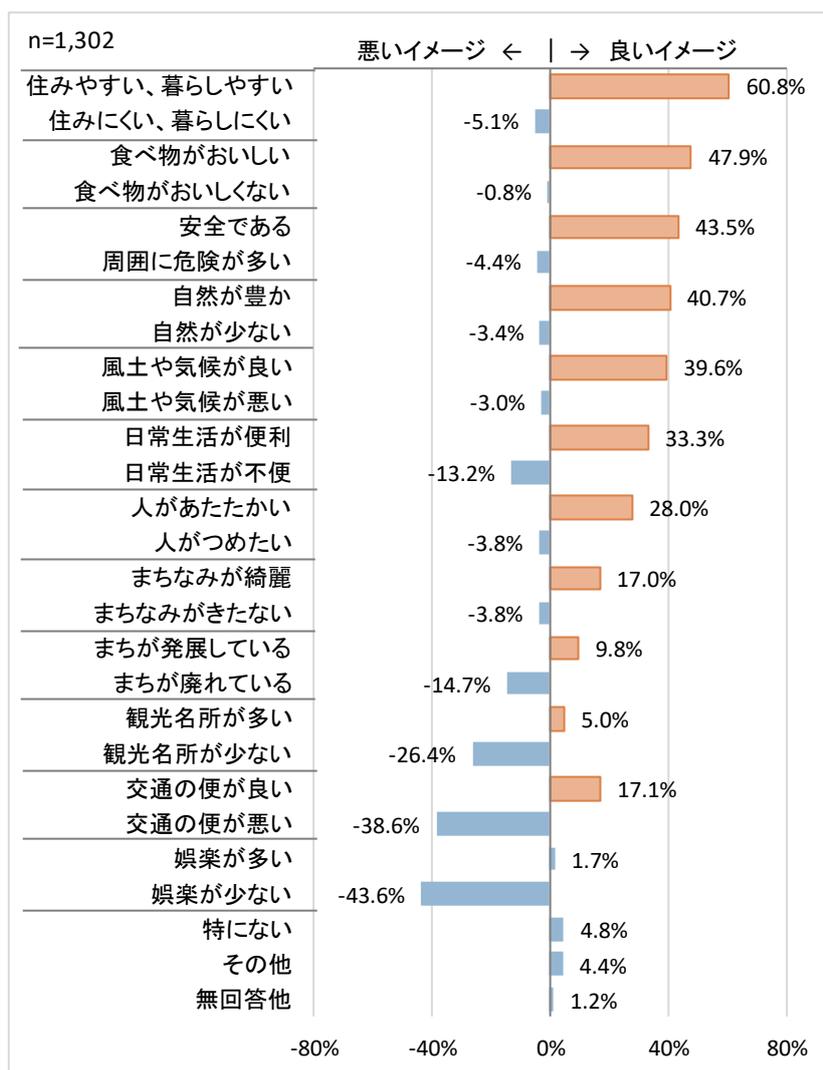
③ 学生



(2) 市の印象（市民）（市民 Q4）

- ・現在の市に対する良いイメージとして、「住みやすさ・暮らしやすさ」を筆頭に「食べ物のおいしさ」「安全性」「自然の豊かさ」「気候風土の良さ」「日常生活の利便性」「人のあたたかさ」などがあげられている。（図 2-3）
- ・良くないイメージとして、「娯楽の少なさ」「交通利便の悪さ」「観光名所の少なさ」などがあげられている。ただし「交通利便」については良いイメージの回答も見られる。（図 2-3）

図 2-3 現在の射水市の印象・イメージ（市民）

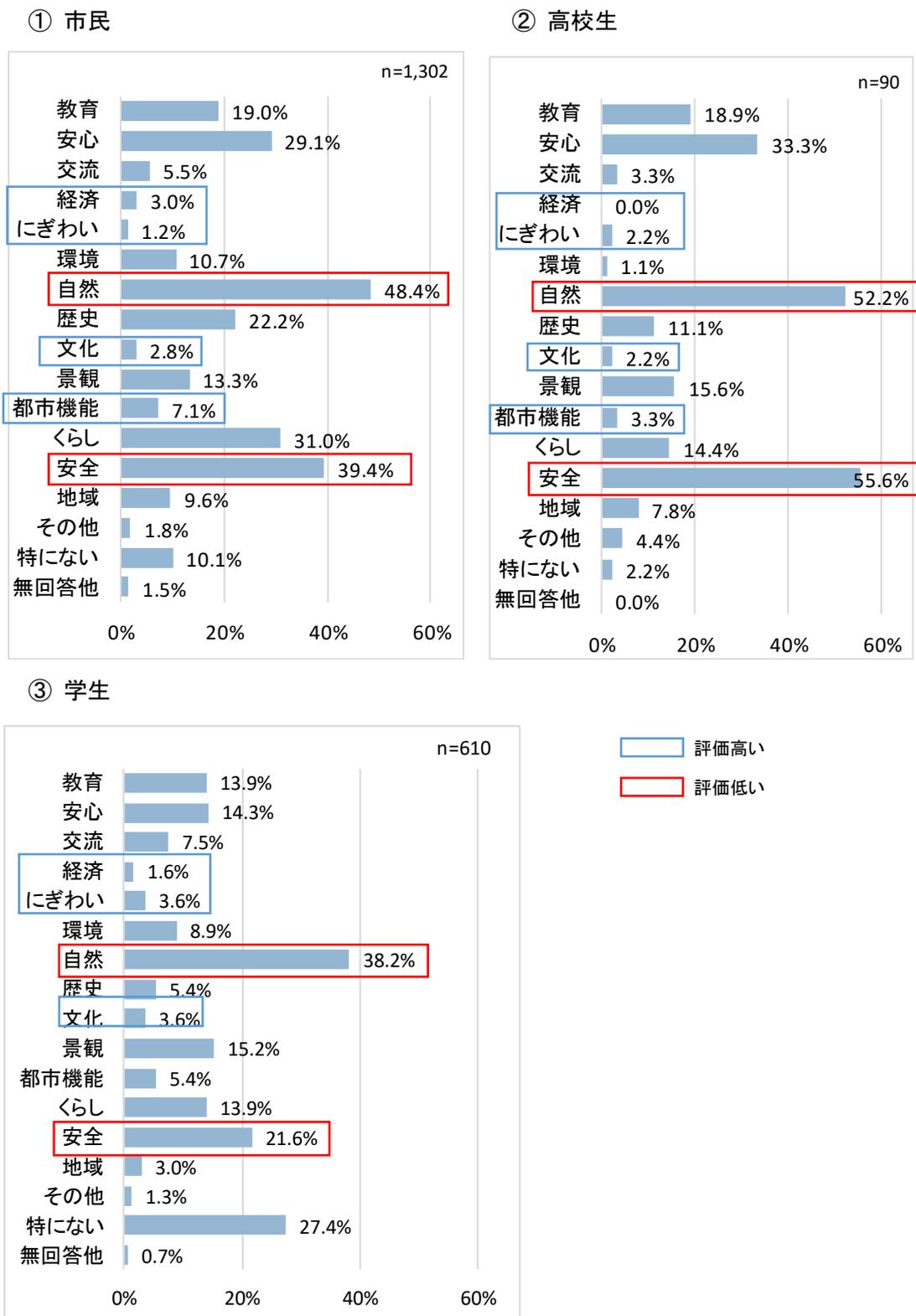


(3) 市の魅力 (市民 Q5、高校生 Q22、学生 Q18)

- 市の魅力についてはいずれのアンケートもほぼ同じ傾向がみられ、「自然の豊かさ」、「安全・安心」で評価が高く、「経済」、「にぎわい」、「文化」、「都市機能」等で評価が低い。

(図 2-4)

図 2-4 市の魅力 (市民、高校生、学生)

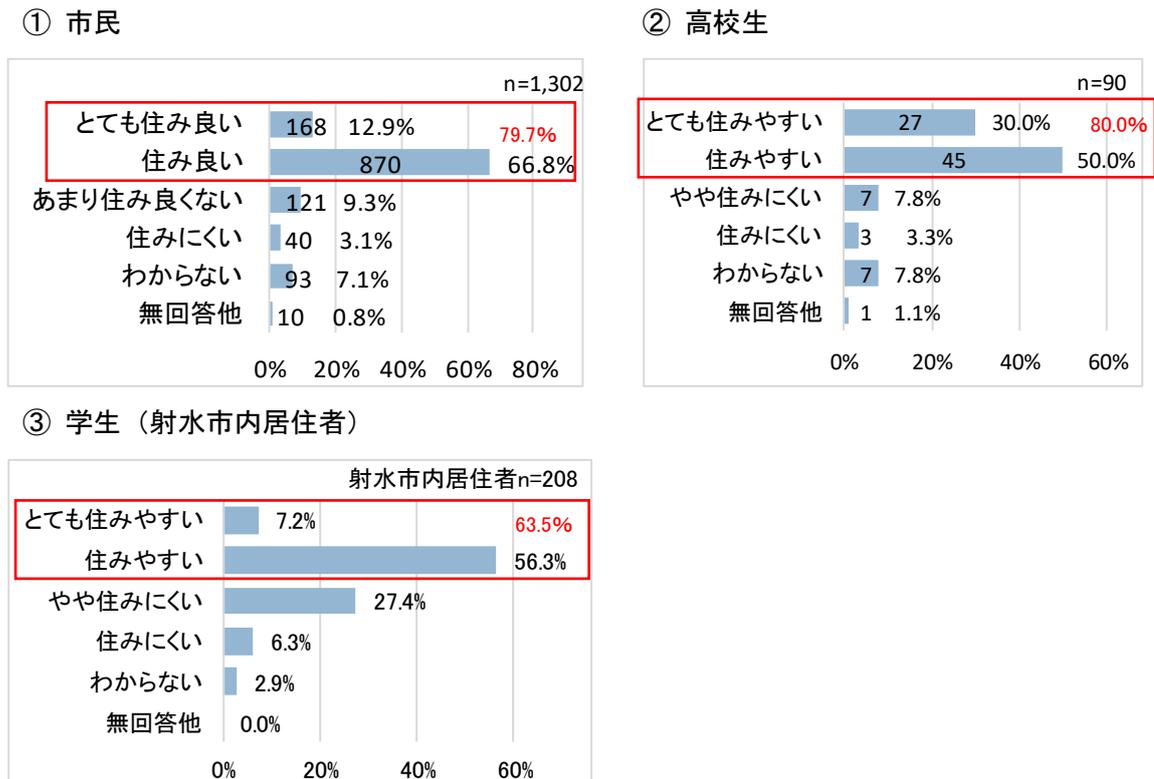


2 居住環境

(1) 住み心地 (市民 Q6、高校生 Q16、学生 Q12)

- ・市の住み心地について、「(とても)住みやすい」と答えた人が、市民アンケートでは 79.7%、高校生アンケートでは 80%、学生アンケートでは 63.5%となっている。(図 2-5)
- ・男女別にみると、

図 2-5 住み心地 (市民、高校生、学生)



(2) 射水市での居留意向 (市民 Q8、高校生 Q17、学生 Q13)

- ・今後も射水市で住み続けたいと答えた人は、市民アンケートでは 73.4%で、高校生 (23.4%) 及び学生 (25.0%) に比べ著しく高い。(図 2-6)
- ・「住み続けたい」を答えた割合について男女比較をすると、市民アンケートでは女性より男性の比率がやや高い。高校生アンケート及び学生アンケートでは、男性の方が女性よりも「ずっと住み続けたい」と「すぐにでも引っ越したい (住み続けたくない)」がともに高い。(図 2-7)
- ・市民アンケートについて年齢別にみると、総じて年齢が高くなるにつれて「住み続けたい」が多くなる傾向が捉えられる。(図 2-8①)
居住期間別にみると、居住期間が 10 年未満と 10 年以上の間はずれが見られるが、総じて居住期間が長くなるに従い「住み続けたい」が多くなる傾向が捉えられる。(図 2-8②)

住宅種類別にみると、自身が所有する住宅居住者は「住み続けたい」が多い。非所有者は「住み続けたい」が比較的少ない。社宅・官舎・寮住まいの人は「すぐにでも市外に引っ越したい」が多い。(図 2-8③)

図 2-6 射水市での居住意向 (市民、高校生、学生)

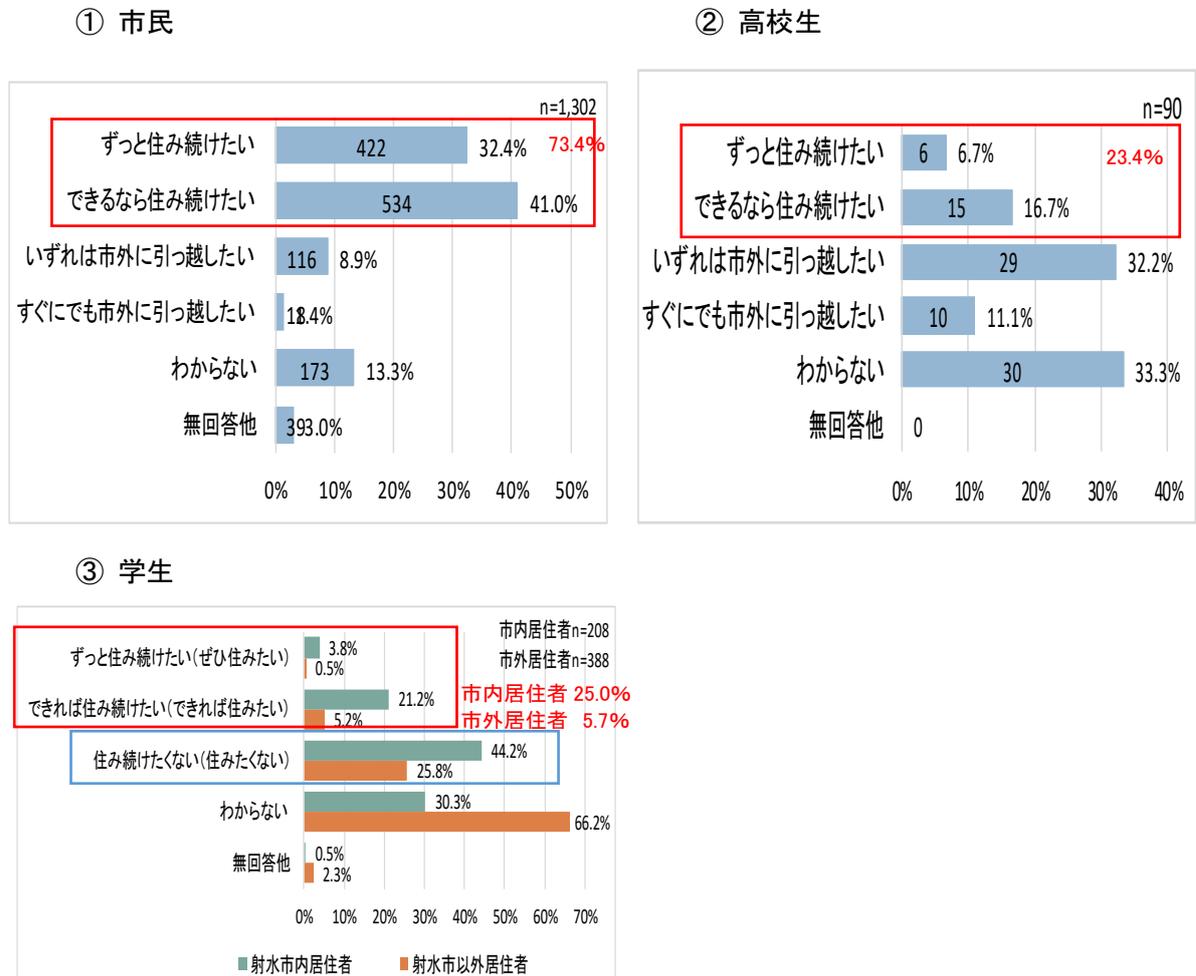
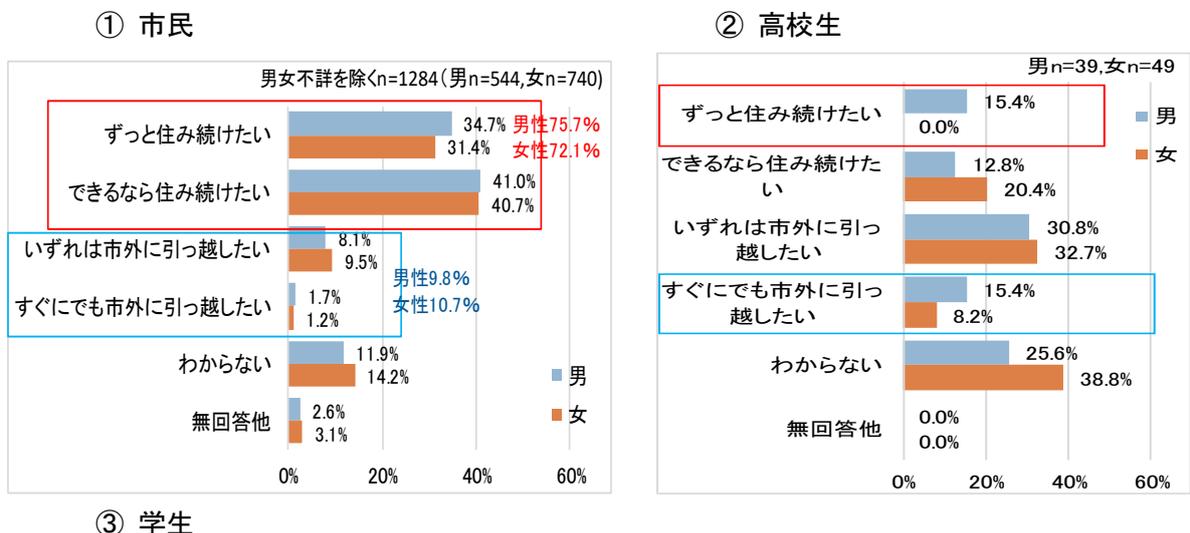


図 2-7 射水市での居住意向 (市民、高校生、学生)・・・男女別集計



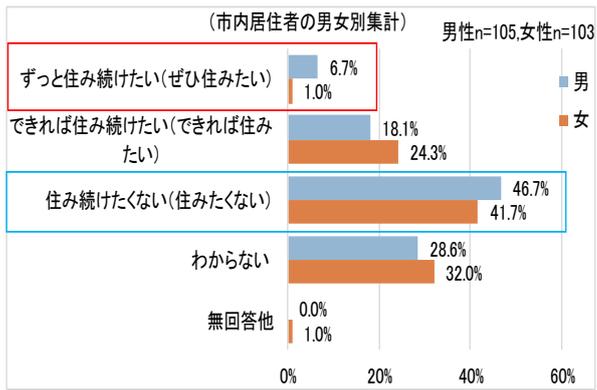
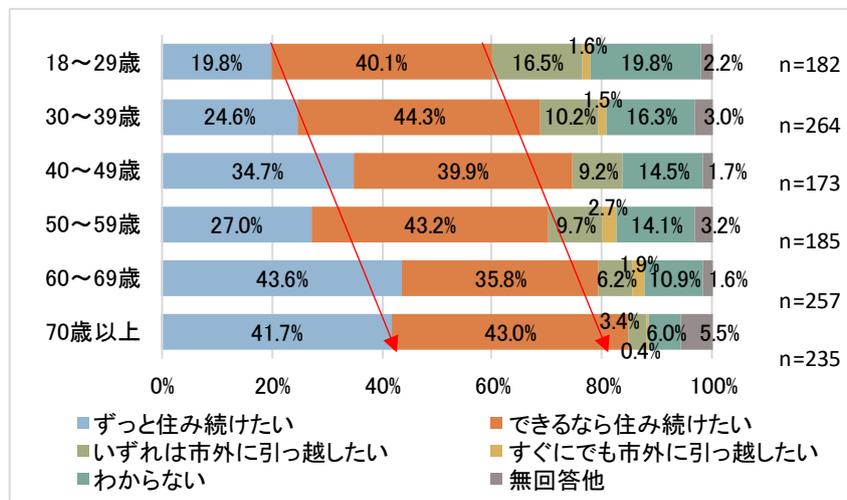
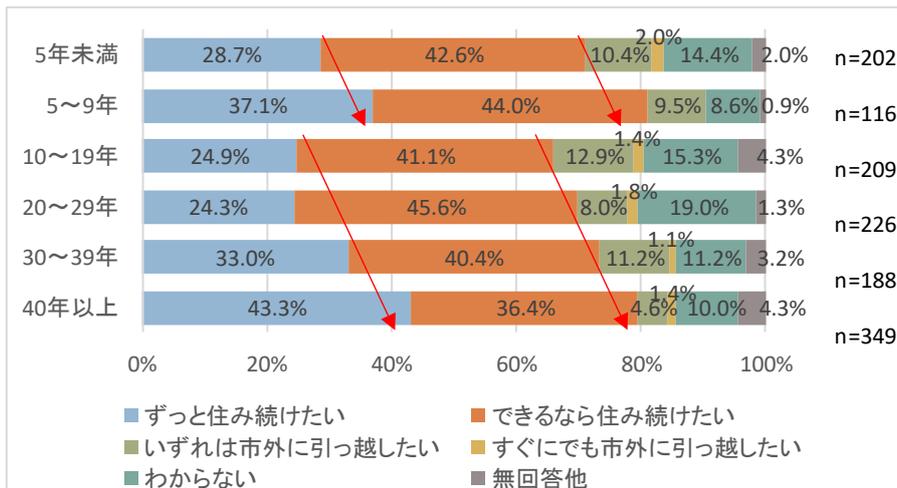


図 2-8 射水市での居住意向 (市民のみ)・・・年齢別、居住期間別、住宅種類別集計

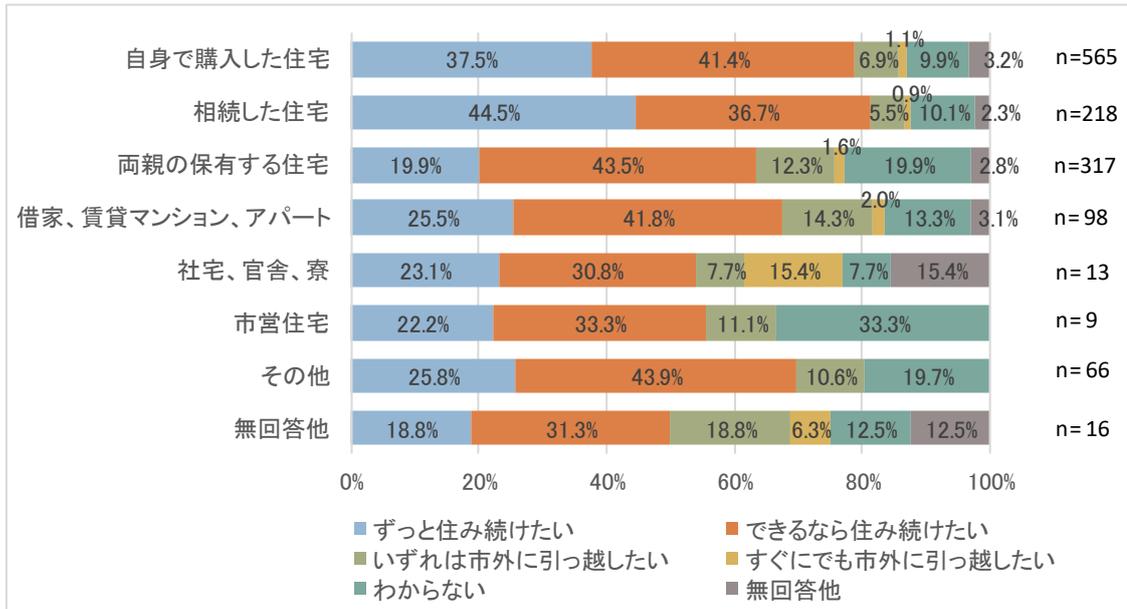
① 年齢別集計 (市民)



② 居住期間別集計 (市民)



③ 住宅種類別集計（市民）

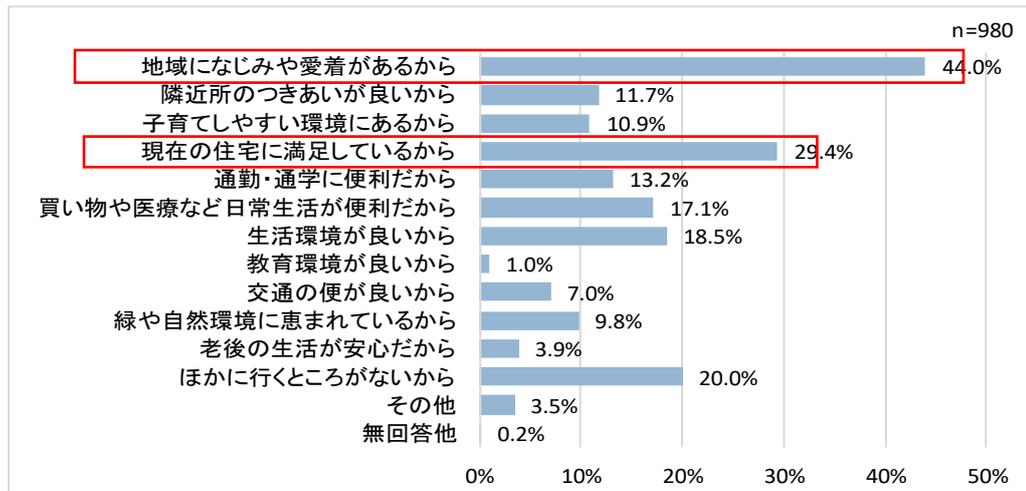


（3）継続居住を希望する理由（市民 Q9、高校生 Q18、学生 Q14）

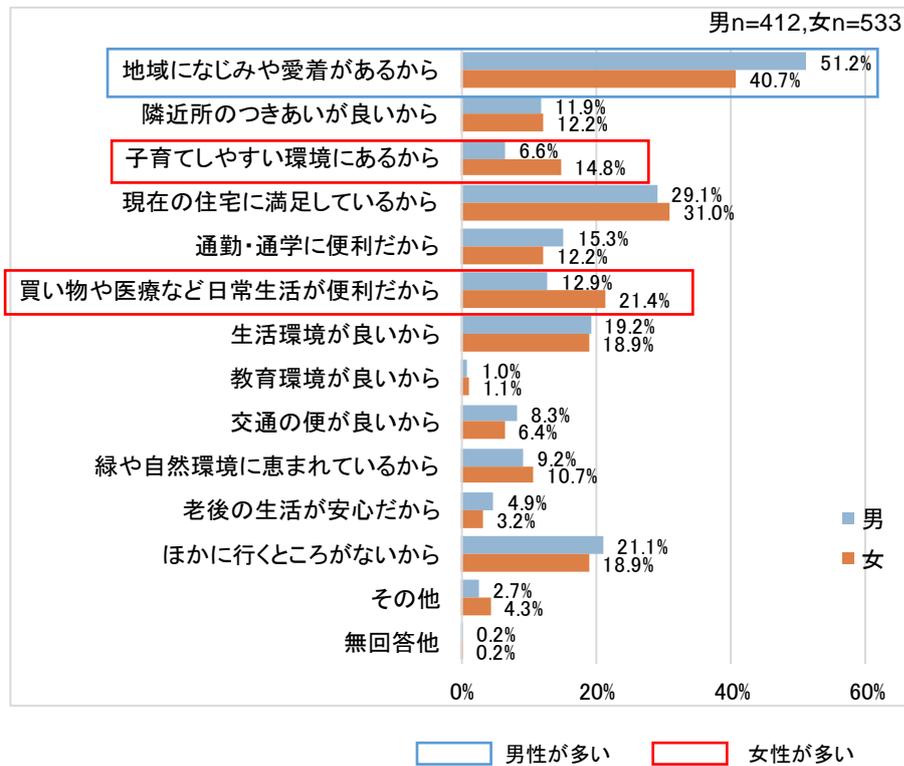
- 市民アンケートでは「地域になじみや愛着がある」、「現在の住宅に満足している」の回答が多く、高校生アンケートでは「生まれ育ったまちで暮らしたい」、「自然環境に恵まれている」が多く、学生アンケートでは「買い物・医療などの日常生活の利便性」、「自然に恵まれている」を多くあげている。（図 2-9①、図 2-10①、図 2-11①）
- 男女を比較してみると、市民アンケートでは男性は「地域になじみや愛着がある」が多く、女性は「買い物や医療などの日常生活が便利」「子育てしやすい環境」が多い。（図 2-9②）
高校生アンケートでは、男性は「自然環境に恵まれている」「生まれ育ったまちで暮らしたい」が多く、女性は「地域住民との関係がよい」が多い。（図 2-10②）
学生アンケートでは、男性は日常生活・交通の利便性、教育・研究機関の充実、まちのにぎわいを評価し、女性は地域住民との関係や愛着などを評価している。（図 2-11②）
- 市民アンケートで年齢別に比較すると、若い世代は「子育てしやすい環境がある」や「通勤・通学に便利」をあげている。（図 2-9③）
- 学生アンケートで市内居住者と市外居住者を比較すると、射水市内居住者は日常生活の利便性、自然環境、地域の愛着などを評価し、市外居住者は、教育・研究機関の充実、まちのにぎわい、地域住民との関係などを市内居住者よりも多く評価している。（図 2-11③）

図 2-9 射水市に継続居住を希望する理由（市民）

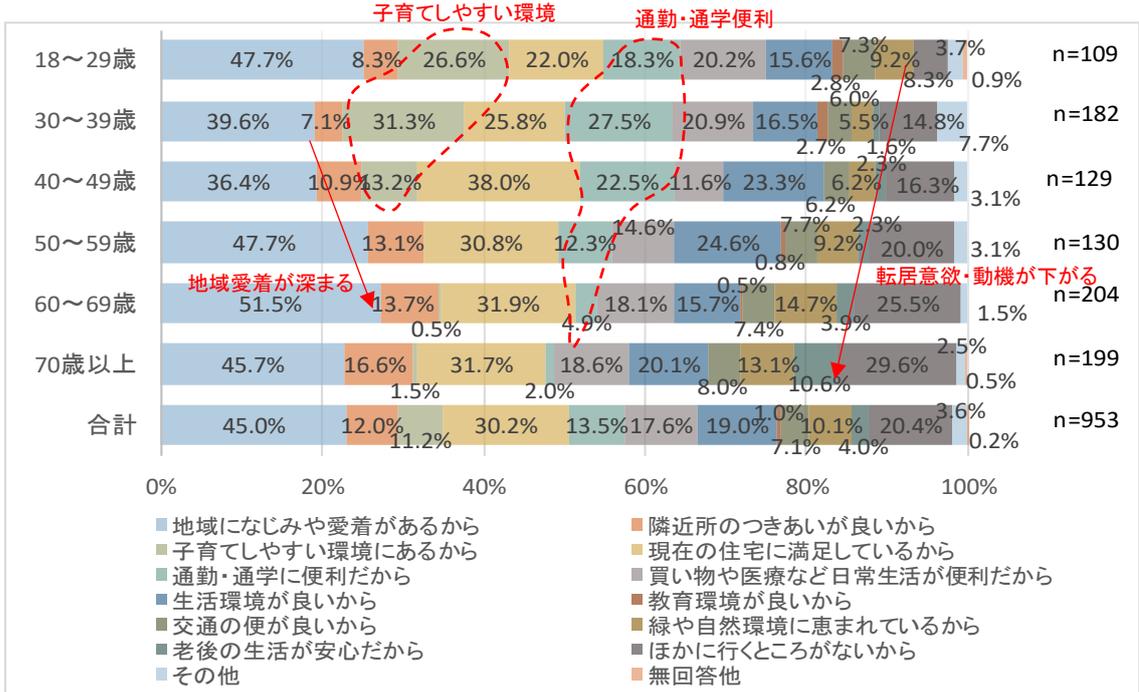
① 単純集計（市民）



② 男女別集計（市民）



③ 年齢別集計（市民）



④ 地域別集計（市民）

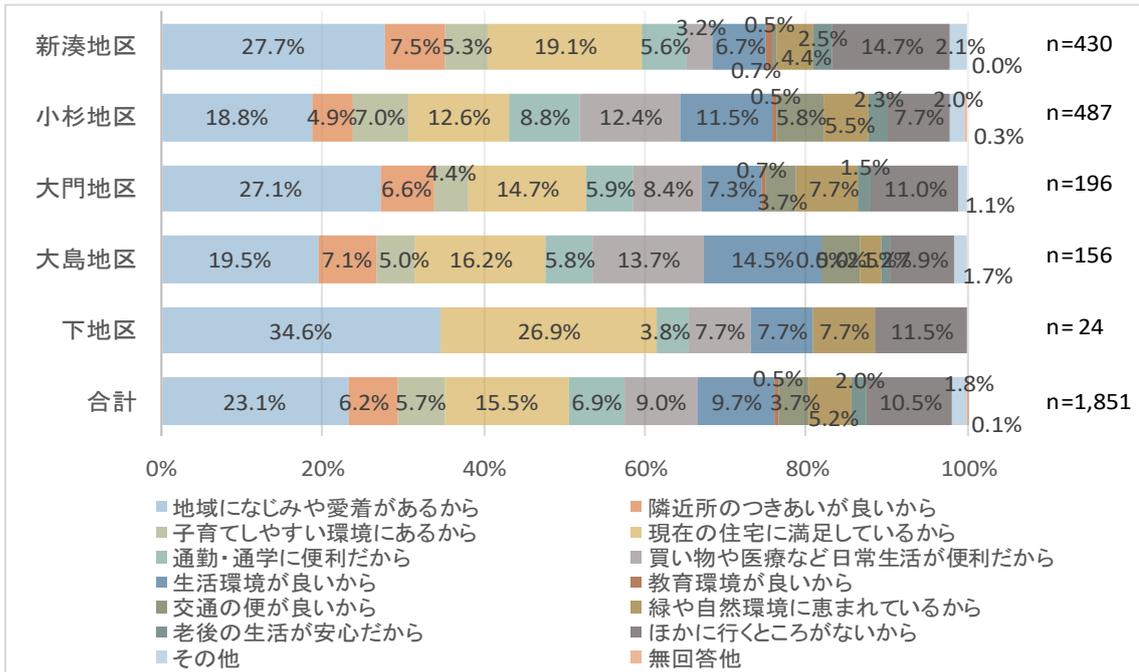
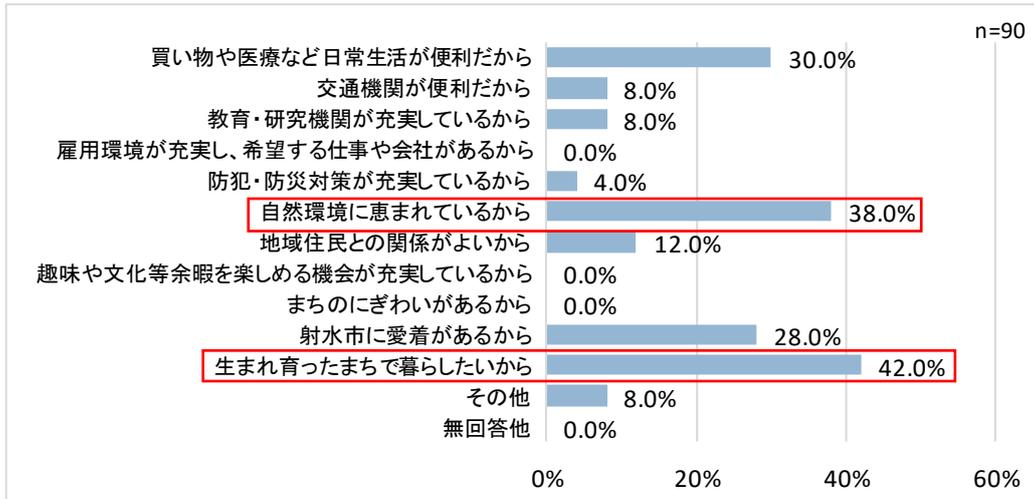


図 2-10 射水市に継続居住を希望する理由（高校生）

① 単純集計（高校生）



② 男女別集計（高校生）

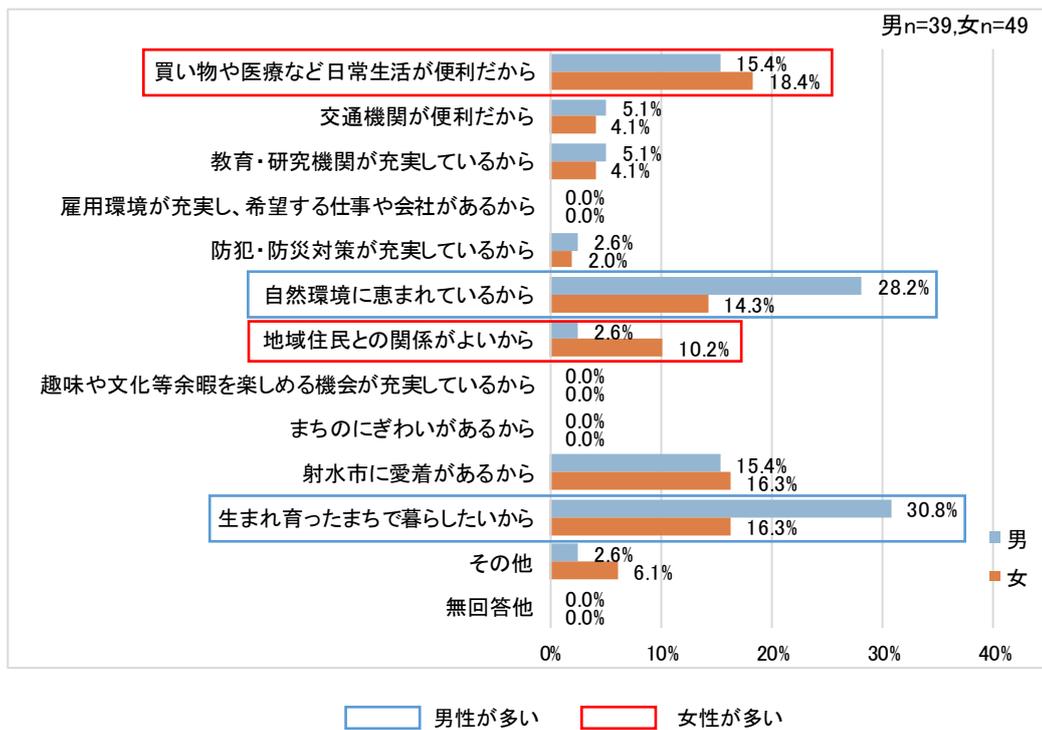
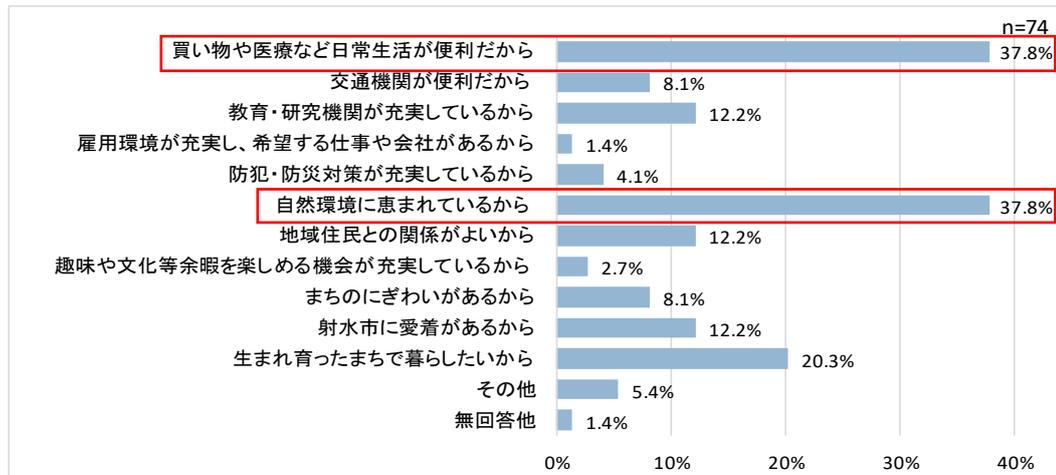
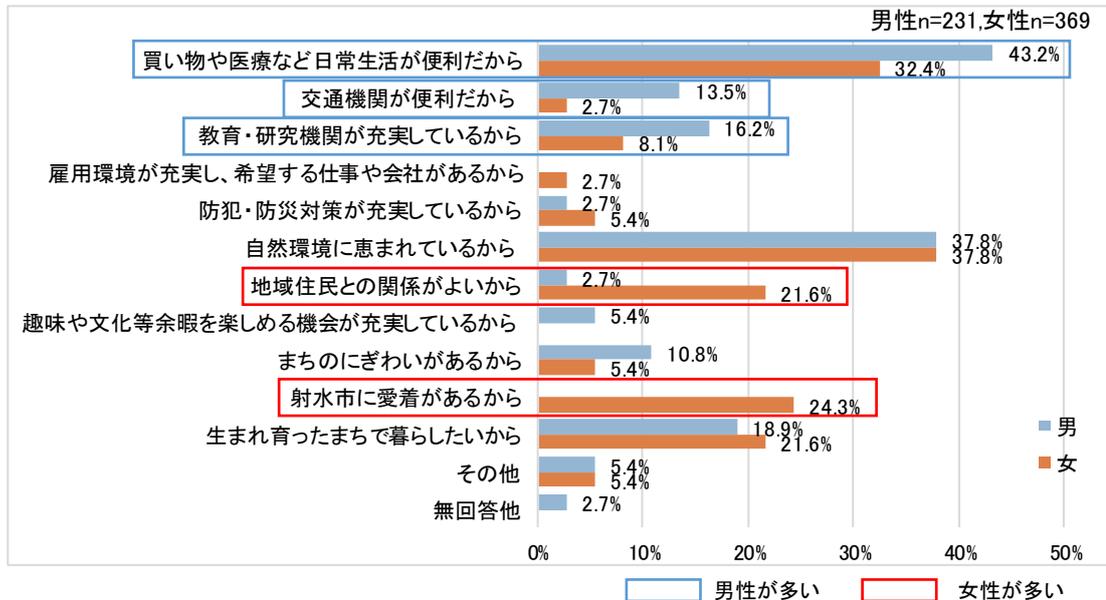


図 2-11 射水市に継続居住を希望する理由（学生）

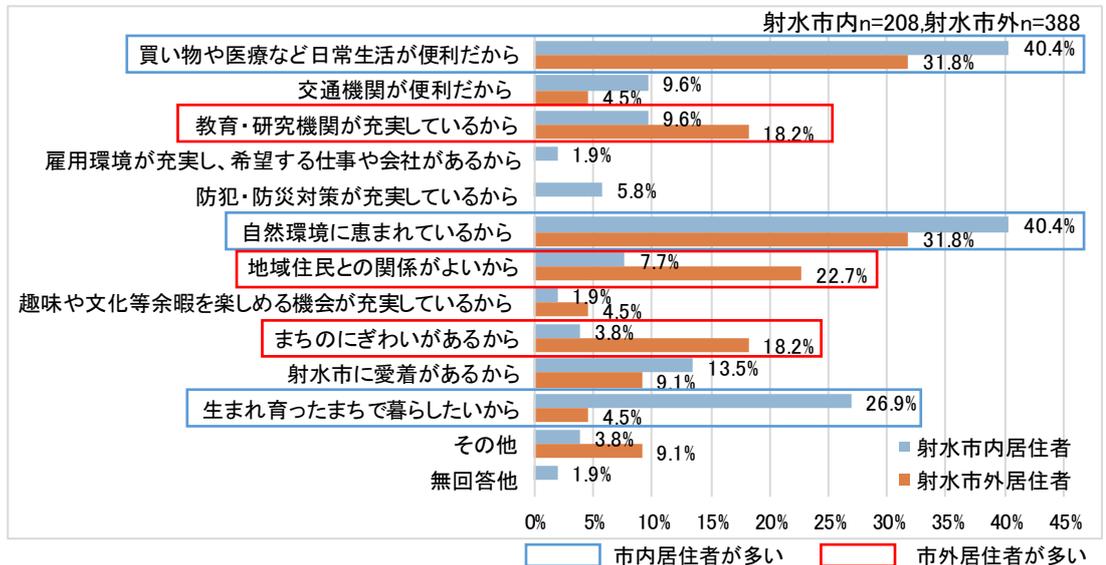
① 単純集計（学生）



② 男女別集計（学生）



③ 射水市内居住者・市外居住者別集計（学生）

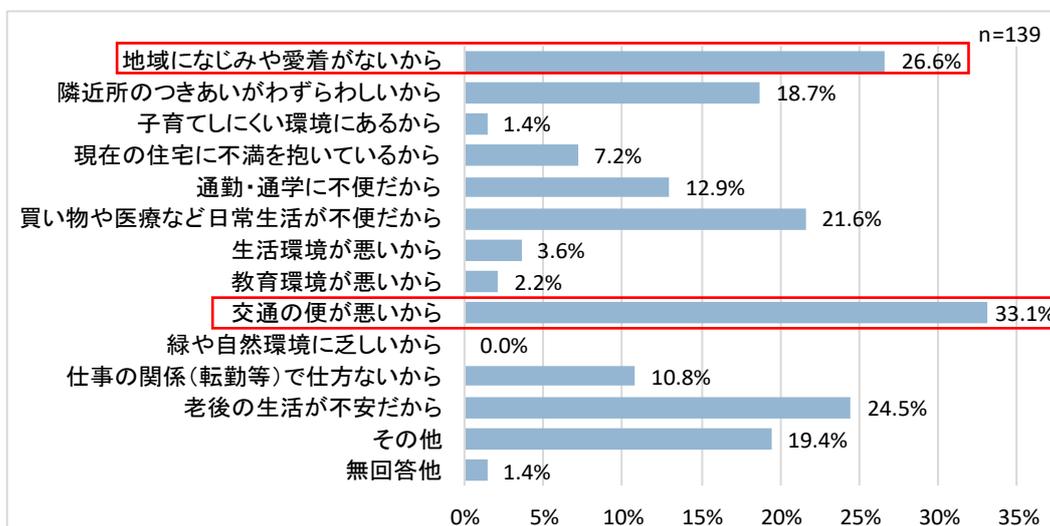


(4) 転居を希望する理由 (市民 Q10、高校生 Q19、学生 Q15)

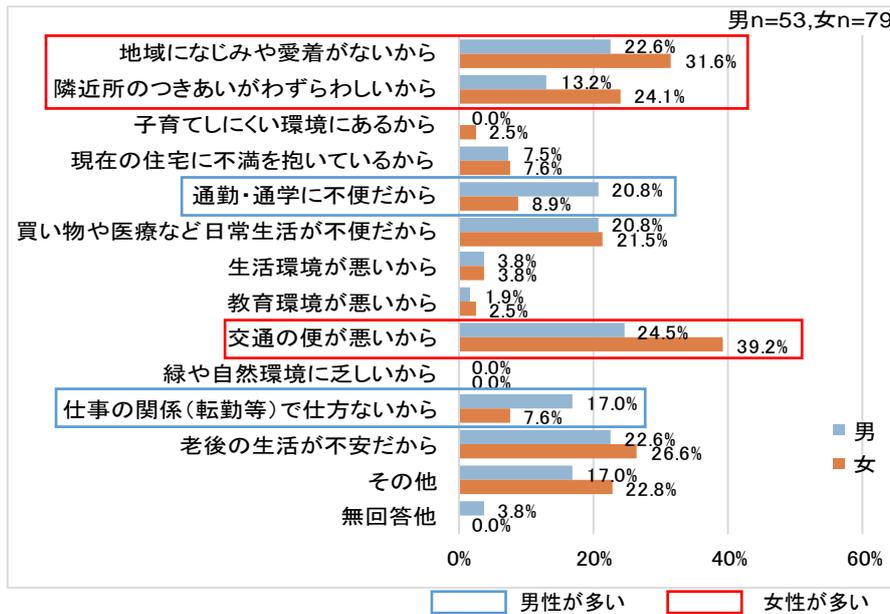
- ・市民アンケートでは「地域になじみや愛着がない」、「交通の便が悪い」が多く、高校生アンケートでは、「趣味や文化等余暇を楽しめる機会が不足している」が多く、学生アンケートでは「交通機関」や「買い物や医療など日常生活」の不便を多くあげている。(図 2-12①、図 2-13①、図 2-14①)
- ・男女別にみると、男性は「通勤・通学が不便」や「仕事の関係(転勤等)」が多いのに対し、女性は「地域への愛着のなさ」「近所つきあいのわずらわしさ」「交通・通学不便」が多い。(図 2-12②)
- ・市民アンケートで年齢別に比較すると、18歳から20歳代は「通勤・通学不便」、30歳代は「地域への愛着のなさ」、40歳代は「交通の不便」、50歳代は「老後の生活不安」、60歳代は「日常生活の不便」、70歳以上は「交通の不便」を多くあげている。(図 2-12③) また、地域別に比較すると、新湊地区、大島地区では「交通の不便」を、大門地区では「地域に愛着なし」、下地区では「日常生活不便」、小杉地区では「その他」が多い。(図 2-12④)
- ・学生アンケートにおいて射水市内居住者と市外居住者別にみると、射水市内居住者は「交通の不便」や「余暇を楽しむ機会の不足」などを多くあげ、市外居住者は「日常生活不便」や「まちの賑わいのなさ」「市への愛着のなさ」を多くあげている。(図 2-14)

図 2-12 転居希望の理由 (市民)

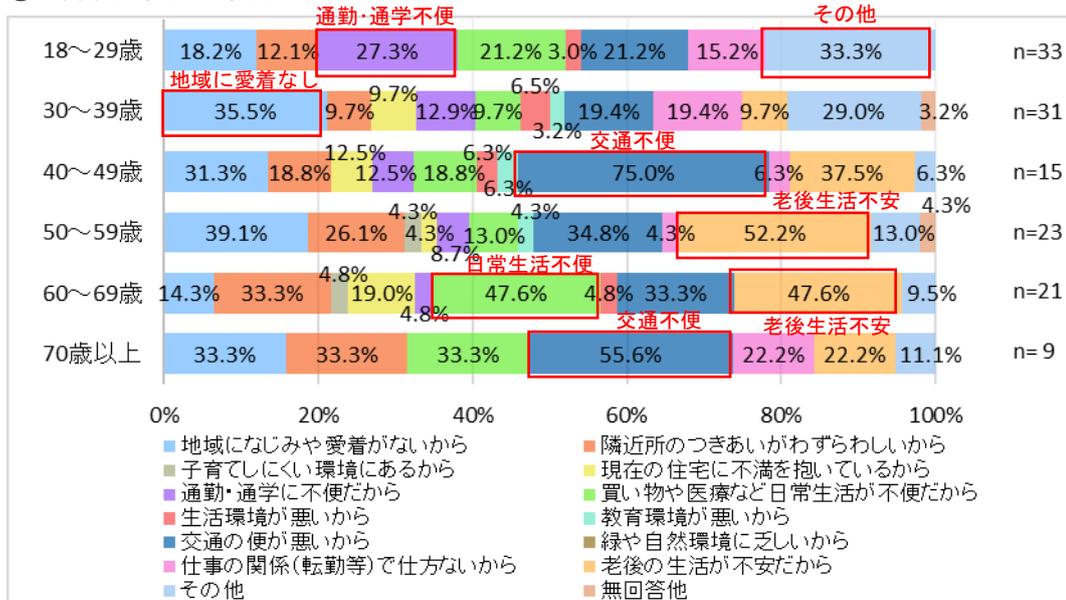
① 単純集計 (市民)



② 男女別集計（市民）



② 年齢別集計（市民）



③ 地域別集計（市民）

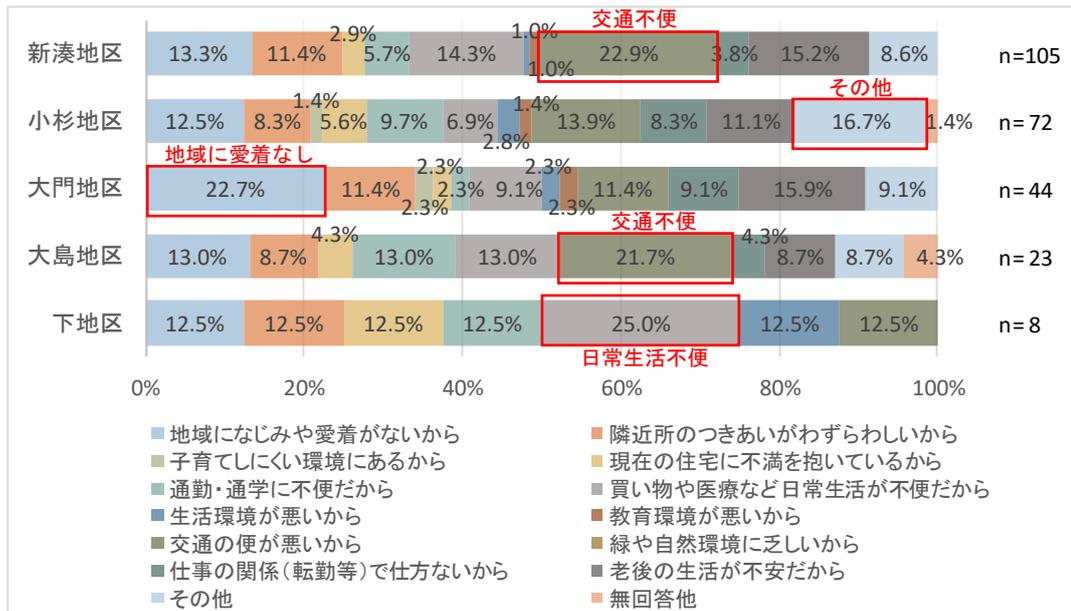


図 2-13 転居希望の理由（高校生）

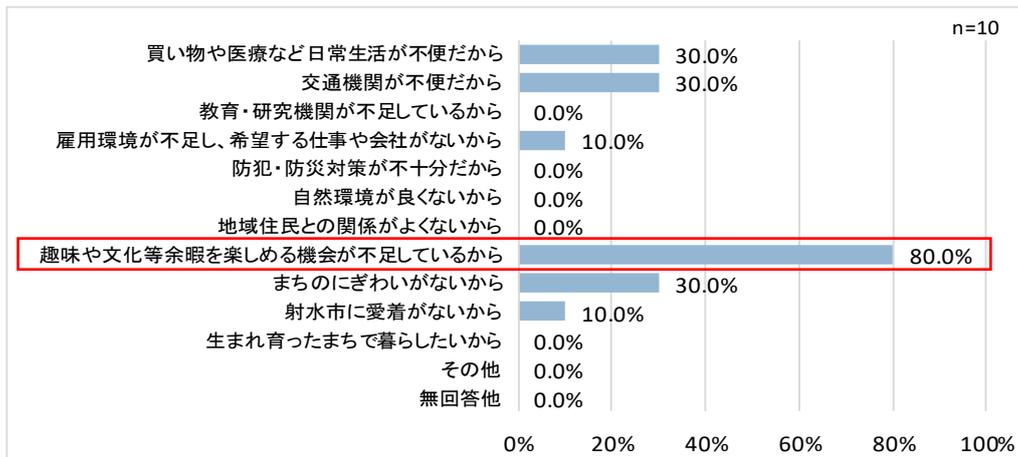
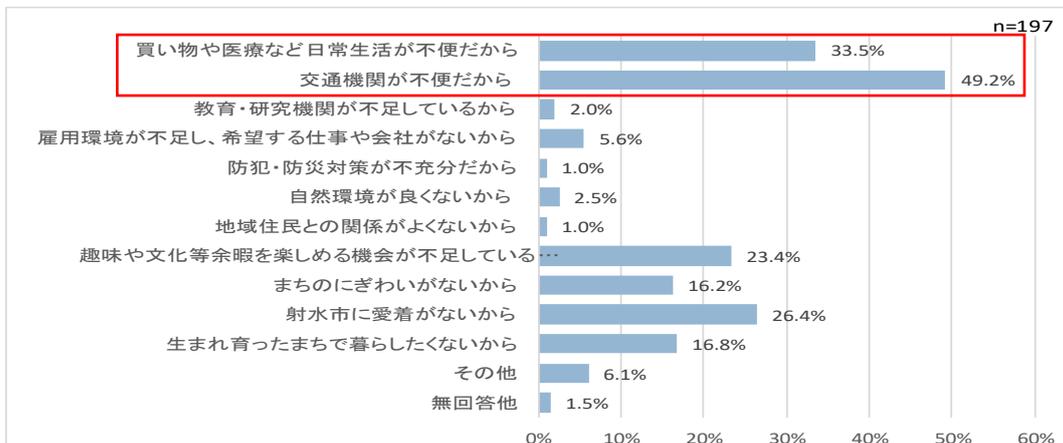
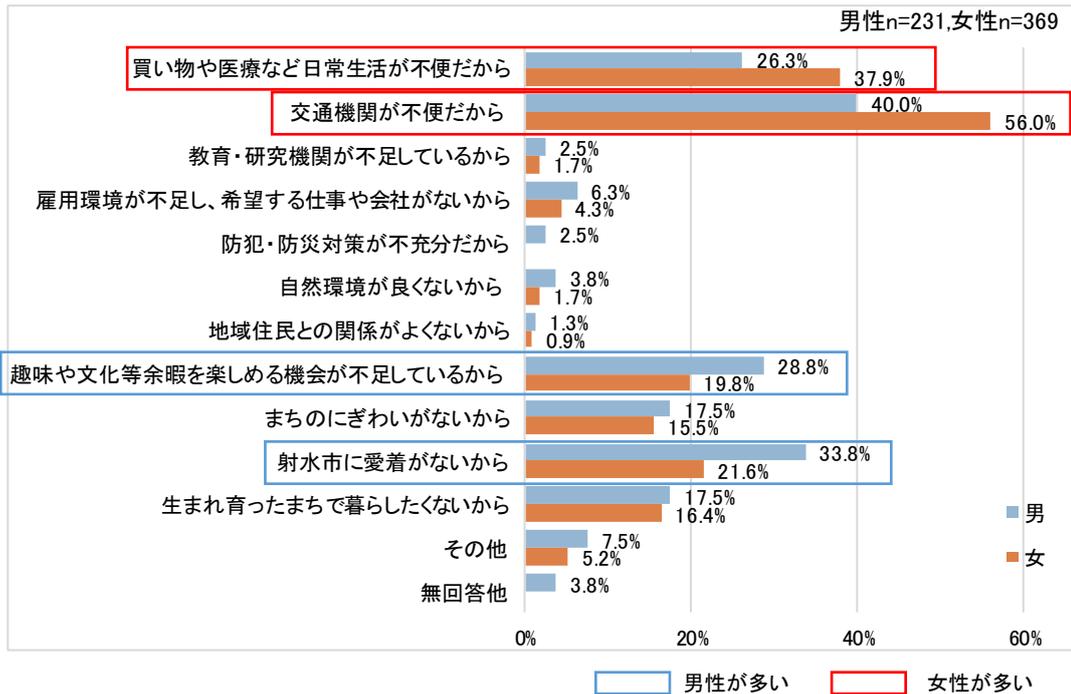


図 2-14 転居希望の理由（学生）

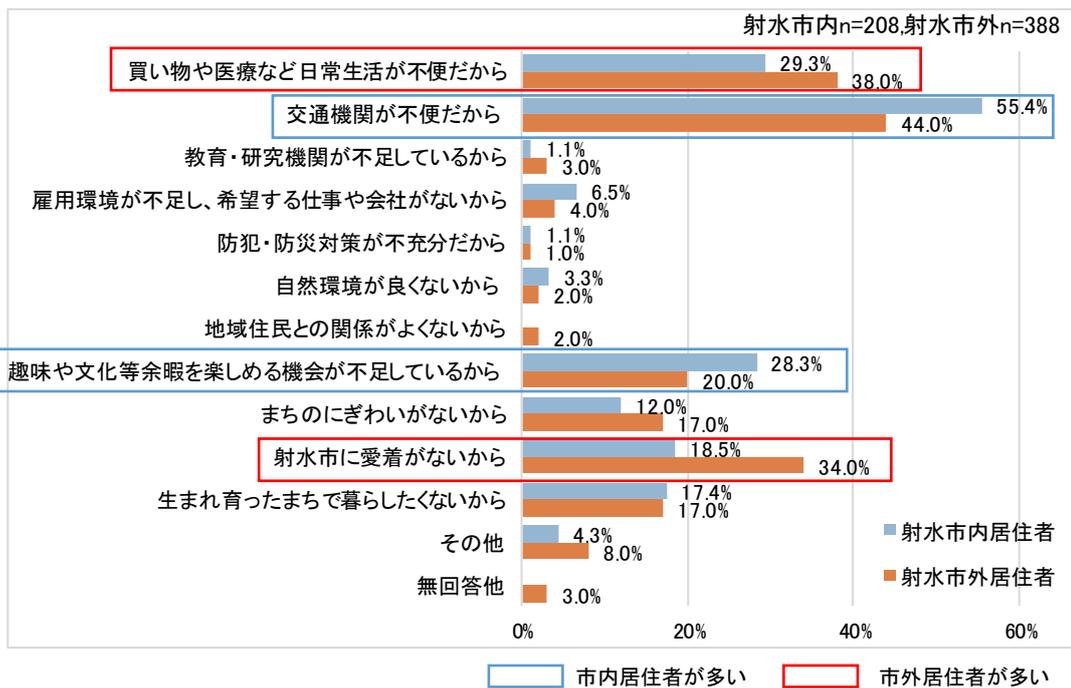
① 単純集計（学生）



② 男女別集計（学生）



③ 射水市内居住者・市外居住者別集計



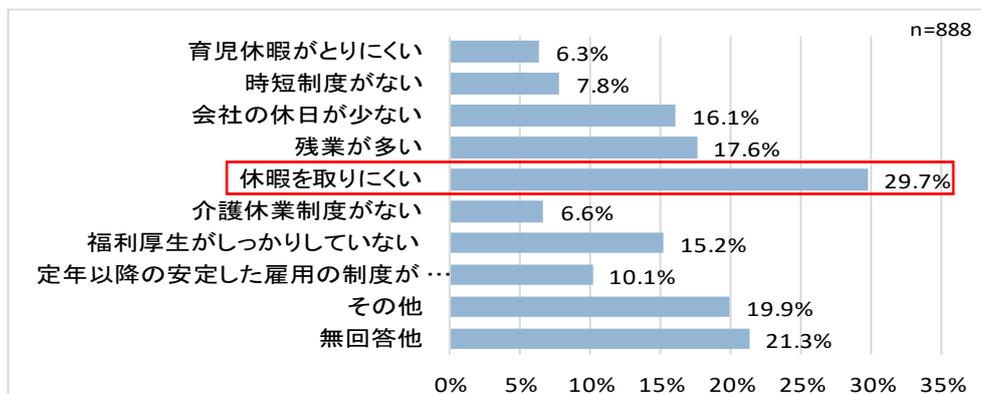
3 就労環境（市民）

（1）現在の職場環境の改善要望（市民）（市民 Q15）

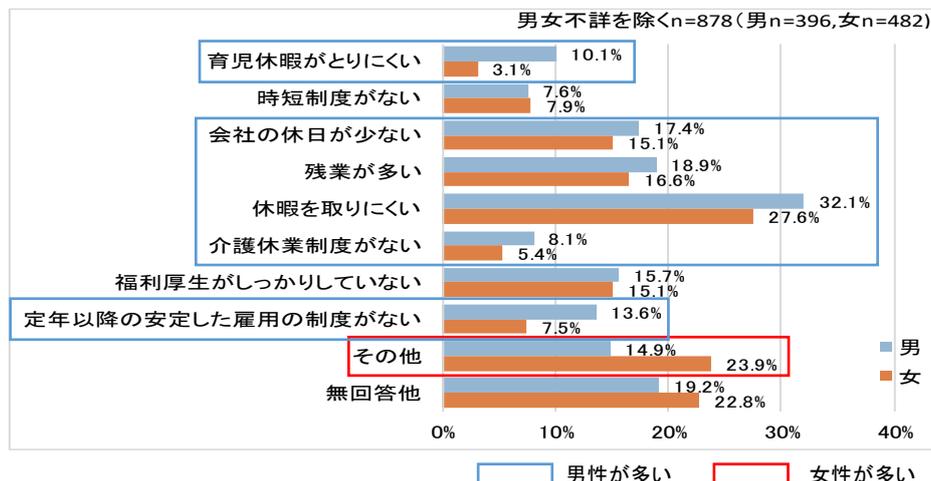
- ・「休暇を取りにくい」が最も多く、次いで「残業が多い」、「会社の休日が少ない」、「福利厚生がしっかりしていない」が多くあげられている。（図 2-15①）
- ・男女別にみると、休暇取得に関して女性より男性の方が取りにくいと答える比率が総体的に高い。（図 2-15②）
- ・年齢別にみると、18 歳～49 歳の若手～中堅世代にて休暇が取りにくく（「休日が少ない」「残業が多い」の回答も多い）、50 歳以降は年齢が高まるにしたがって取りにくい状況が低下している。年齢 20 歳台～30 歳台の子育て世代は、「育児休暇がとりにくい」が多く、50 歳台～60 歳台は「定年以降の安定した雇用の制度がない」が多い。（図 2-15③）
- ・会社（勤務先）の従業員規模別に比較すると、規模が大きいほど残業が多く、小さいほど福利厚生がしっかりしていな傾向が見られる。（図 2-15④）
- ・回答数（サンプル数）の比較的多い業種について職場環境を比較すると、「会社の休日が少ない」は建築・土木・建設関係、福祉・介護関係に比較的多く、「残業が多い」は公務員・団体職員、教育・保育関係に比較的多く、「休暇を取りにくい」はどの業種でも多いがとりわけ医療関係に比較的多く見られる。（図 2-15⑤）

図 2-15 改善して欲しい職場環境問題（市民）

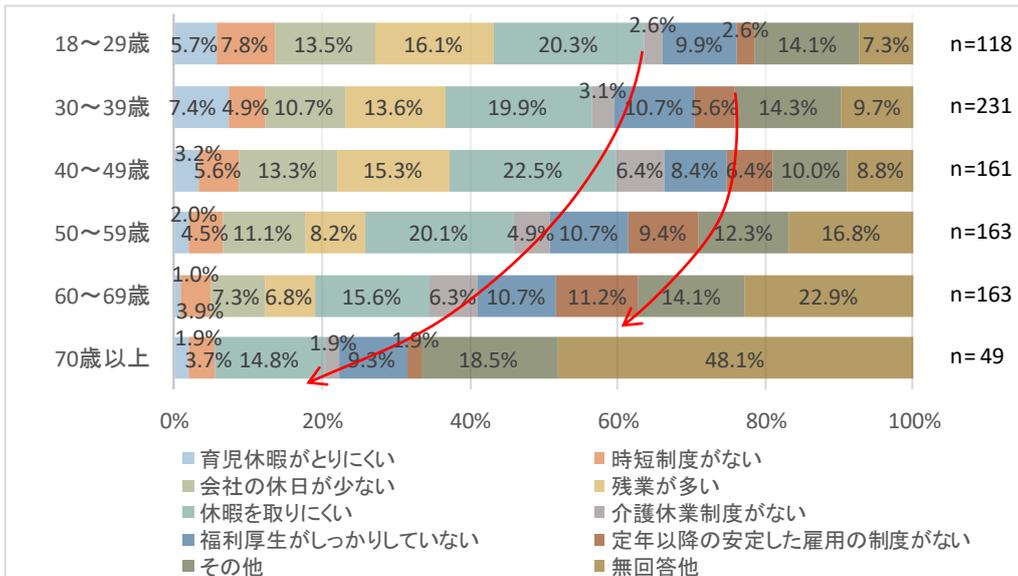
① 単純集計（市民）



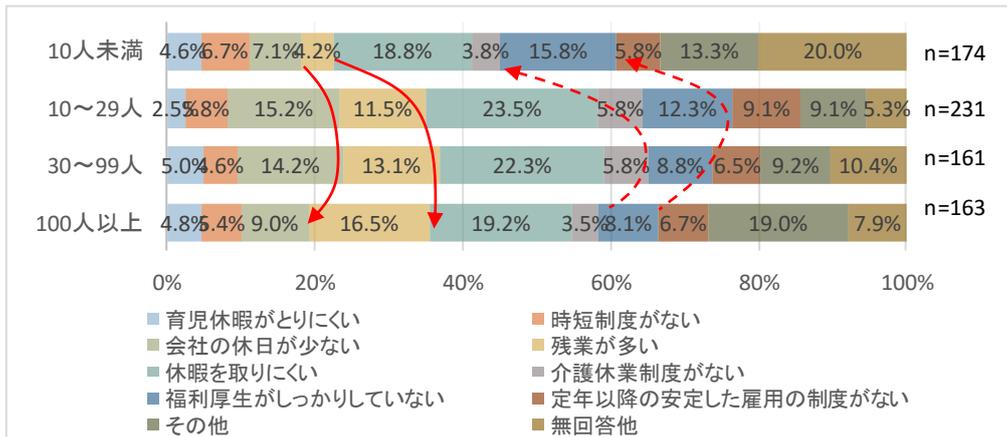
② 男女別集計（市民）



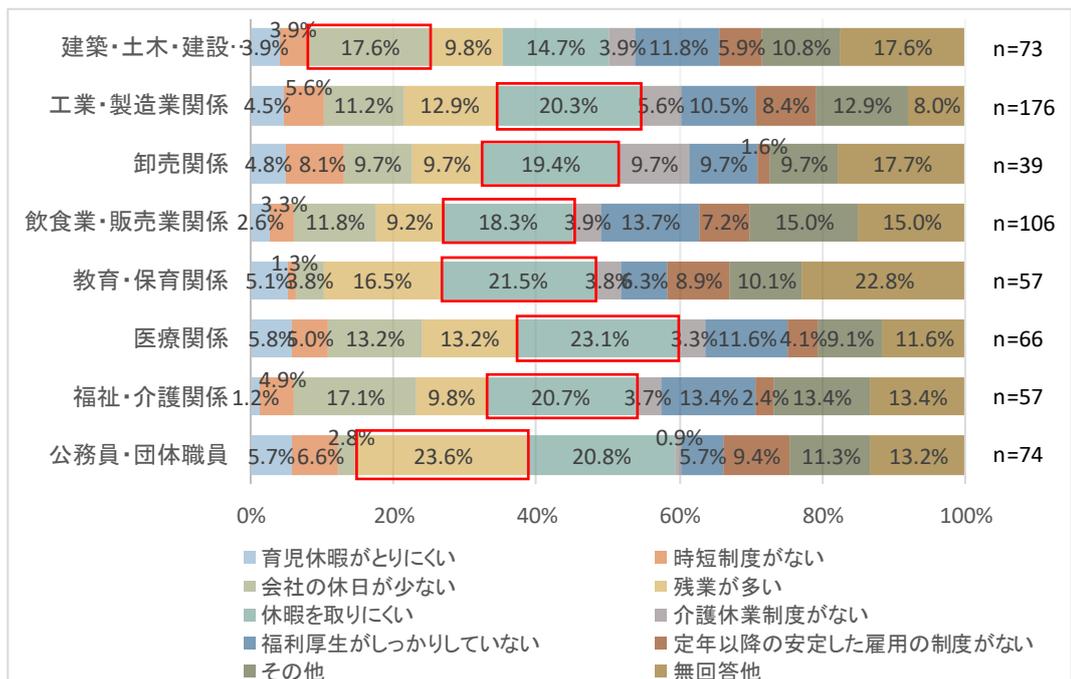
③ 年齢別集計（市民）



④ 会社規模別集計（市民）



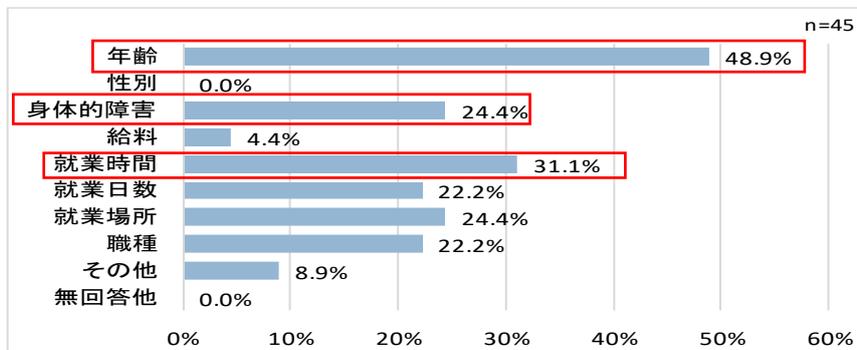
⑤ 主要な業種別集計（市民）



(2) 働きたいが条件に合う仕事がない理由 (市民) (市民 Q16.2)

- ・専業主婦 (主夫) や無職の人で、働く意欲がありながら、条件に合う仕事がないと答えた人の理由をみると、「年齢」が最も多く、次いで「就業時間」などとなっている。「身体的障害」にも注目される。

図 2-16 就業条件が合わない理由 (市民)

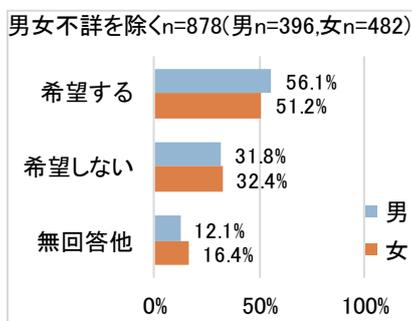


(3) 定年後の就労希望 (市民) (市民 Q14)

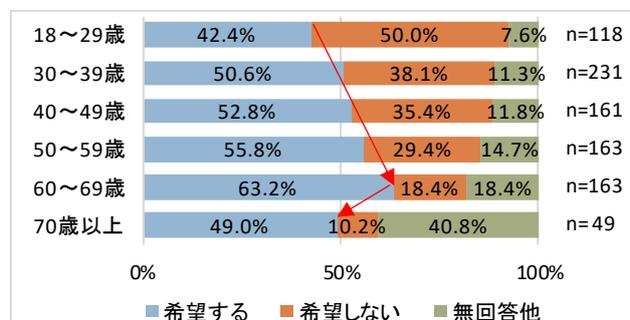
- ・男女とも半数以上の人定年後の就労を希望している。
- ・年齢別にみると、70歳未満の人は、年齢が高まるにしたがって定年後の就労を希望しており、70歳を超えると希望の割合が減っている。

図 2-17 定年後の就労希望 (市民)

① 男女別集計



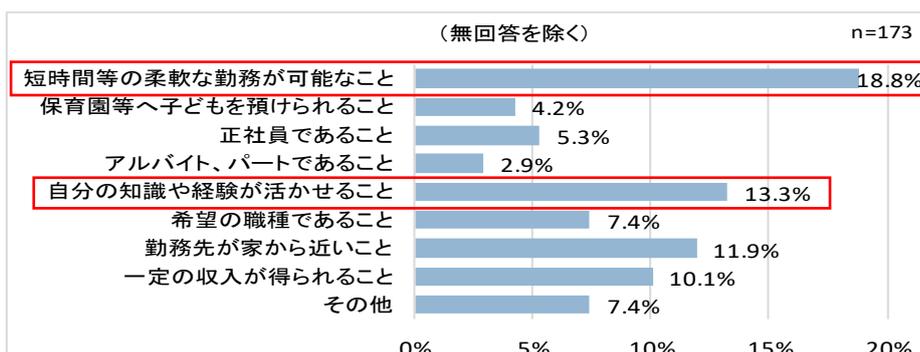
② 年齢別集計



(4) 働くために必要な条件 (市民) (市民 Q17)

- ・専業主婦 (主夫)、無職、学生の方は、働くために必要な条件として、「短時間の柔軟な勤務が可能」、「自分の知識や経験が活かせる」を多くあげている。

図 2-18 働くために必要な就業条件 (市民)

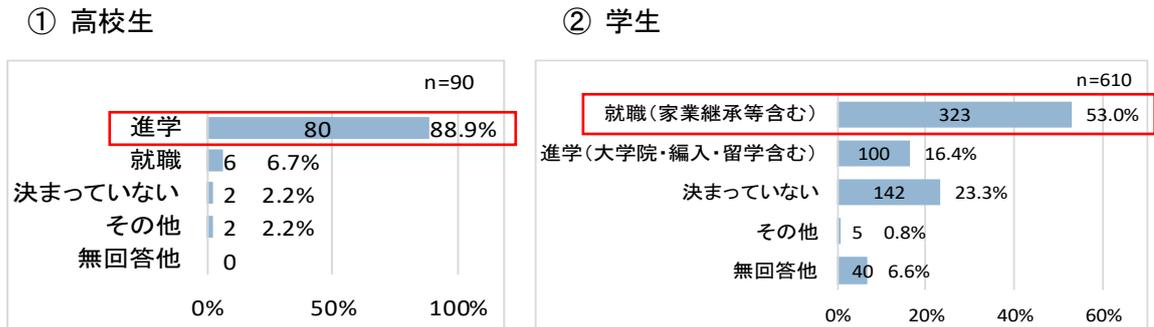


4 進路希望（高校生、学生）

（1）卒業後の進路希望（高校生・学生）（高校生 Q2、学生 Q2）

- ・高校生アンケートでは、「進学」88.9%、「就職」(6.7%)、「未定」(2.2%)となっている。
- ・学生アンケートでは、「就職」53.0%、「進学」16.4%、「未定」23.3%となっている。

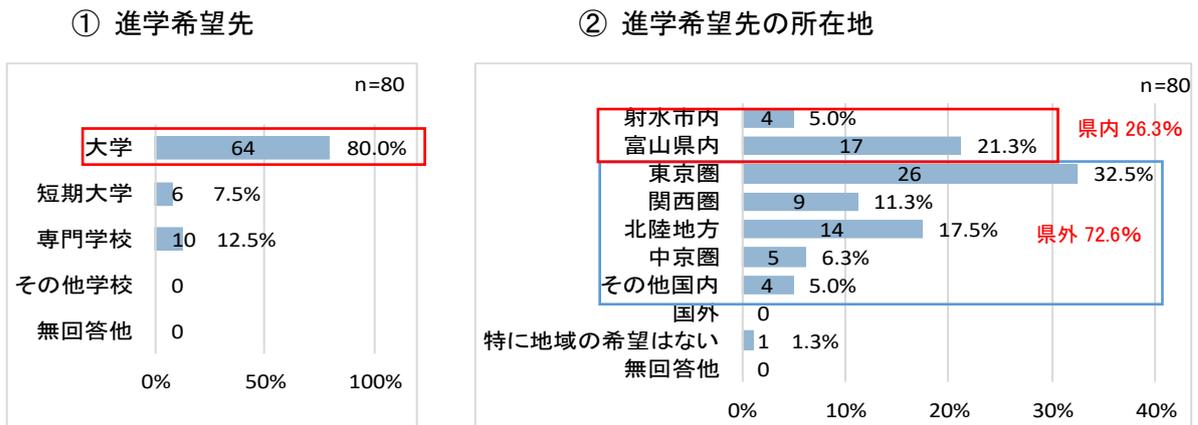
図 2-19 卒業後の進路希望（高校生、学生）



（2）進学希望先（高校生）（高校生 Q3, Q4）

- ・高校卒業後の進学先は、「大学」が80.0%と最も高く、「専門学校」12.5%、「短期大学」7.5%となっている。（図 2-20①）
- ・行き先は、射水市内も含めた富山県内の割合が26.3%に対し、県外の割合が72.6%になっており、中でも「東京圏」が32.5%を占めている。（図 2-20②）

図 2-20 進学希望先とその所在地（高校生）

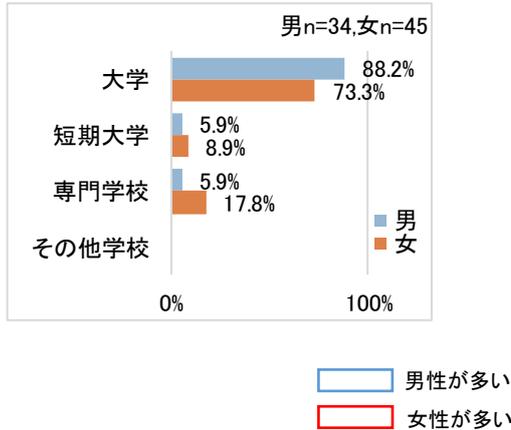


【男女別集計】

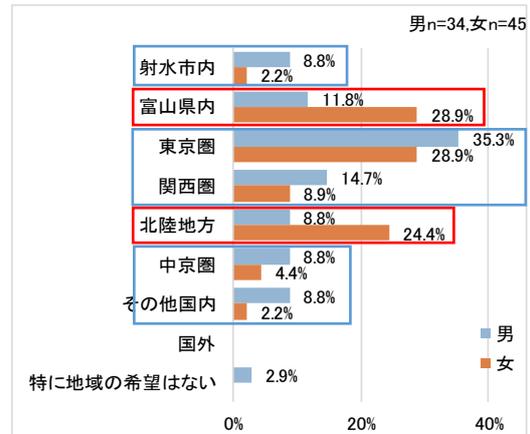
- ・男性は大学進学、女性は短期大学、専門学校への進学希望がやや多い。（図 2-21①）
- ・進学希望先で射水市内、東京圏、関西圏、中京圏、その他国内を答えた人は男性が多い。富山県内、北陸地方を答えた人は女性が多い。（図 2-21②）

図 2-21 進学希望先とその所在地（高校生）・・・男女別集計

① 進学希望先



② 進学希望先の所在地

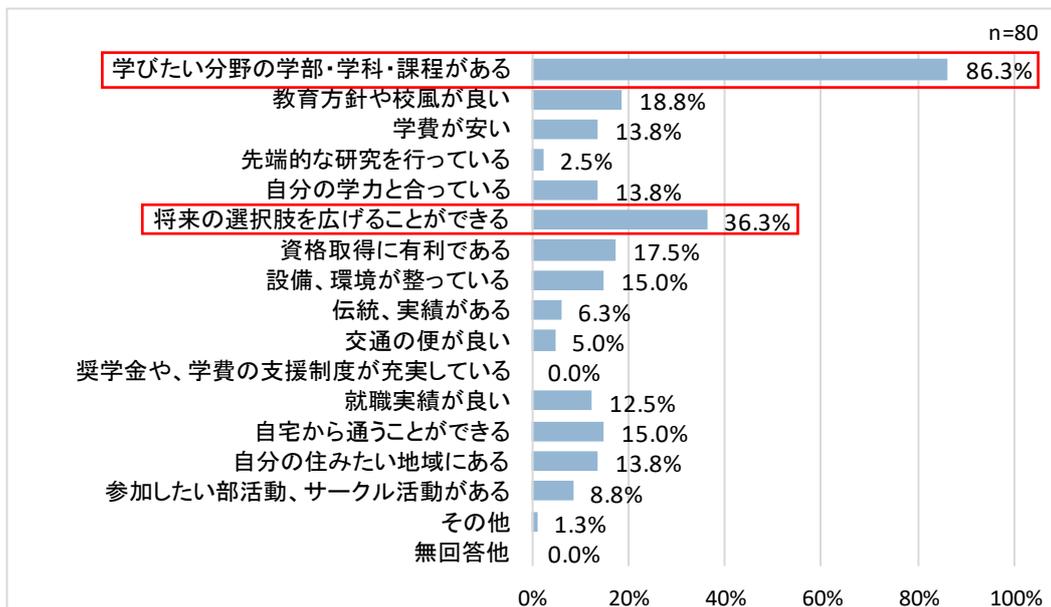


(3) 進学希望先の選択理由（高校生）（高校生 Q6, Q7）

- ・「学びたい分野の学部等がある」、「将来の選択肢を広げることが可能」を多くあげている。（図 2-22①）
- ・男女の違いに着目してみると、男性は「将来の選択肢を広げることができる」「設備、環境が整っている」「自分の学力と合っている」などを多くの方があげている。女性は「教育方針や校風が良い」「資格取得に有利である」「自宅から通うことができる」などを多くの方があげている。（図 2-22②）
- ・進路先の検討に際しての家族からの条件や希望について、男女の違いに着目してみると、「経済的に国公立のみ（学費の安い所のみ）」の条件は男女ともに多いが、男性の方が女性より多くあげている。女性は「富山県内の学校」「遠い地方は不可」「一人暮らしは不可」「就職は地元ですること」などを男性より多くあげている。（図 2-23）

図 2-22 進路希望先の選択理由（高校生）

① 単純集計（高校生）



② 男女別集計（高校生）

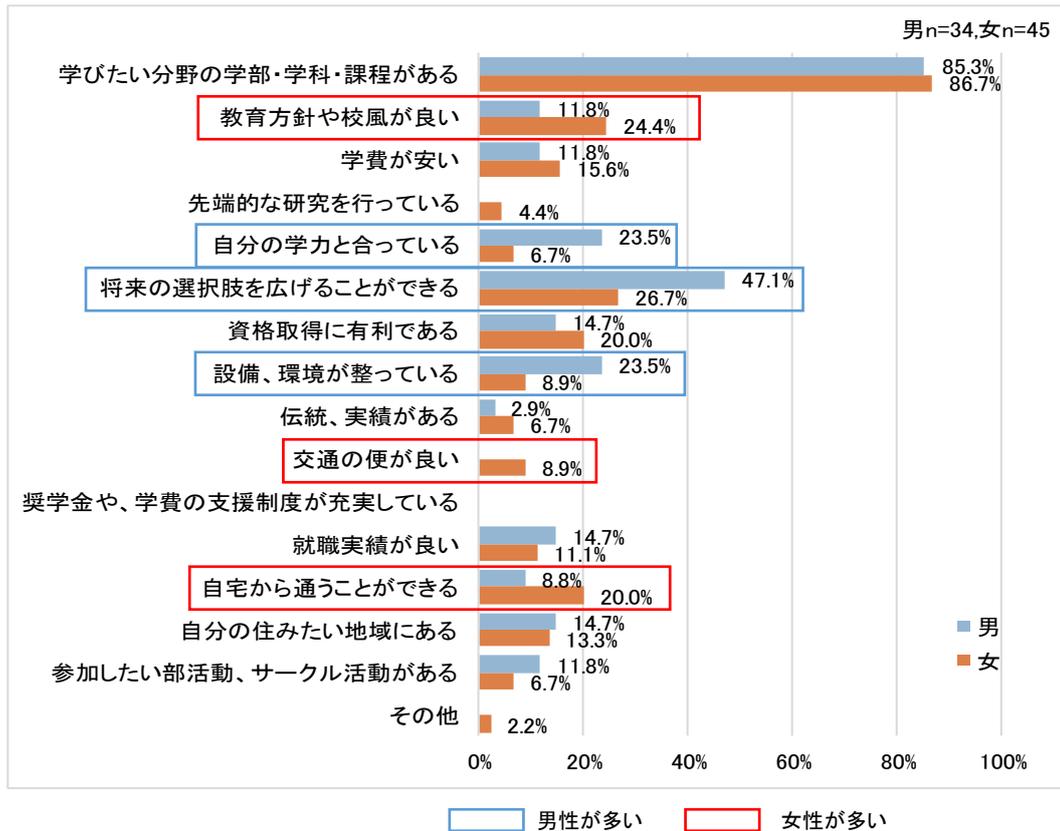
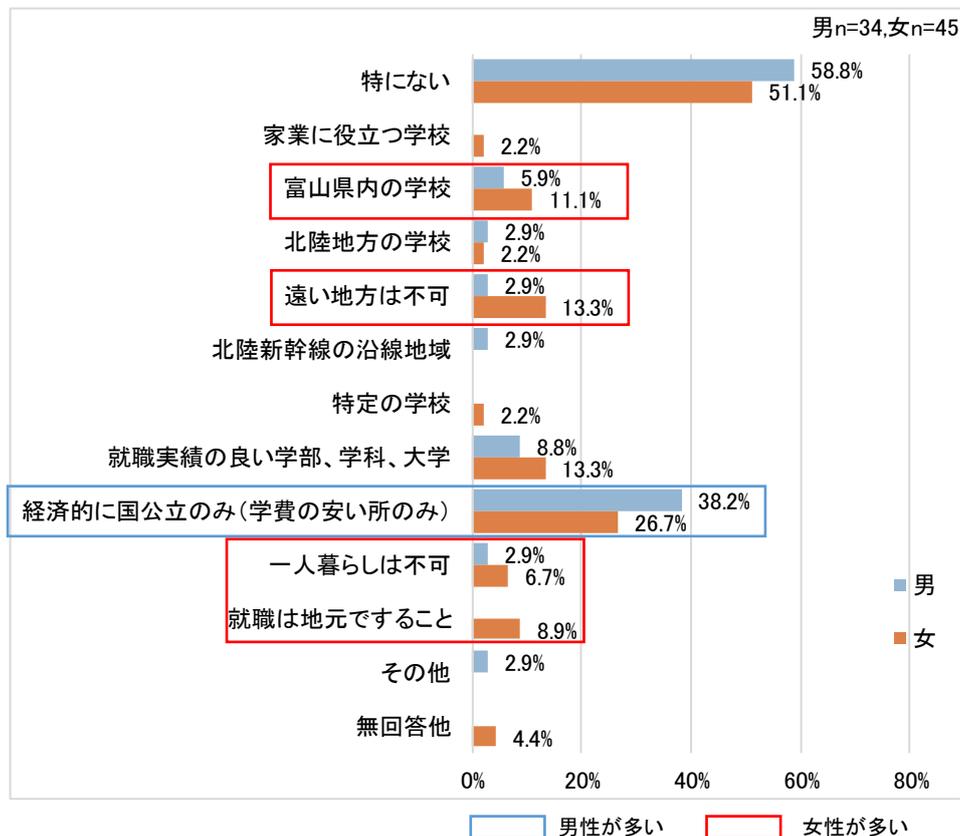


図 2-23 進路先の検討に際しての家族からの条件や希望（高校生）男女別



(4) 就職希望業種（高校生、学生）（高校生 Q8、学生 Q3）

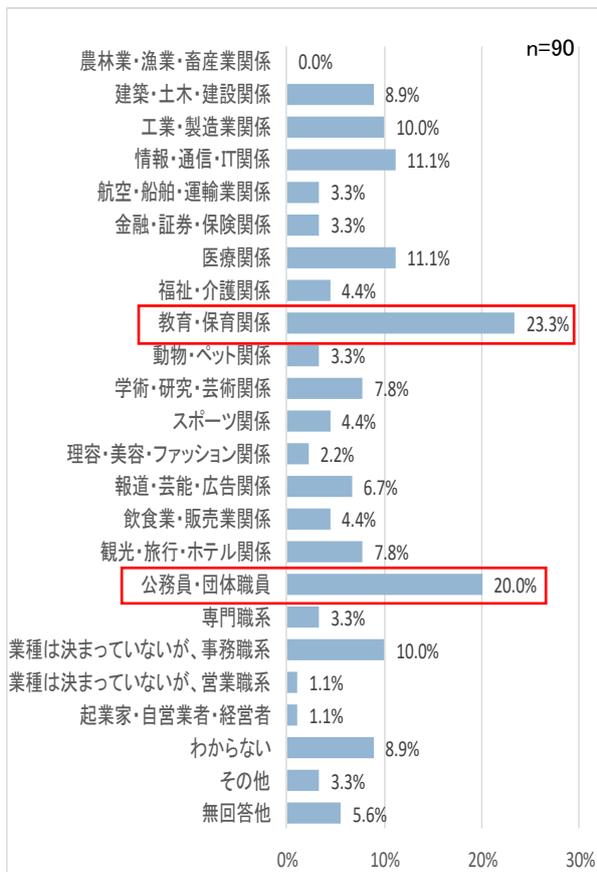
- ・高校生アンケートでは、「教育・保育関係」が最も多く、次いで「公務員・団体職員」となっている。射水市の強みである「工業・製造業関係」や成長産業である「情報・通信・IT関係」は比較的少ない。（図 2-24①）
- ・学生アンケートでは、「公務員・団体職員」を除いては、回答者が在籍する学部・学科に
関係の深い業種をあげている。具体的には「医療関係」や「IT関係」などの割合が高い。（図 2-24②）

【男女集計】

- ・高校生アンケートでは、男性は「建築・土木・建設関係」「工業・製造業関係」「情報・通信・IT関係」「公務員・団体職員」などが女性より多い。女性は「医療関係」「教育・保育関係」「観光・旅行・ホテル関係」などが男性より多い。（図 2-25①）
- ・学生アンケートでは、男性は「建築・土木・建設関係」「工業・製造業関係」「情報・通信・IT関係」が多い。女性は「医療関係」「福祉・介護関係」「教育・保育関係」が多い。また観光・旅行ホテル関係「公務員・団体職行く」も多い。（図 2-25②）

図 2-24 就職希望業種（高校生、学生）

① 高校生



② 学生

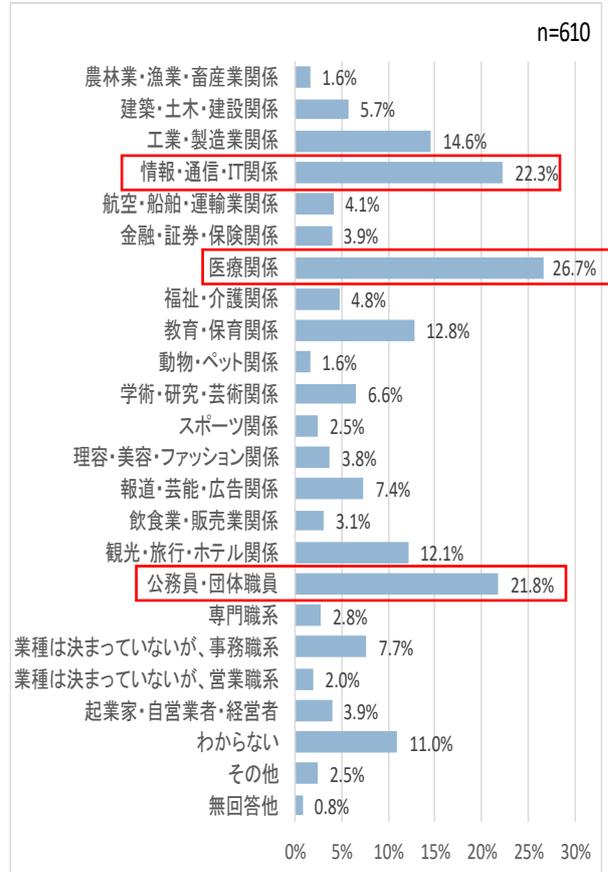
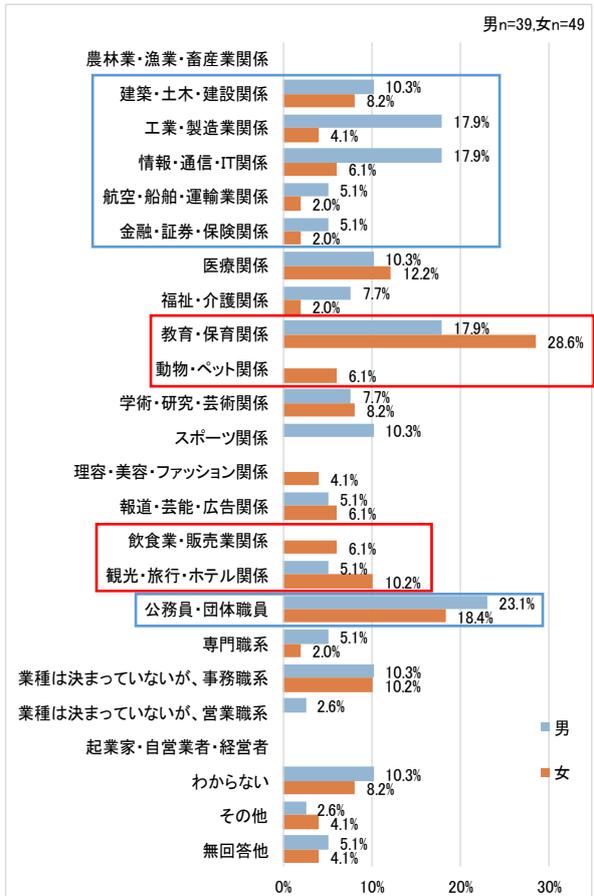
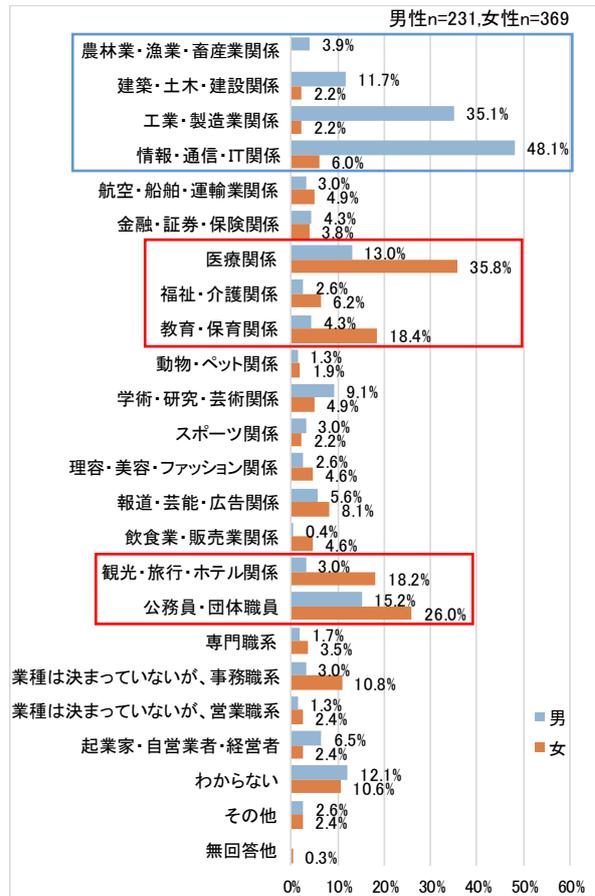


図 2-25 就職希望業種（高校生、学生）・・・男女別集計

① 高校生



② 学生



□ 男性が多い □ 女性が多い

(5) 就職希望地域（高校生、学生）（高校生 Q9、学生 Q4、）

- ・ 高校生アンケートでは、「射水市内」10.0%、「富山県内」33.3%、「富山県外」24.5%、「希望なし」26.7%となっている。「希望なし」の人を射水市内に積極的に取り込むような方策が重要と考えられる。(図 2-26①)

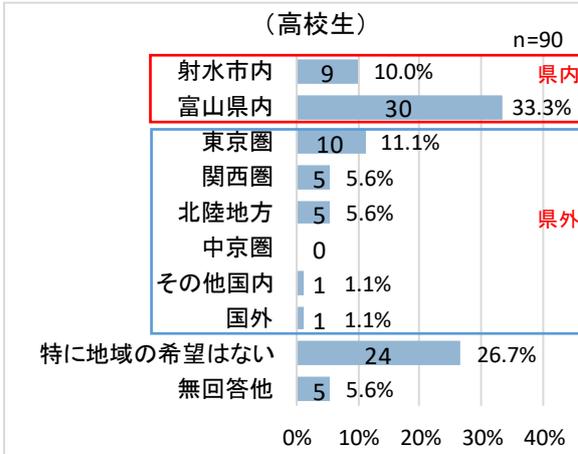
男女の違いに着目してみると、男性は「射水市内」「東京圏」「北陸地方」などが女性より多く、女性は「富山県内」などが男性より多い。(図 2-27①)

- ・ 学生アンケートでは、それぞれの学生の出身地を多く希望していることが特徴としてみられ、射水市出身者は20.3%の人が「射水市内」を希望しているのに対し、市外出身者のほとんどが「射水市内」を希望していない状況になっている。(図 2-26②)

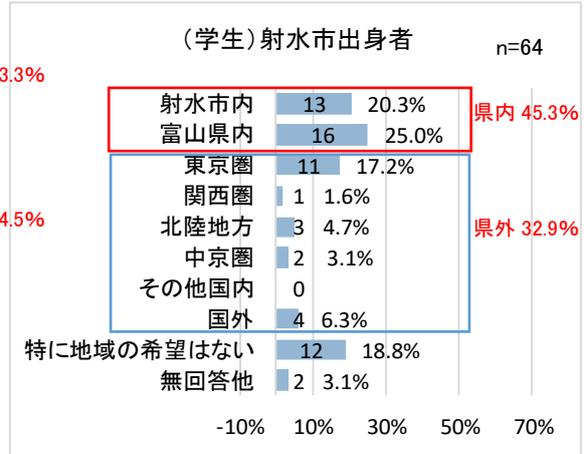
男女の違いに着目してみると、男性は「中京圏」「その他国内」、女性は「東京圏」「関西圏」「北陸地方」が多い。(図 2-27②)

図 2-26 就職希望地域（高校生、学生）

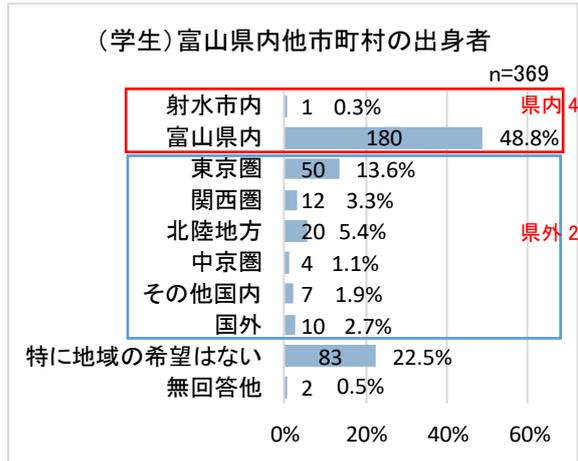
① 高校生



② 学生（射水市出身者）



③ 学生（富山県他市町村出身者）



④ 学生（富山県外出身者）

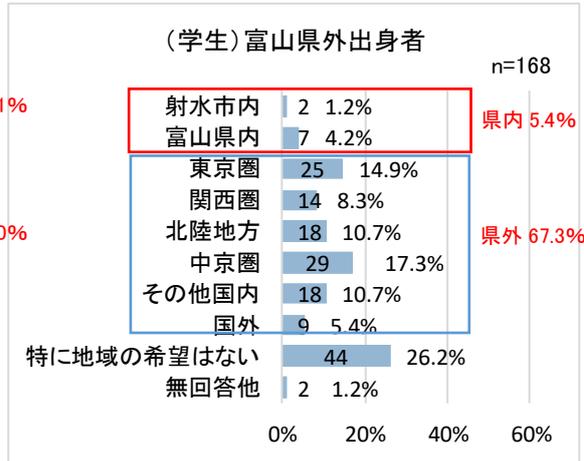
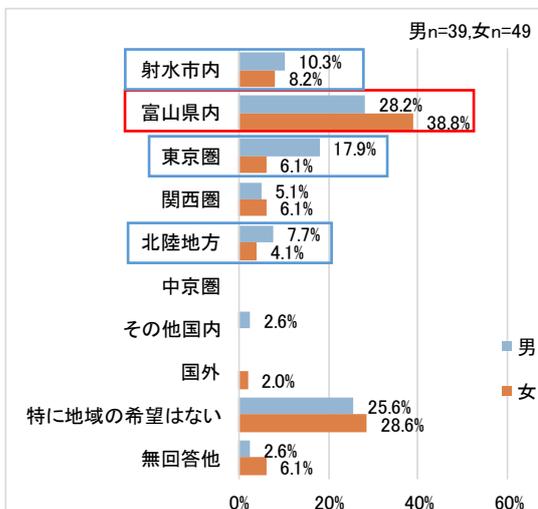
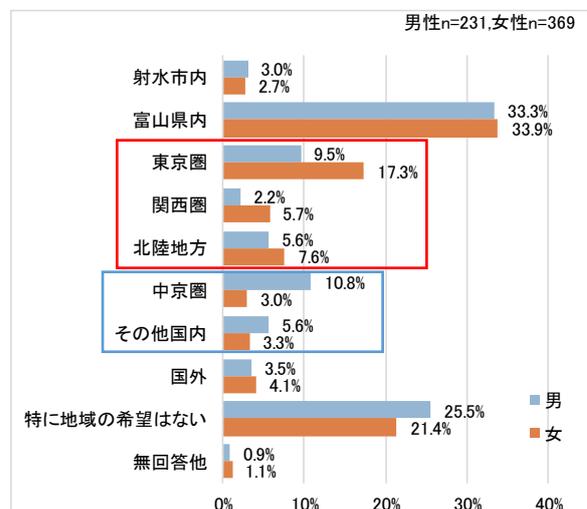


図 2-27 就職希望地域（高校生、学生）・・・男女別

① 高校生



② 学生



男性が多い 女性が多い

【就職希望業種と就職希望地域とのクロス集計】

○学生アンケート

- ・射水市内及び県内希望者（実数）の多い業種は、「医療関係」「情報・通信・IT関係」「教育・保育関係」「工業・製造業関係」「福祉・介護関係」「公務員・団体職員」「事務職系」「建築・土木・建設関係」などとなっている。（図 2-28①）
- ・県外希望者（実数）の多い業種は、「公務員・団体職員」「医療関係」「観光・旅行・ホテル関係」「情報・通信・IT関係」などとなっている。（図 2-28①）
- ・業種ごとの希望先別構成比でみると、射水市を含む富山県内希望 50%以上の業種は「教育・保育関係」のみとなっている。一方県外希望 50%以上の業種は「飲食業・販売業関係」「公務員・団体職員」「金融・証券・保険関係」「利用・美容・ファッション関係」「事務職系」「専門職系」「医療関係」「建築・土木・建設関係」などとなっている。（図 2-28②）

学生アンケート（就職希望業種と就職希望地域とのクロス集計）・・・回答数

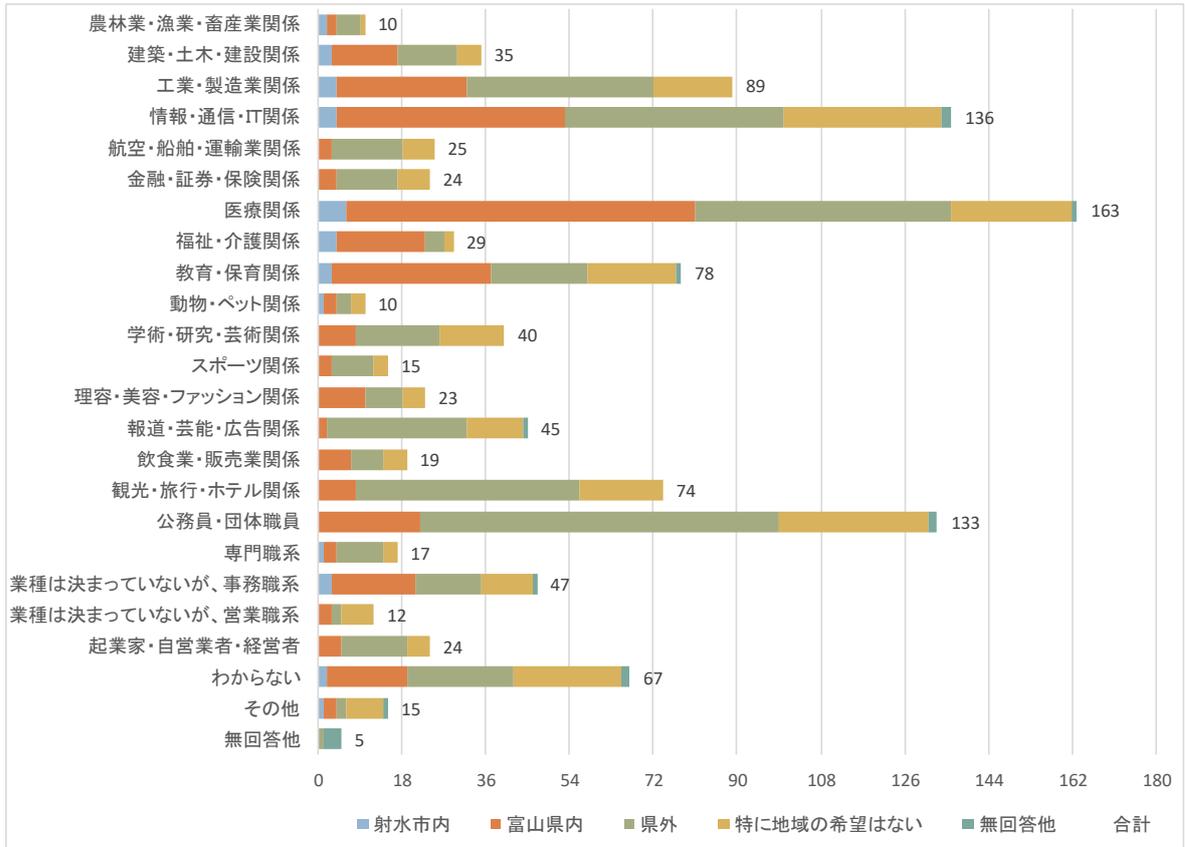
就職希望業種	就職希望地域		県外									特に地域の希望なし	無回答他	合計
	射水市内	富山県内	計	東京圏	関西圏	北陸地方	中京圏	その他国内	国外					
農林業・漁業・畜産業関係	2	2	5	1	1	1	0	1	1	1	1	0	10	
建築・土木・建設関係	3	14	13	2	0	5	3	2	1	5	0	35		
工業・製造業関係	4	28	40	8	2	3	18	8	1	17	0	89		
情報・通信・IT関係	4	49	47	15	3	8	10	9	2	34	2	136		
航空・船舶・運輸業関係	0	3	15	2	4	2	2	2	3	7	0	25		
金融・証券・保険関係	0	4	13	8	2	0	1	1	1	7	0	24		
医療関係	6	75	55	15	3	18	8	7	4	26	1	163		
福祉・介護関係	4	19	4	1	0	2	0	1	0	2	0	29		
教育・保育関係	3	34	21	10	2	2	3	1	3	19	1	78		
動物・ペット関係	1	3	3	1	1	1	0	0	0	3	0	10		
学術・研究・芸術関係	0	8	18	6	4	0	3	3	2	14	0	40		
スポーツ関係	0	3	9	4	0	2	0	0	3	3	0	15		
理容・美容・ファッション関係	0	10	8	3	2	0	0	2	1	5	0	23		
報道・芸能・広告関係	0	2	30	16	7	2	1	1	3	12	1	45		
飲食業・販売業関係	0	7	7	6	1	0	0	0	0	5	0	19		
観光・旅行・ホテル関係	0	8	48	18	11	4	3	2	10	18	0	74		
公務員・団体職員	0	22	77	34	12	10	6	10	5	32	2	133		
専門職系	1	3	10	2	3	1	0	1	3	3	0	17		
業種は決まっていないが、事務職系	3	18	14	8	0	1	3	2	0	11	1	47		
業種は決まっていないが、営業職系	0	3	2	1	0	0	0	0	1	7	0	12		
起業家・自営業者・経営者	0	5	14	2	4	0	0	2	6	5	0	24		
わからない	2	17	23	6	3	5	3	2	4	23	2	67		
その他	1	3	2	1	1	0	0	0	0	8	1	15		
無回答他	0	0	1	1	0	0	0	0	0	4	5	5		
合計	34	340	479	171	66	67	64	57	54	267	15	1135		

○高校生アンケート

- ・全体のサンプル数が少ないので、10人以上が回答した業種についてみると、射水市を含む富山県内を希望する割合が 50%を超えているのは「医療関係」のみで、他の業種は県外希望が多い。（図 2-29②）

図 2-28 就職希望業種と就職希望地域（学生）

① 業種別希望地域別回答実数（学生）



② 業種別希望地域別回答構成比（学生）

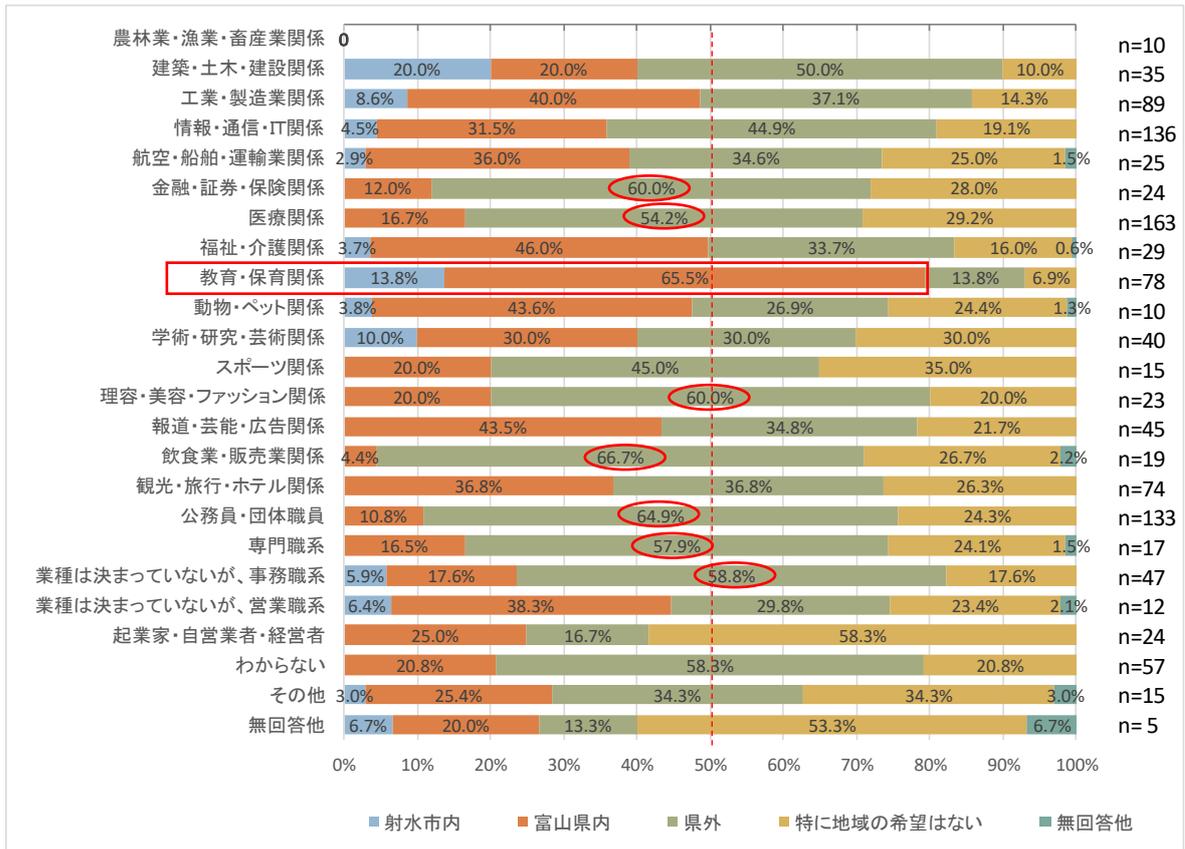
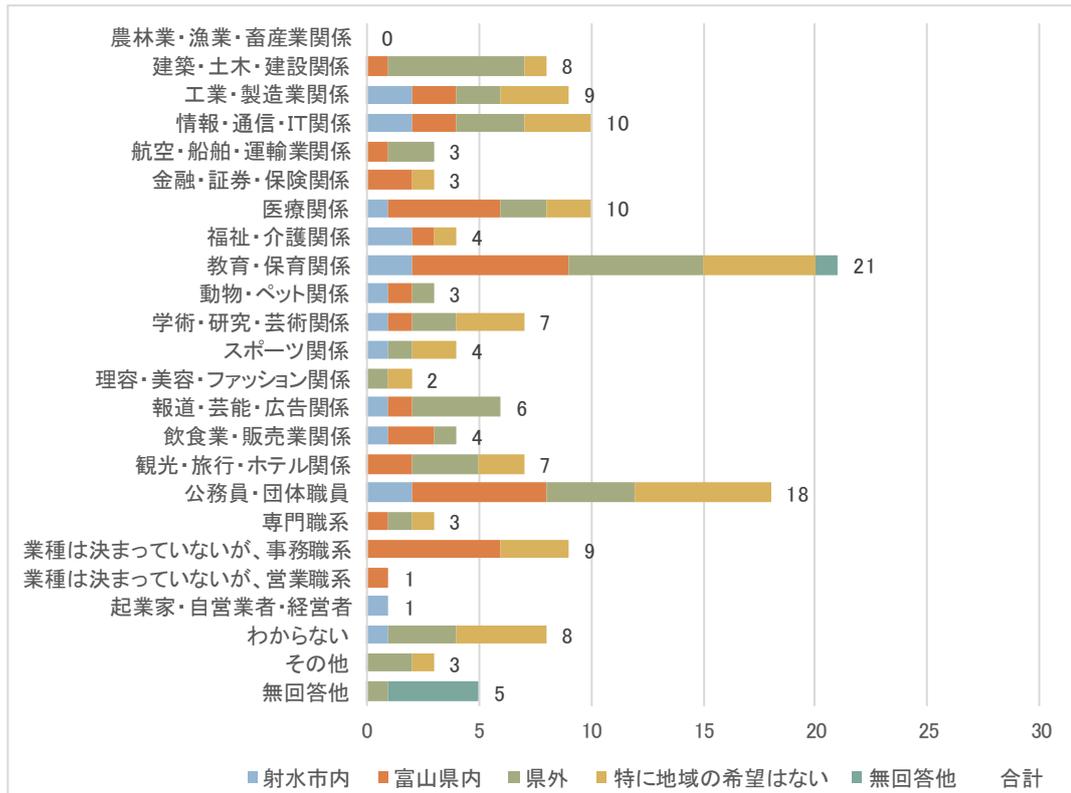
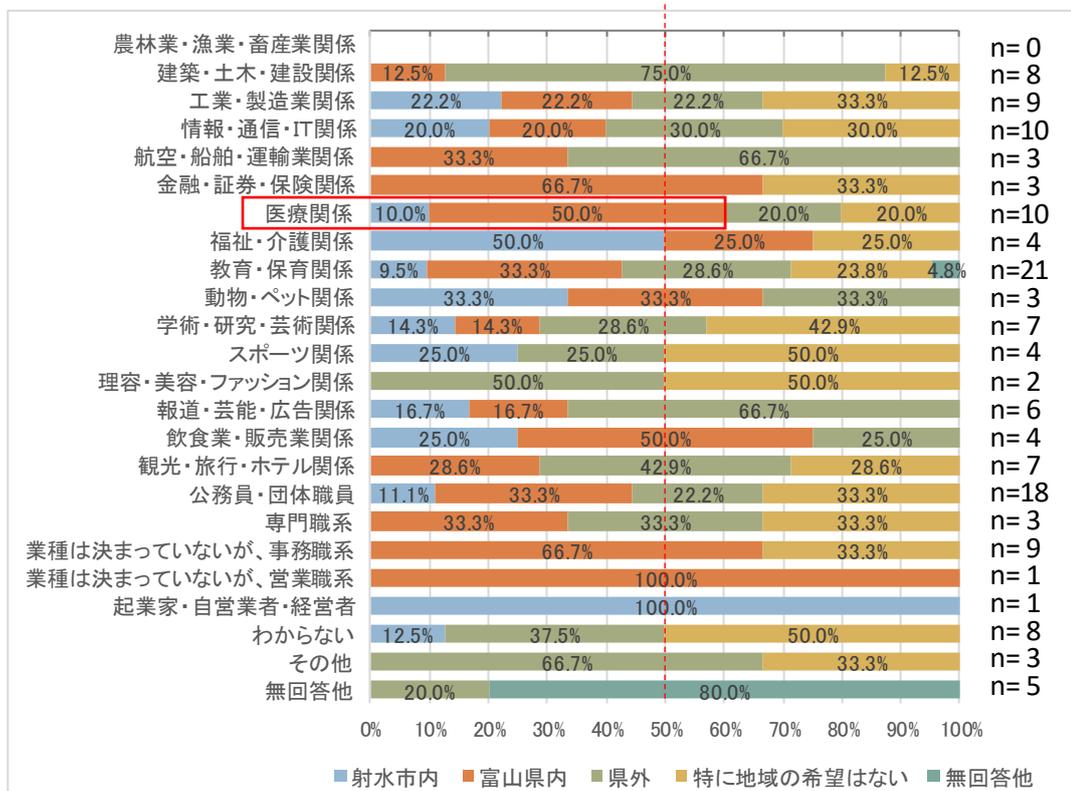


図 2-29 就職希望業種と就職希望地域（高校生）

① 業種別希望地域別回答実数（高校生）



② 業種別希望地域別回答構成比（高校生）

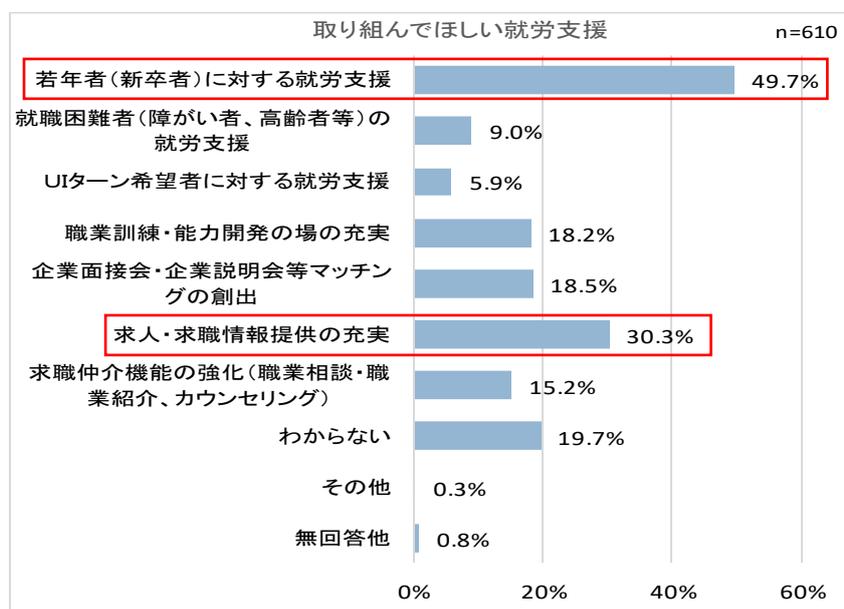


(6) 就労への支援（学生）（学生 Q7）

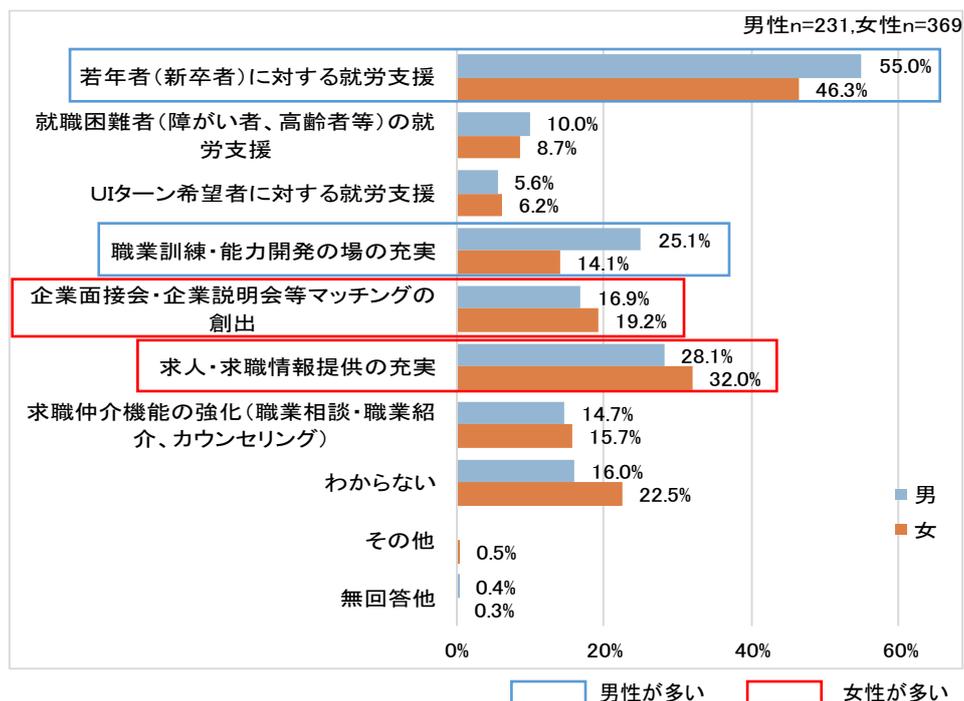
- ・全体では「若年者（新卒者）に対する就労支援」「求人・給食情報提供の充実」などが多くあげられている。（図 2-30①）
- ・男女別にみると、男性は「若年者（新卒者）に対する就労支援」「職業訓練・能力開発の場の充実」が多く、女性は「企業面接会・企業説明会等のマッチングの創出」「求人・給食情報提供の充実」が多い。総じて男性は能力開発等の支援、女性は情報提供等を求めていると捉えられる。（図 2-30②）

図 2-30 取り組んでほしい就労支援（学生）

① 単純集計（学生）



② 男女別集計（学生）



5 結婚

(1) 結婚希望 (市民 Q18, Q19、高校生 Q12、学生 Q8)

- 市民アンケートでは、「既婚者」及び「結婚予定者」・「結婚希望者」を含めた割合が 83.0% であり、「結婚するつもりがない」が僅か 4.0% である。(図 2-31)
「結婚希望者」の結婚希望年齢は「25～29 歳まで」が 45.0%、「30～34 歳まで」が 24.4% などとなっている。(図 2-32①)
- 高校生アンケートでは、結婚希望者の割合が 79.0% で、「結婚したいと思わない」人が 6.7% で市民アンケートよりやや多い。(図 2-32②)
- 学生アンケートでは、結婚希望者の割合が 78.9% で、「結婚したいと思わない」人が 8.2% で市民アンケートよりやや多い。(図 2-32③)
- 男女別にみると、女性は 25 歳まで早めの結婚を多く望み、男性は時期の目標はもたず「いずれ」を多くあげている。また男性は「結婚したいと思わない」や「わからない、関心がない」も女性より多くあげている。図 2-32①②③)

図 2-32 結婚希望 (市民)

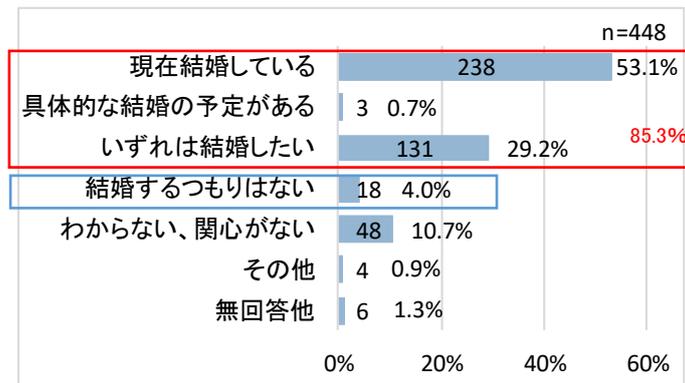
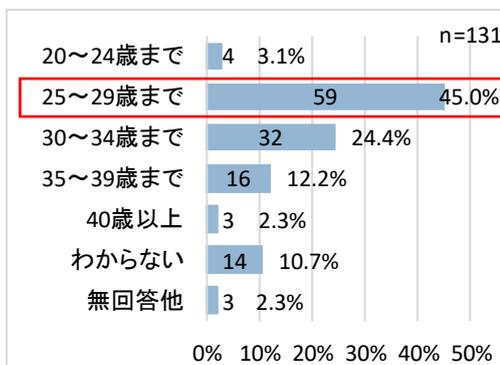
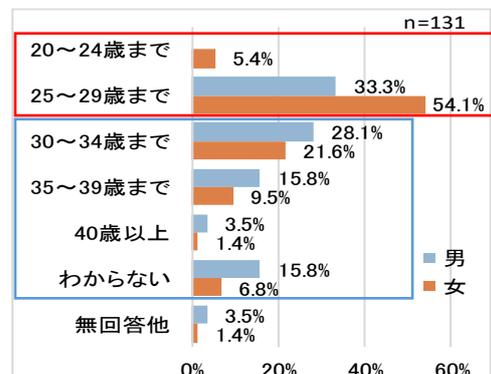


図 2-32 結婚希望年齢 (市民、高校生、学生)

① 市民 (単純集計)

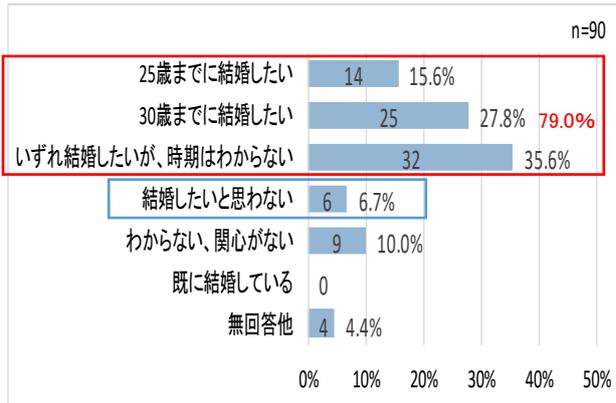


市民 (男女別集計)

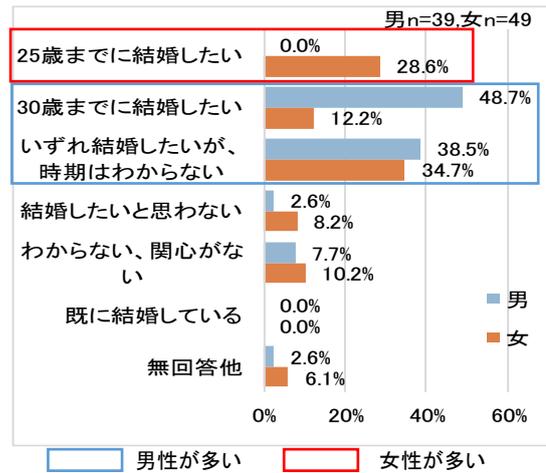


□ 男性が多い □ 女性が多い

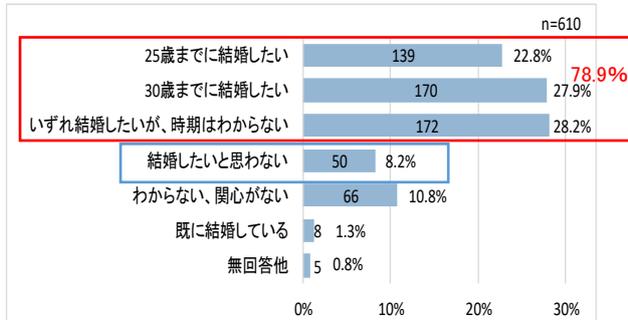
② 高校生（単純集計）



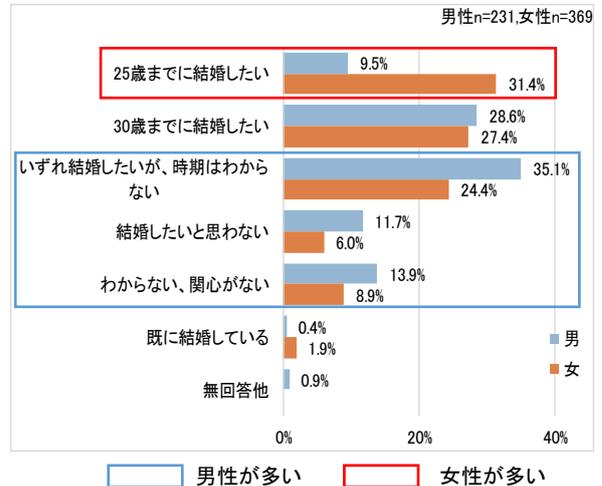
高校生（男女別集計）



③ 学生（単純集計）



学生（男女別集計）

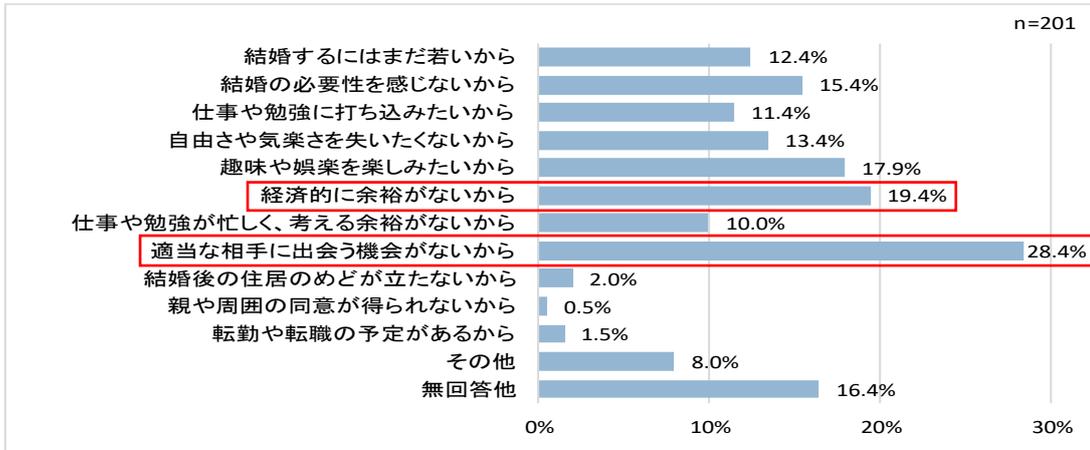


(2) 結婚していない、希望しない理由（市民）（市民 Q20）

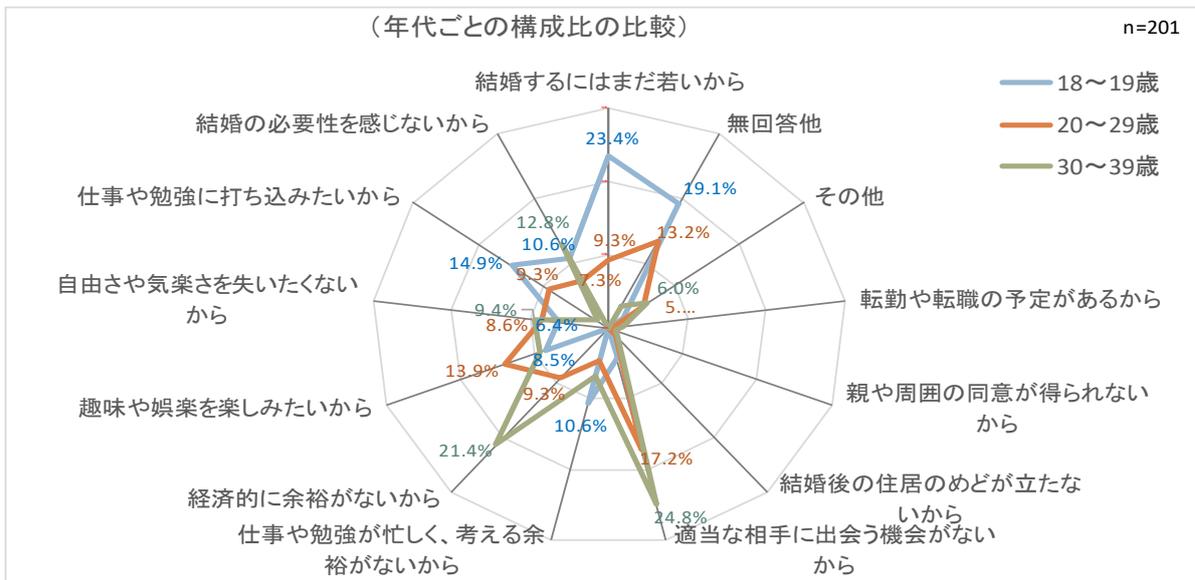
- ・「適当な相手に出会う機会がない」が最も多く、次いで「経済的余裕がない」、「趣味や娯楽を楽しみたい」が多い。（図 2-33①）
- ・年齢別の違いに着目すると、10代は「まだ若い」「仕事や勉強に打ち込みたい」が多く、20代は「趣味や娯楽を楽しみたい」が多く、30代は「経済的に余裕がない」「出会う機会がない」が多くなっている。（図 2-33②）
- ・男女別の違いに着目すると、男性は女性に比べ「経済的に余裕がない」が顕著に見られる。（図 2-33③）

図 2-33 結婚しない理由（市民）

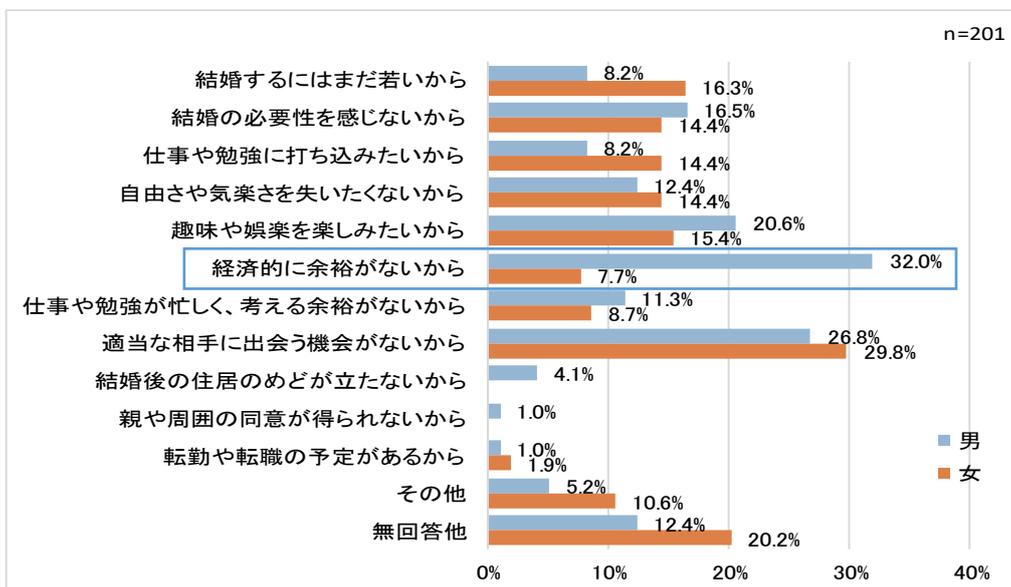
① 単純集計（市民）



② 年代別集計（市民）



③ 男女別集計（市民）

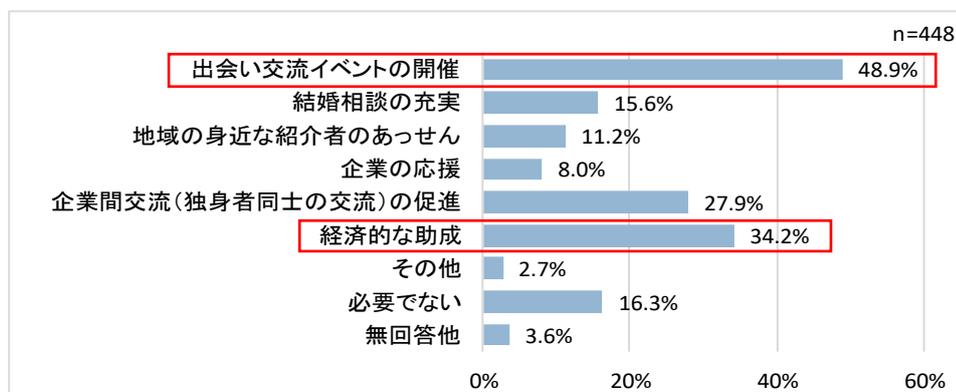


(3) 必要な婚活施策（市民）（市民 Q21）

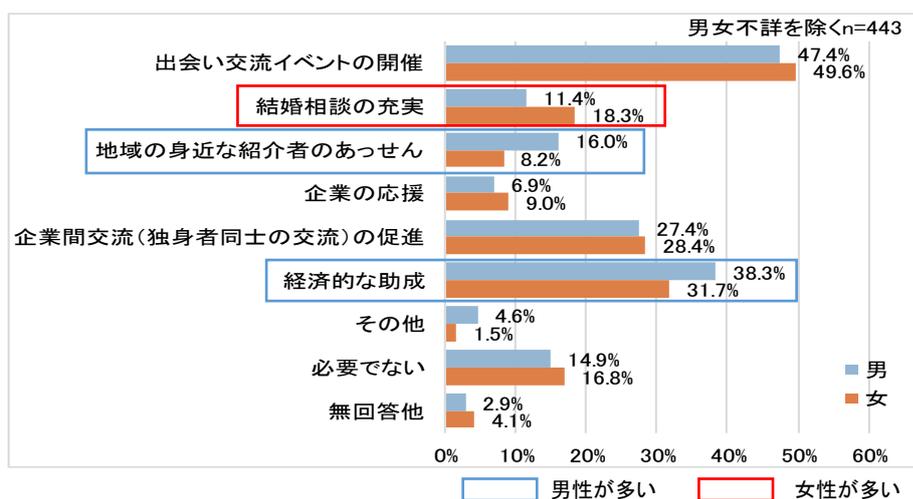
- ・婚活支援として必要と思う施策については、前問 Q20 の回答にも対応して、「出会い交流イベントの開催」、「経済的な助成」が多くあげられている。（図 2-34①）
- ・男女別にみると、男性は女性よりも「経済的な助成」が相対的にやや多い。（図 2-34②）
- ・年齢別にみると、18 歳～29 歳の方は「経済的な助成」が多く、30 歳～39 歳の方は出会い・交流機会等の充実がやや多い。（図 2-34③）
- ・未婚者・既婚者を比較すると、未婚者は「経済的助成」「結婚相談の充実」をあげる割合が多いのに対し、既婚者は自身の経験等から「出会いや交流」機会と答える割合が多い。（図 2-34④）

図 2-34 必要な婚活施策（市民）

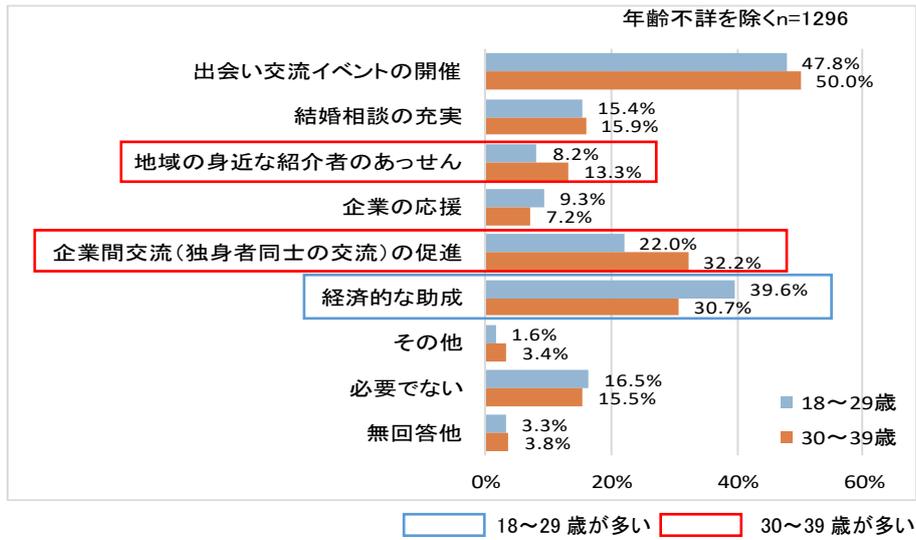
① 単純集計（市民）



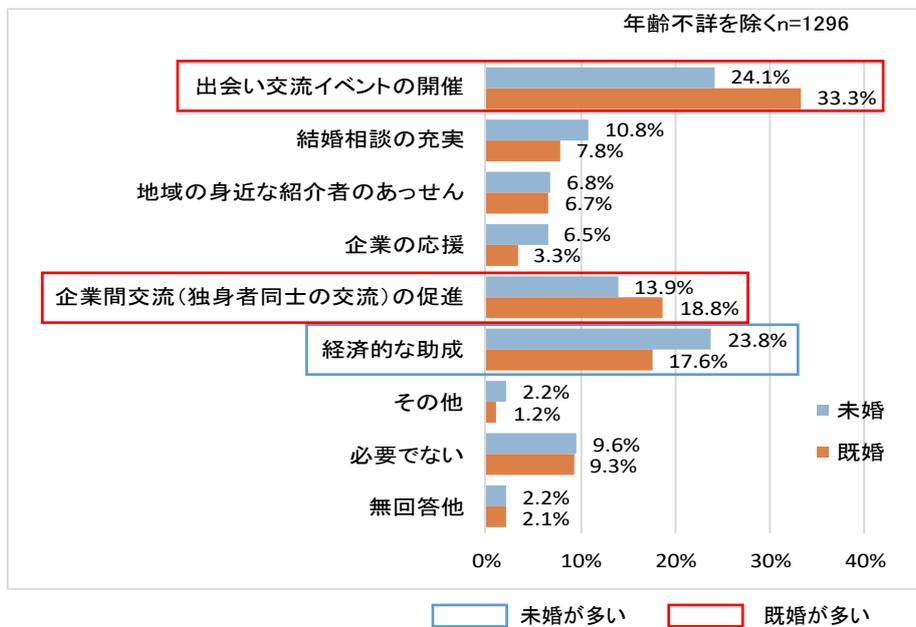
② 男女別集計（市民）



③ 年齢別集計（市民）



④ 未婚・既婚別集計（市民）



6 子育て

(1) 理想の子ども数 (市民 Q25、高校生 Q14、学生 Q10)

- 市民アンケートでは、理想のこども数で「2人」をあげた人の割合が46.9%と最も多く、次いで「3人」が39.4%、「4人」が5.4%、「1人」が2.9%となっている。
これに対し、現実には子育て可能なこども数をきくと、「2人」が58.1%、「3人」が18.7%、「1人」が11.2%、「4人」が3.7%となっている。(図 2-35)
- 理想と現実の平均こども数を算出すると下表のようになり、理想より現実のこども数が少ない傾向がわかる。

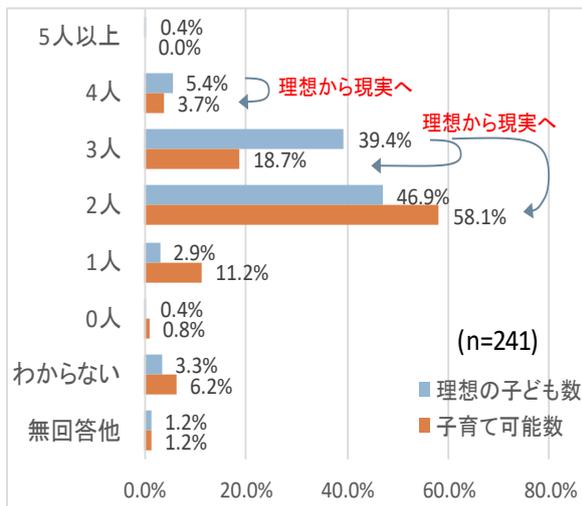
平均子ども数(既婚者、未婚者別)・・・単位:人

	理想数	現実の子育て可能数
未婚者	2.133 (n=150)	1.672 (n=128)
既婚者	2.500 (n=230)	2.143 (n=223)

- 高校生アンケートでは、「4人」の割合が43.3%と最も多く、「3人」が14.4%と続いている。(図 2-36①)
- 学生アンケートでは、「2人」の割合が43.9%と最も多く、「3人」が13.4%と続き、高校生よりは現実的な回答をしているように見受けられる。(図 2-36②)

図 2-35 理想の子ども数と現実に子育て可能な子ども数 (市民)

① 市民-既婚者



② 市民-未婚者

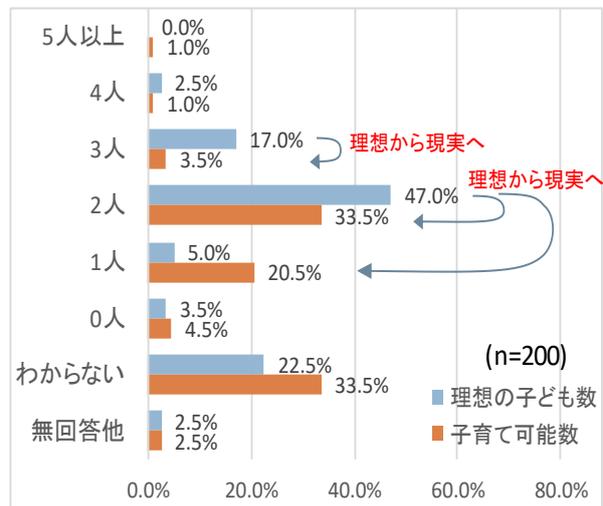
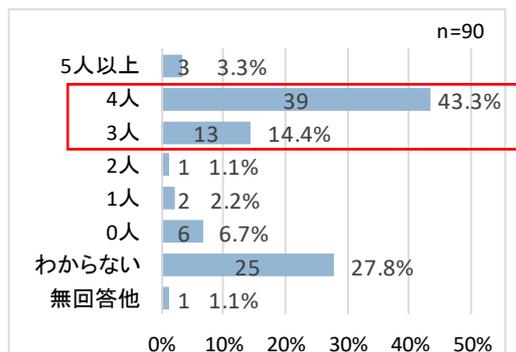
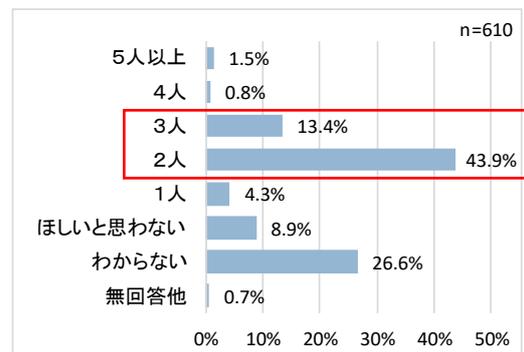


図 2-36 希望の子ども数（高校生、学生）

① 高校生



② 学生

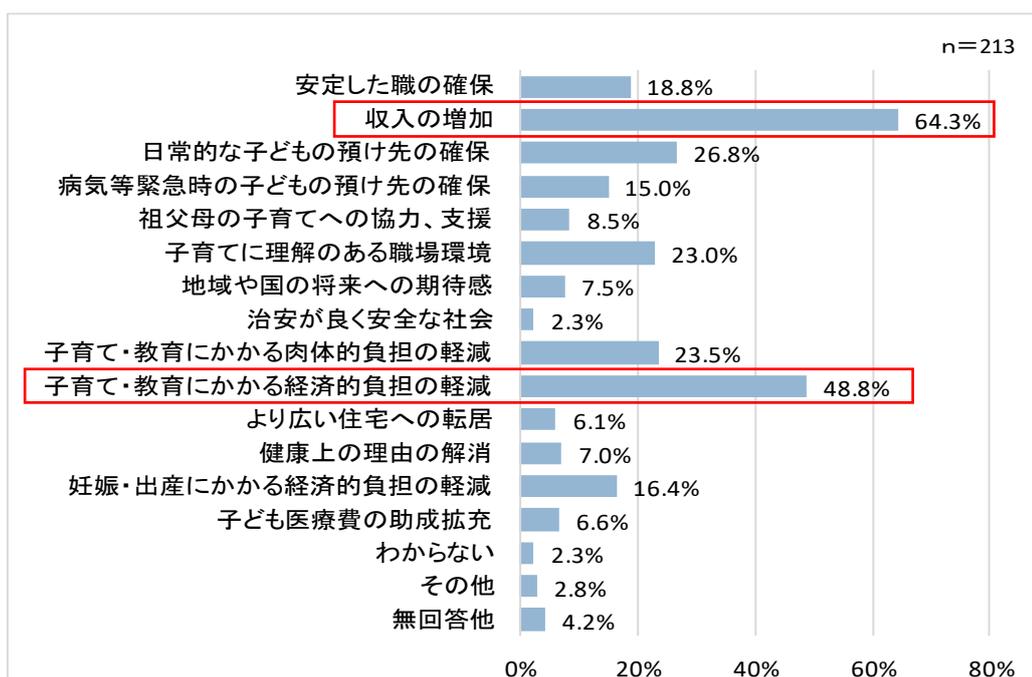


(2) 理想の子ども数を実現するために必要なこと（市民）（市民 Q27）

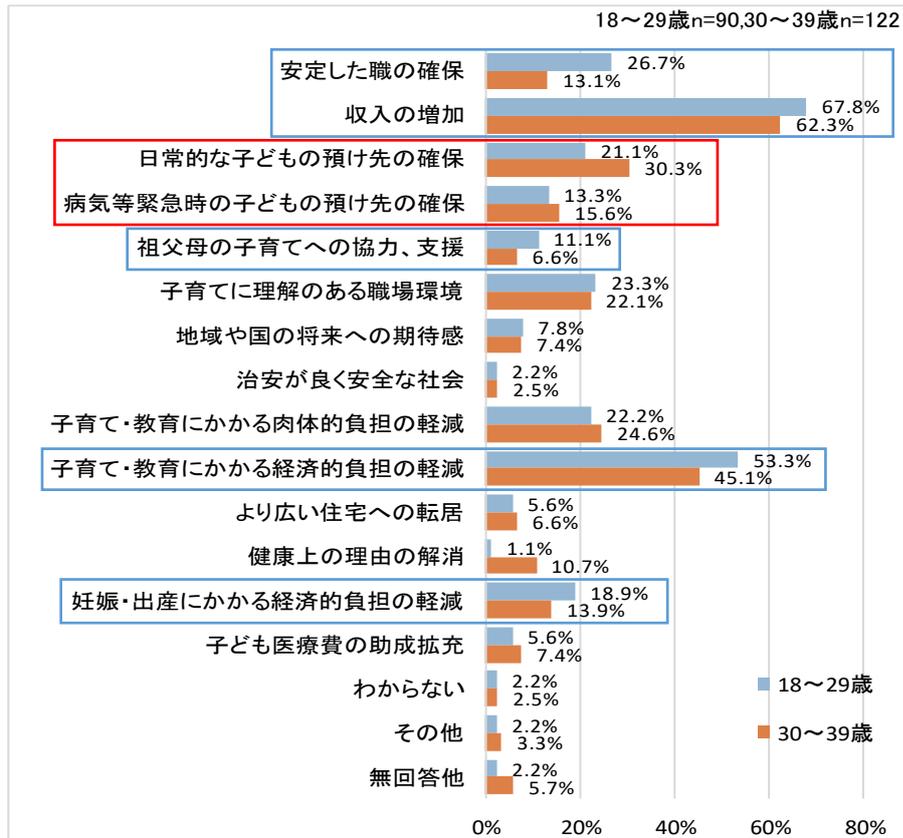
- 理想の子ども数を実現するために必要なこととして「収入の増加」、「子育て・教育にかかる経済的負担の軽減」が多く、いずれも経済的な余裕を求めていることが読み取れる。（図 2-37①）
- 年齢別にみると、18～29 歳は様々な経済的負担を求めているのに対し、30～39 歳は子どもの預け先の確保など子育てにかかる支援を求めていることが読み取れる。（図 2-37②）
- 既婚者・未婚者別にみると、未婚者は「安定した職の確保」「収入の増加」が多いのに対し、既婚者は、「子どもの預け先の確保」子育てに理解のある職場環境」をあげる人が相対的に多い。（図 2-37③）

図 2-37 理想の子ども数を実現するために必要なこと（市民）

① 単純集計（市民）

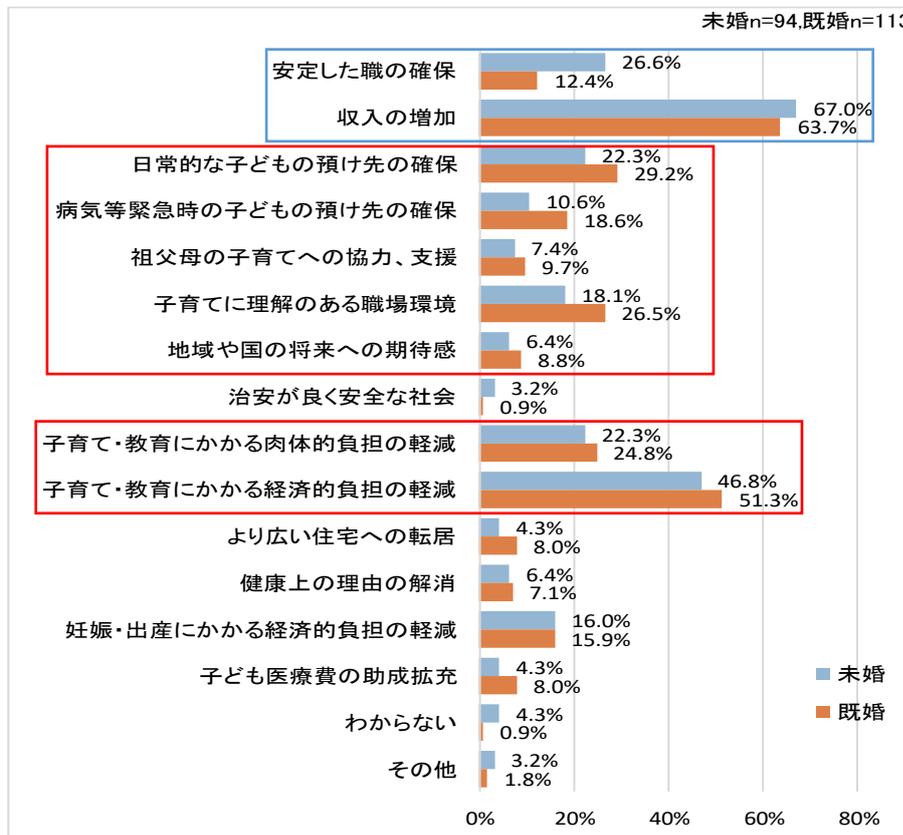


② 年齢別集計（市民）



18～29歳が多い 30～39歳が多い

③ 未婚・既婚別集計（市民）



未婚が多い 既婚が多い

(職種別比較)

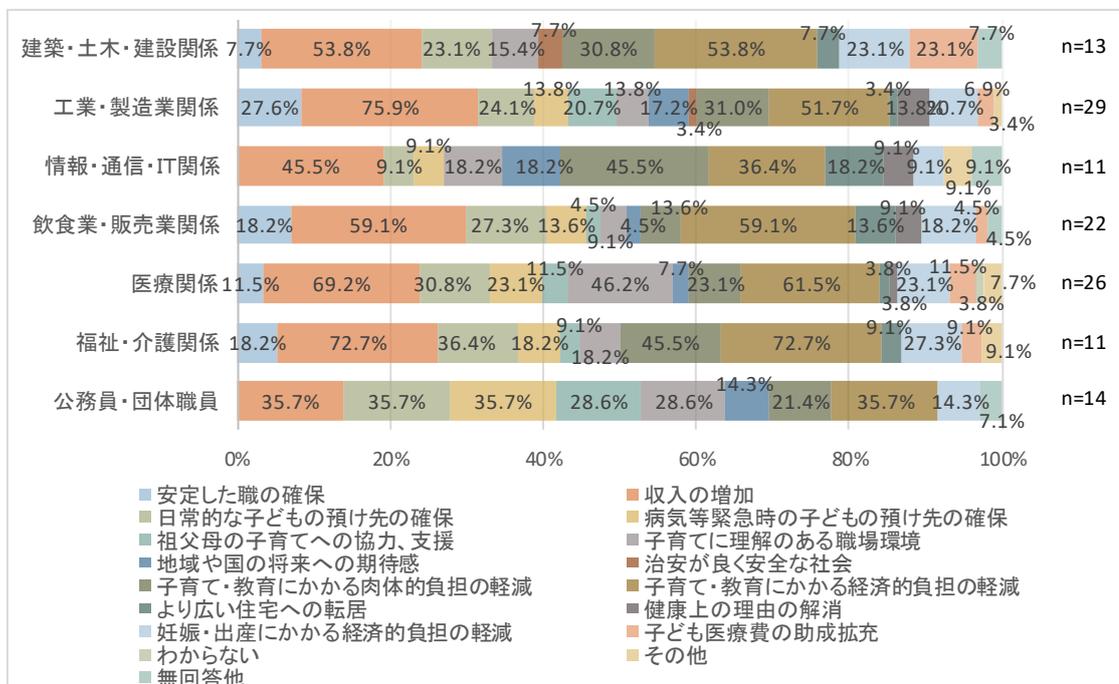
- ・サンプル数の比較的多い(回答者数10人以上)職種についてみると、各職種にはほぼ共通して、「収入の増加」や「子育て・教育にかかる経済的負担の軽減」などの経済面の充実を多くあげている。(図2-37④)

(希望する子どもの数別比較)

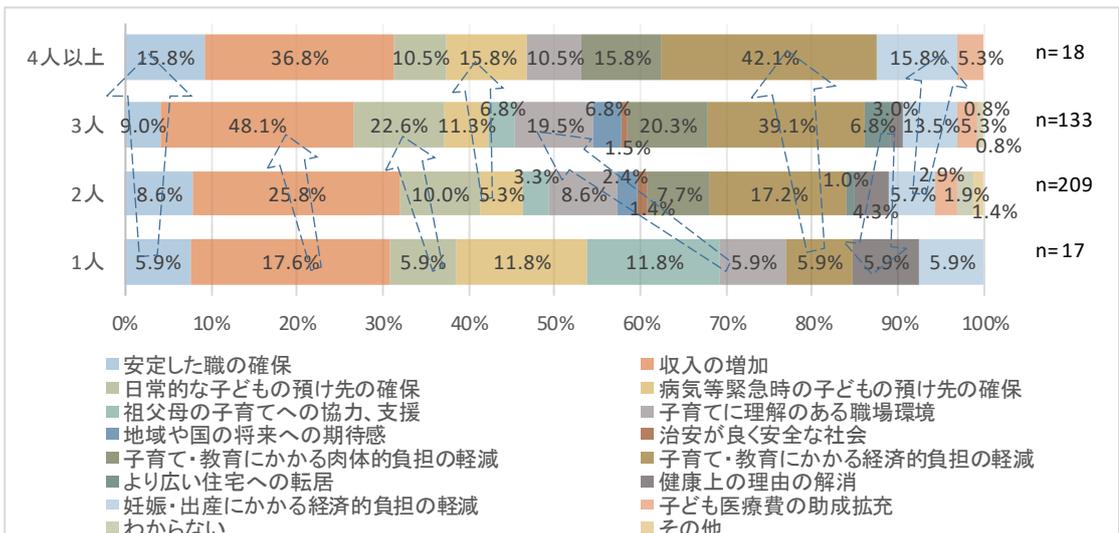
- ・希望する子どもの人数別に比較すると、人数が多くなるほど「安定した職の確保」「収入の増加」「子育て・教育にかかる経済負担の軽減」などを求める人が多くなる。逆に人数が少ないほど「健康上の理由の解消」「祖父母の子育てへの協力、支援」を多く求める傾向が読み取れる。(図2-37⑤)

図2-37 理想の子ども数を実現するために必要なこと(市民)

④ 職種別集計(市民)



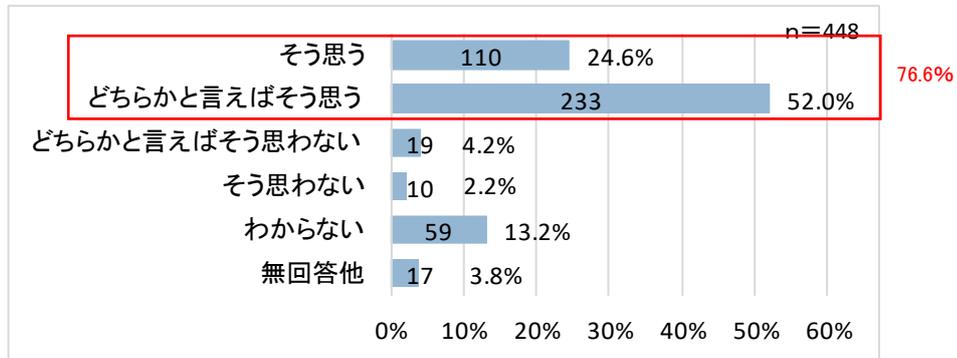
⑤ 希望する(理想の)子どもの数別集計(市民)



(3) 射水市に対する子育てしやすさの評価（市民）（市民 Q28）

- ・「射水市が子育てしやすいまちか」という設問に対し、肯定的な評価をした人の割合が76.6%と高く、これまでの子育て施策に対しての評価が表れたものと考えられる。（図2-38）

図 2-38 射水市の子育てしやすさの評価（市民）

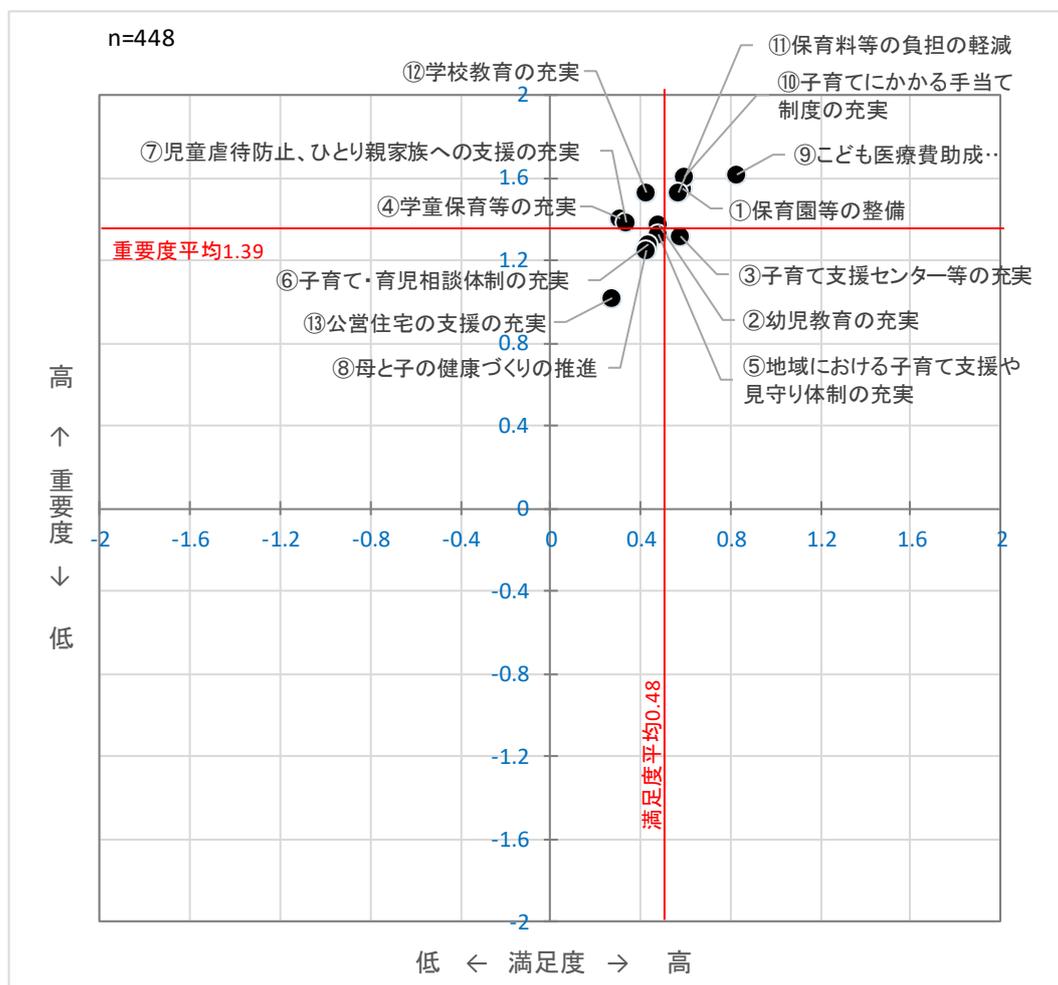


(4) 市の子育て支援施策に対する満足度と重要度（市民）（市民 Q29）

- 市の子育て支援にかかる 13 の施策に対し、全体的に満足度も重要度も高く評価されている。中でも「子ども医療費助成制度の充実」は満足度でも重要度でも最も高い。（図 2-39①）
- 詳しくみると、満足度については、「子ども医療費助成制度の充実」がもっとも高く、ついで「保育園の整備」「子育て支援センターなどの充実」などが高い。（図 2-39②）
- 重要度については、いずれも高いが、その中でも「子ども医療費助成制度の充実」「子育てにかかる手当て制度の充実」「保育園等の整備」などが高い。（図 2-39③）

図 2-39 市の子育て支援施策に対する満足度と重要度（市民）

① 満足度と重要度（市民）

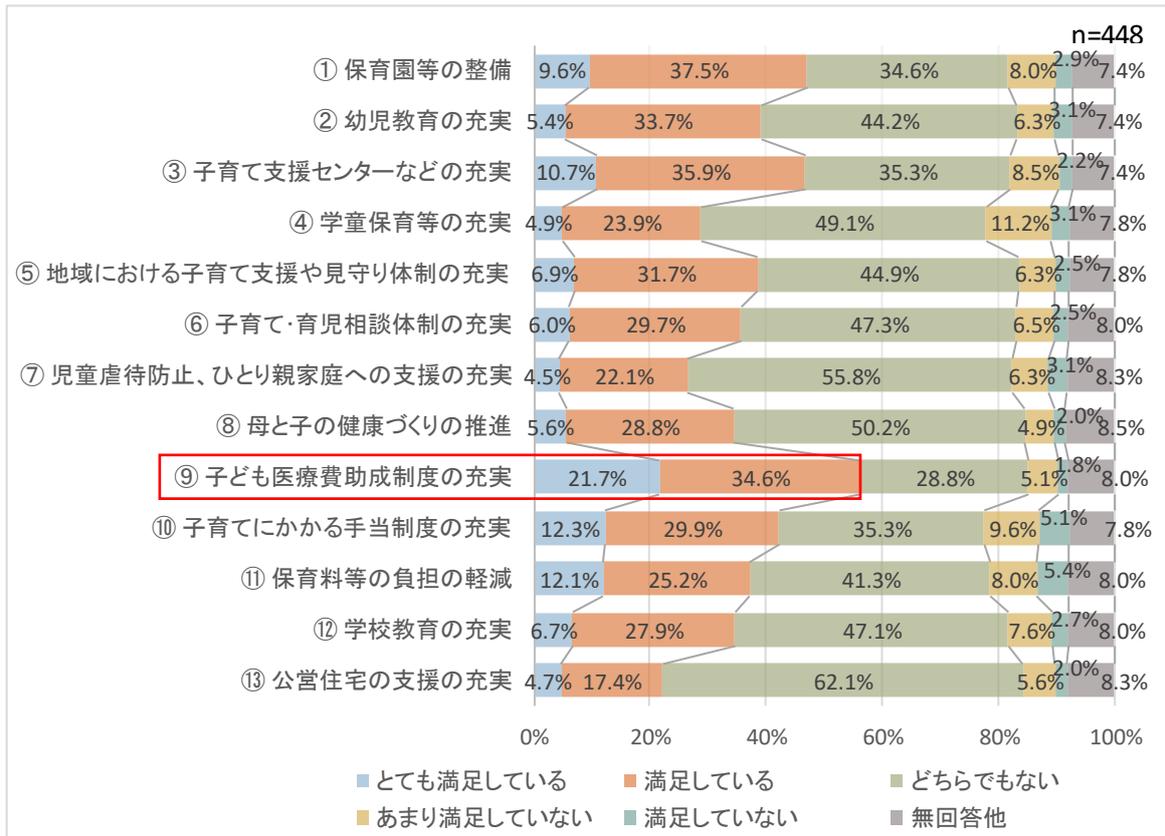


※満足度、重要度の点数評価（配点）の方法

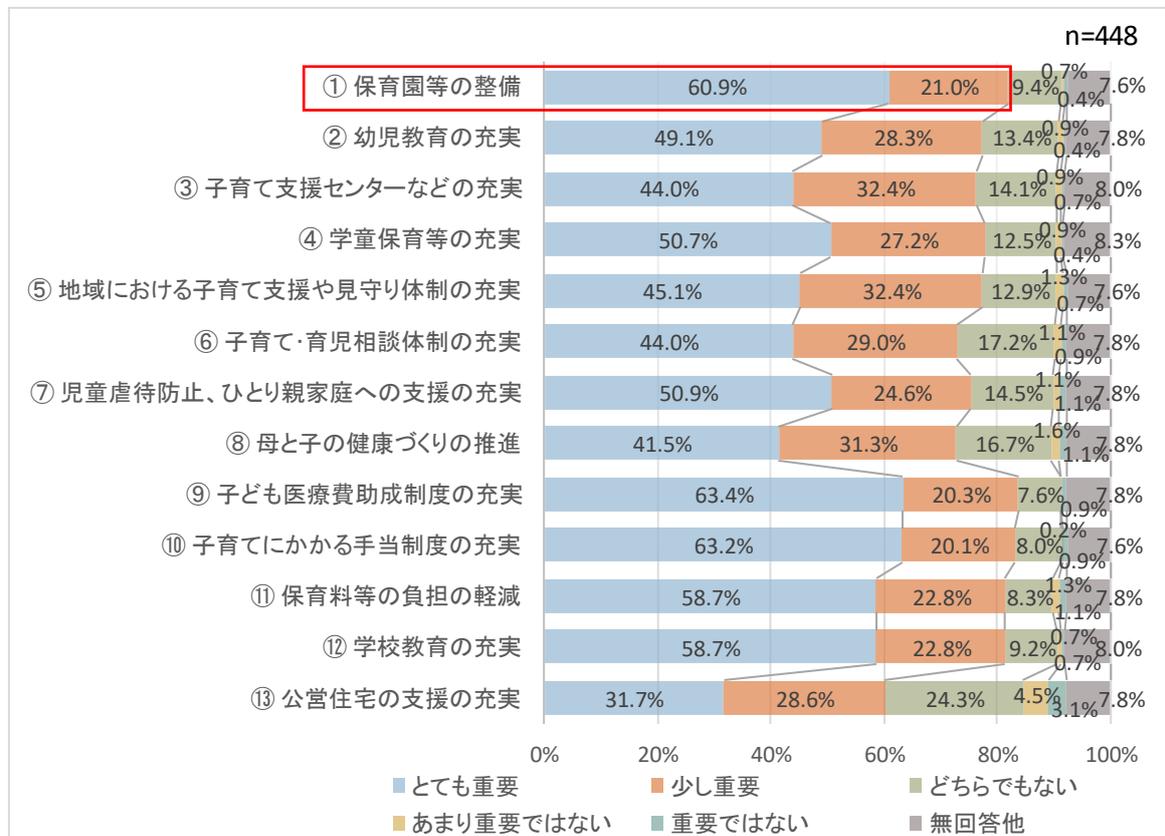
- 施策ごとに、下表の配点に基づき得点合計（Σ回答数×評価点）を算出し、これの相加平均をもって各施策を代表する評価点とした。
- 満足度、重要度の平均値は、各施策の代表評価点の相加平均により算出。

	評価点の設定				
	+2点	-1点	0点	-1点	-2点
満足度	とても満足している	満足している	どちらでもない	あまり満足していない	満足していない
重要度	とても重要	少し重要	どちらでもない	あまり重要ではない	重要ではない

② 満足度（市民）



③ 重要度（市民）



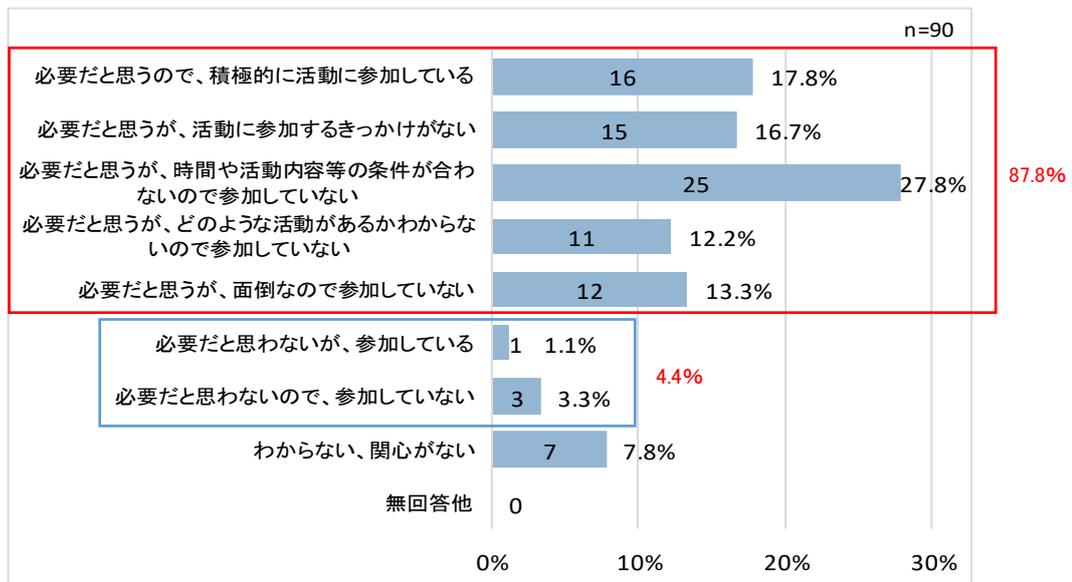
7 地域活動（高校生、学生）

（1）地域活動への関心度（高校生、学生）（高校生 Q23、学生 Q19）

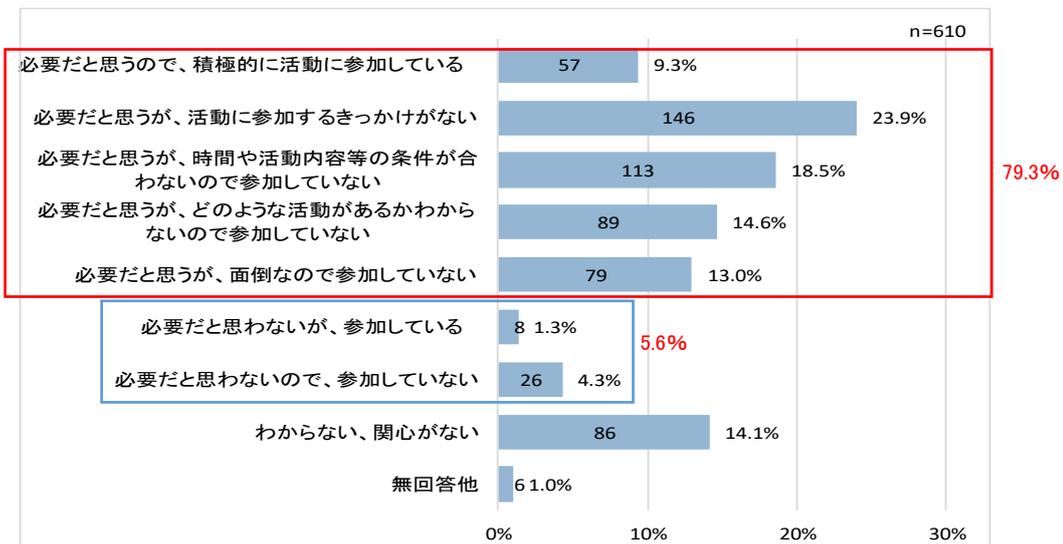
- ・高校生アンケートでは、参加の如何を問わず地域活動は「必要と思う」人が 87.8%、「必要と思わない」人が 4.4%となっている。（図 2-40①）
- ・学生アンケートでは、参加の如何を問わず地域活動は「必要と思う」人が 79.3%、「必要と思わない」人が 5.6%となっている。（図 2-40②）
- ・男女別にみると、女性の方が参加率が高く、男性は面倒なので参加していないが多い。女性は「参加するきっかけがない」や「条件が合わないので参加していない」が多い。（2-40③）こうしたことから、女性に対して参加機会の充実や女性の参加に配慮した内容の充実が望まれる。

図 2-40 地域活動への思い（高校生、学生）

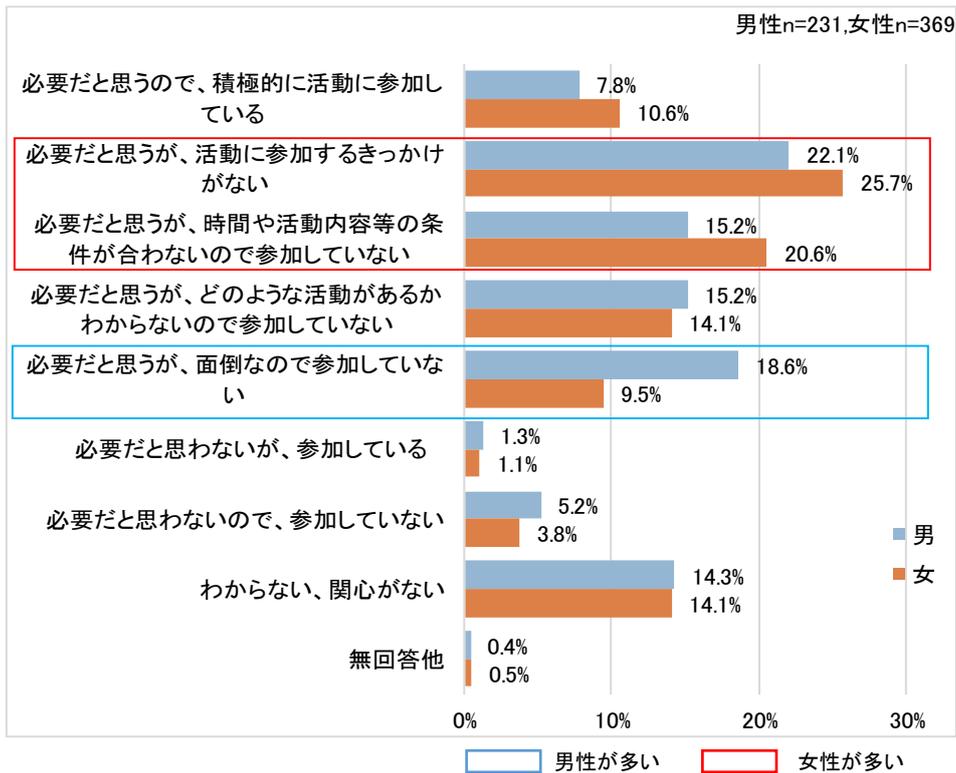
① 高校生



② 学生



③ 学生（男女別集計）



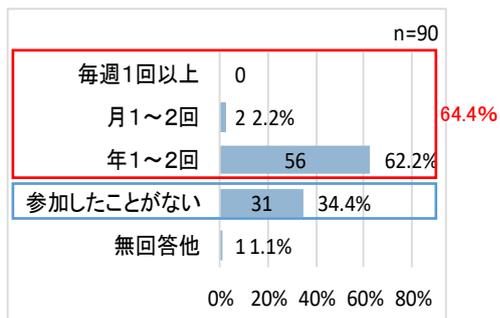
(2) 地域活動への参加と参加意向の（高校生、学生）

(高校生 Q24, Q25、学生 Q20, Q21)

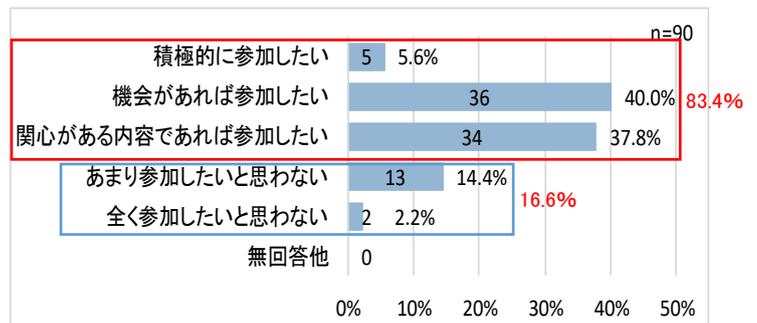
- ・高校生アンケートでは、地域活動への参加実績では「参加した」が 64.4%、「参加したことがない」が 34.4%となっている。一方、参加意向では「参加したい」が 83.4%で参加実績を上回り、「参加したいと思わない」が 16.6%となっている。(図 2-41①②)
- ・学生アンケートでは、地域活動への参加実績では「参加した」が 51.4%、「参加したことがない」が 47.4%となっている。一方、参加意向では「参加したい」が 65.2%で参加実績を上回り、「参加したいと思わない」が 33.8%となっている。(図 2-41③④)
- ・男女別にみると、男性よりも女性の方が参加意欲が高い。(図 2-41⑤)

図 2-41 地域活動への参加度と参加意向（高校生、学生）

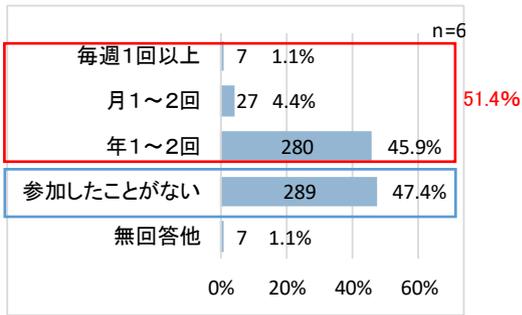
① 高校生（現状の参加度）



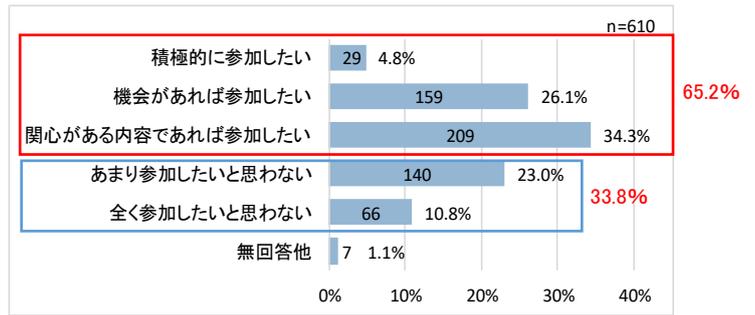
② 高校生（今後の参加意向）



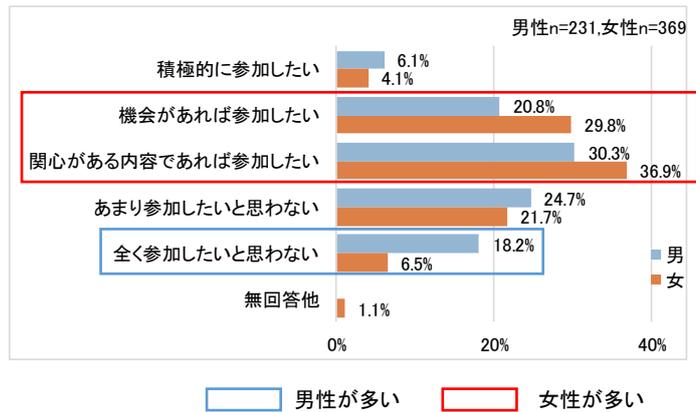
③ 学生（現状の参加度）



④ 学生（今後の参加意向）



⑤ 学生（今後の参加意向）・・・男女別集計

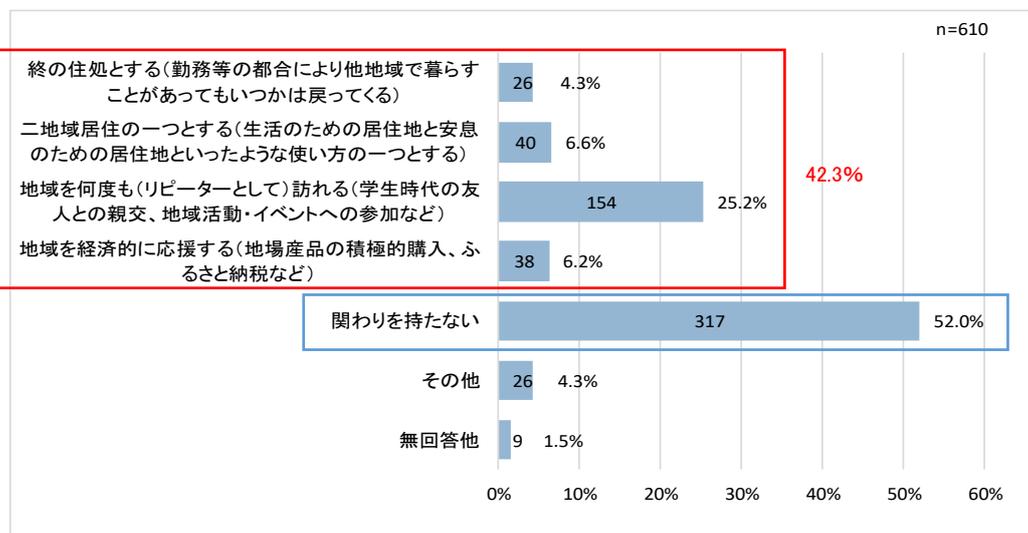


(3) 卒業後の地域（射水市）との関わり（学生）（学生 Q22）

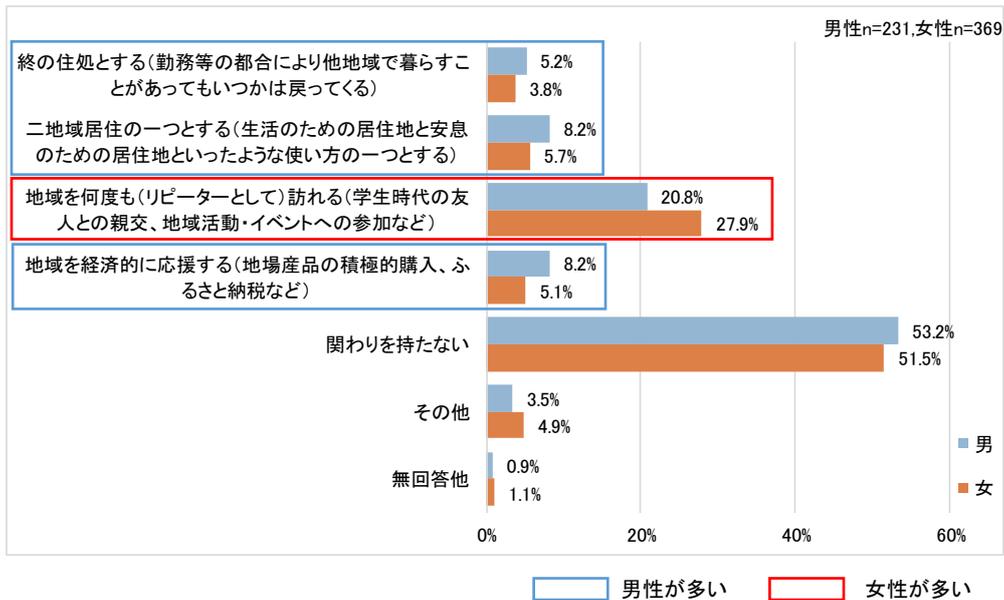
- 卒業後において学校のある地域や射水市との関わりをきくと、「関わりを持たない」と思う人が 52.0%で、何らかの「関わりを持ちたい」と思う人が 42.3%となっている。（図 2-42）

図 2-42 卒業後の地域（射水市）との関わり（学生）

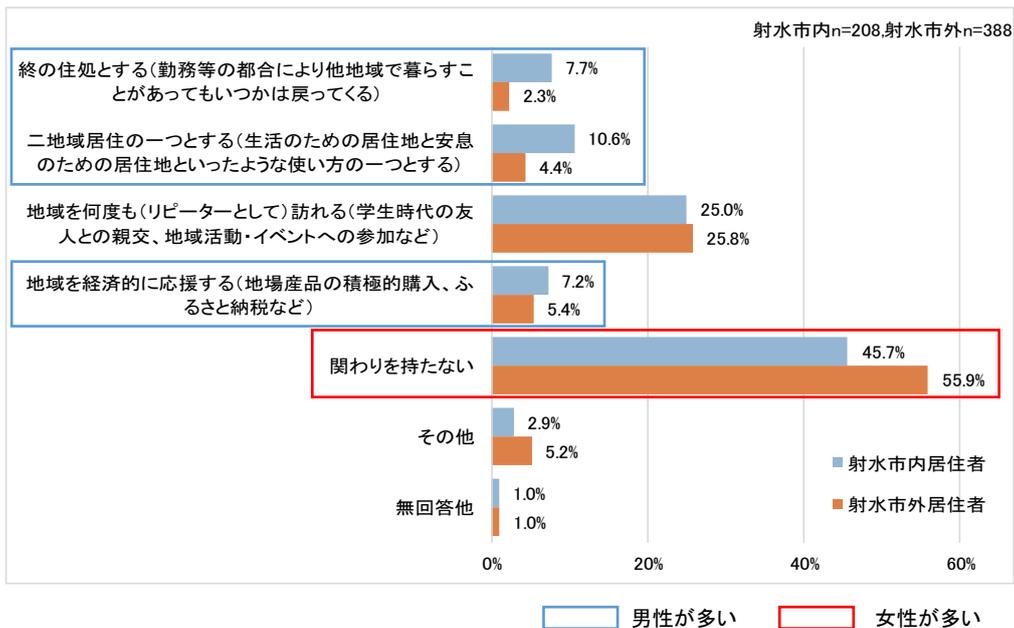
① 単純集計（学生）



② 男女別集計（学生）



③ 射水市内居住者・市外居住者別集計（学生）



8 まちづくり

(1) 市の施策の満足度と重要度（市民）（市民 Q11）

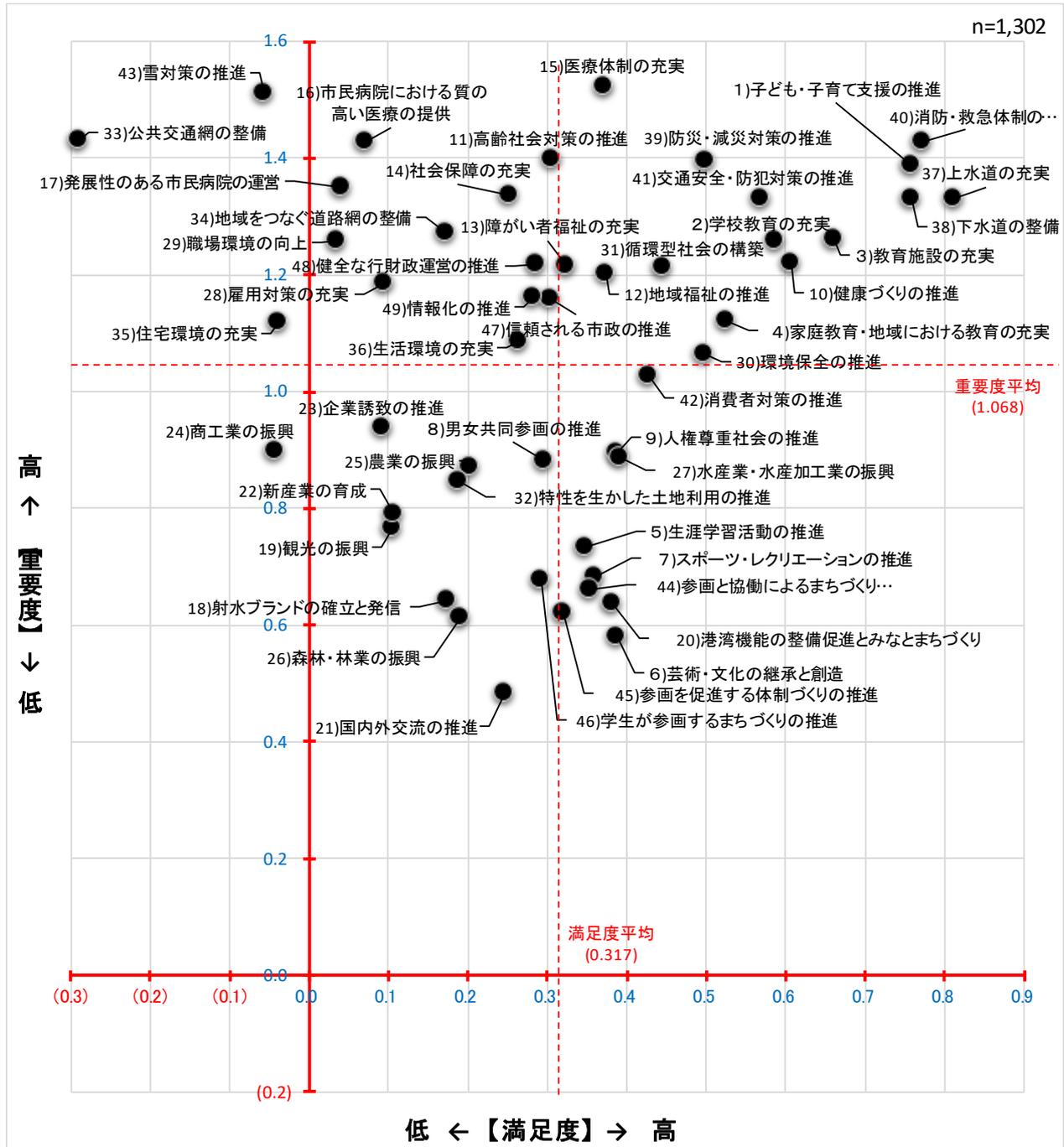
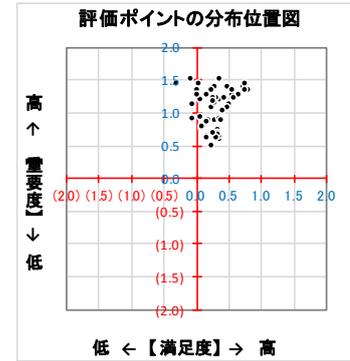
- ・ 満足度、重要度がともに高いものとして「子ども医療費助成制度の充実」、「子育てにかかる手当て制度の充実」、「保育園等の整備」、「保育料等の負担の軽減」があげられている。このように、市民は子育て支援策の中でも経済的支援策及び就労に伴う保育先の確保について、ある程度満足しているものの、施策の一層の充実を望んでいることがわかる。
- ・ 満足度、重要度ともに肯定的な回答であり、今後も引き続き子育て支援策の充実を図る必要がある。

図 2-43 市の施策の満足度と重要度（市民）

※満足度、重要度の点数評価（配点）の方法

- ・施策ごとに、下表の配点に基づき得点合計（Σ回答数×評価点）を算出し、これの相加平均をもって各施策を代表する評価点とした。
- ・満足度、重要度の平均値は、各施策の代表評価点の相加平均により算出。

	評価点の設定				
	+2点	-1点	0点	-1点	-2点
満足度	とても満足している	満足している	どちらでもない	あまり満足していない	満足していない
重要度	とても重要	少し重要	どちらでもない	あまり重要ではない	重要ではない

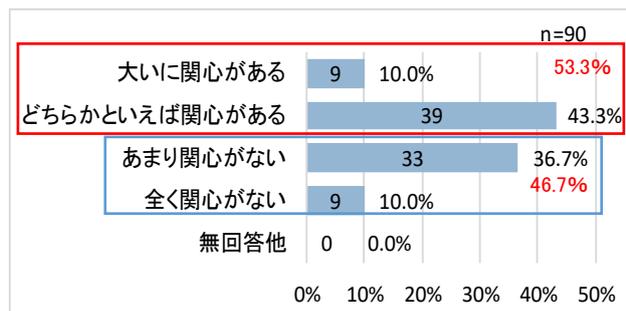


(2) 市の行政施策への関心度（高校生、学生）（高校生 Q26、学生 Q23）

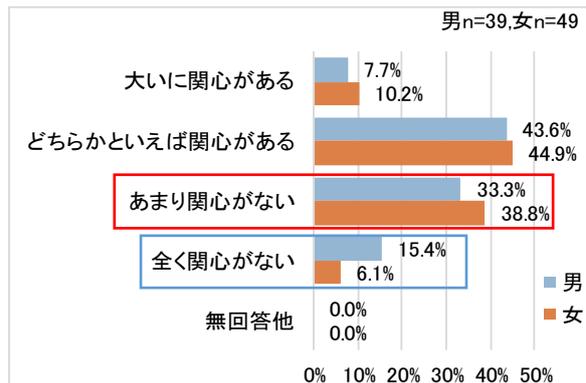
- ・高校生アンケートでは、市の行政施策に対し「関心がある」人が 53.3%、「関心がない」人が 46.7%となっている。（図 2-44①②）
- ・学生アンケートでは、市の行政施策に対し「関心がある」人が 22.9%、「関心がない」人が 76.1%となっている。（図 2-44③④）

図 2-44 市の行政施策への関心度（高校生、学生）

① 高校生（単純集計）

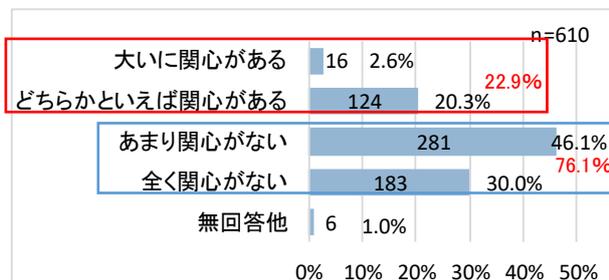


② 高校生（男女別集計）

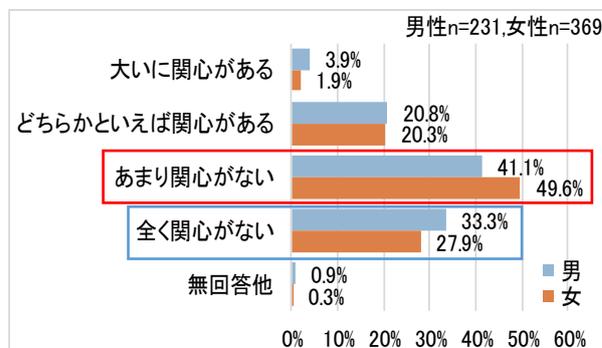


□ 男性が多い □ 女性が多い

③ 学生（単純集計）



④ 学生（男女別集計）



□ 男性が多い □ 女性が多い

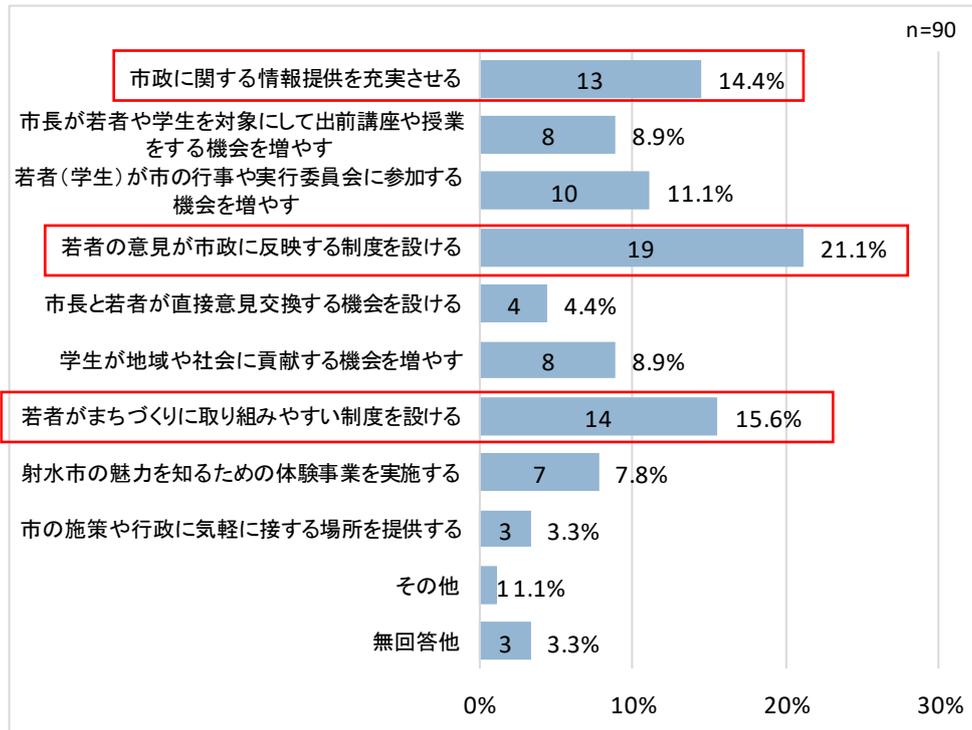
(3) 若者が市の施策に関心を持つために必要な取組（高校生、学生）

（高校生 Q28、学生 Q25）

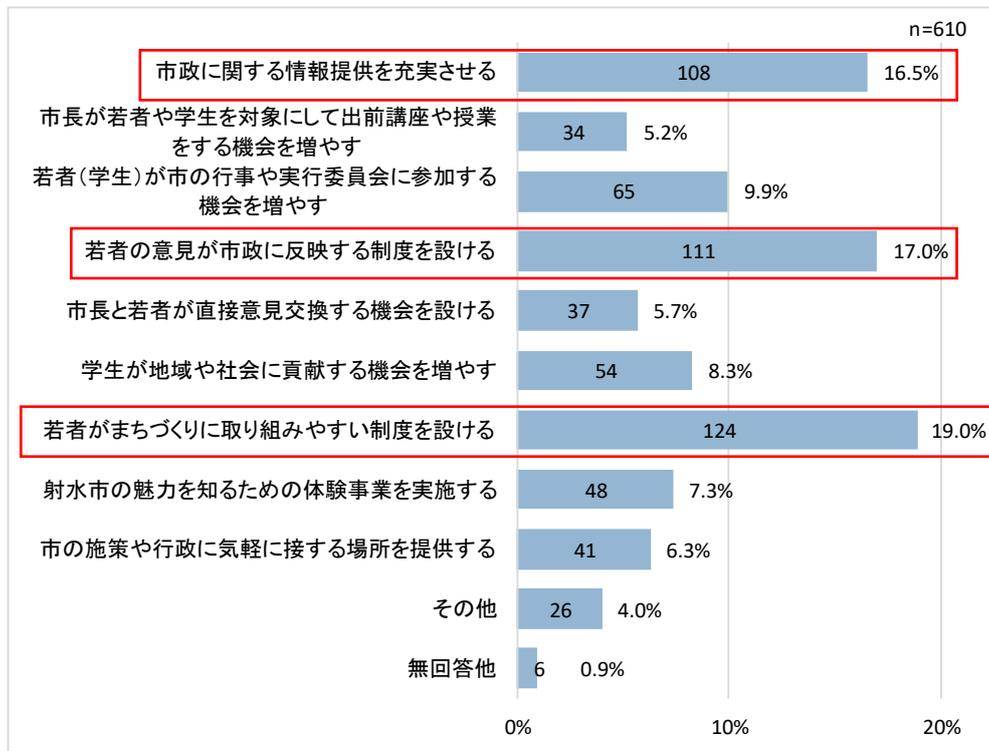
- ・高校生アンケートでは、「若者の意見が市政に反映する制度」、「若者がまちづくりに取り組みやすい制度」、「市政に関する情報提供の充実」を多くあげている。（図 2-45①）
- ・学生アンケートでもほぼ同様の傾向が見られる。（図 2-45②）

図 2-45 若者が市の施策に関心を持つための取組（高校生、学生）

① 高校生



② 学生



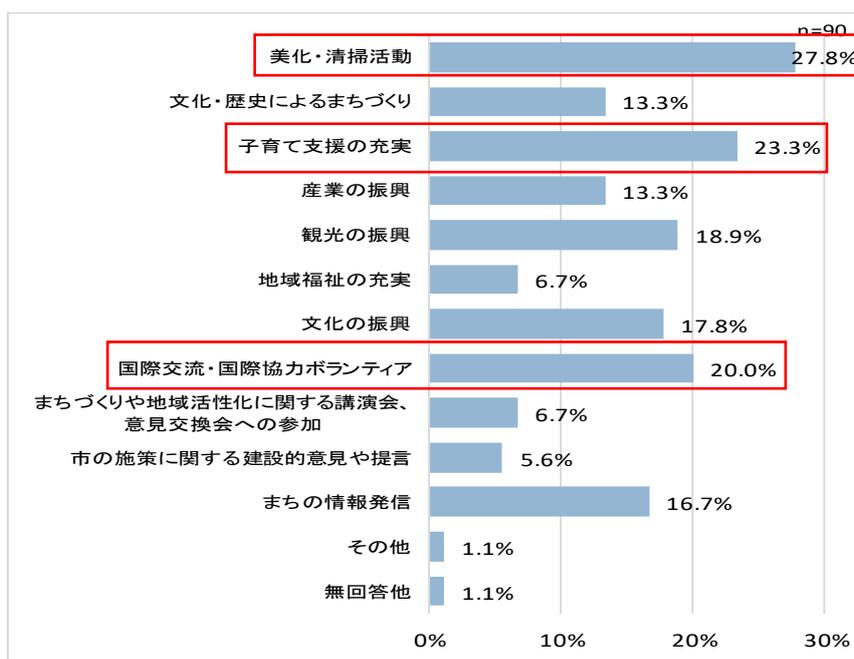
(4) まちの活性化や地域貢献にふさわしい分野・方法（高校生、学生）

（高校生 Q29、学生 Q26）

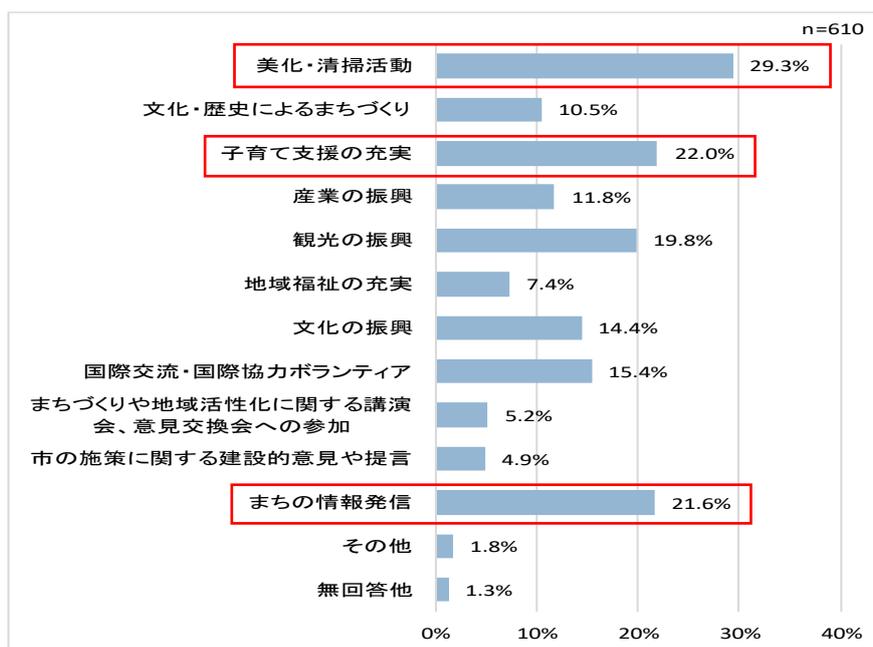
- ・高校生アンケートでは、「美化・清掃活動」、「子育て支援の充実」、「国際交流・国際協力ボランティア」を多くあげている。（図 2-46①）
- ・学生アンケートでは、「美化・清掃活動」、「子育て支援の充実」、「まちの情報発信」を多くあげている。（図 2-46②）

図 2-46 まちの活性化や地域貢献にふさわしい分野・方法（高校生、学生）

① 高校生



② 学生



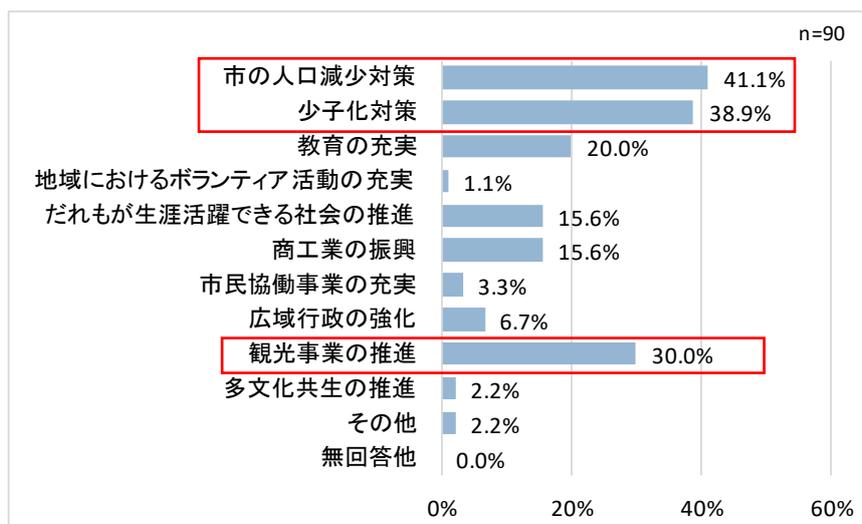
(5) まちの活性化のために重要な取組（高校生、学生）

（高校生 Q30、学生 Q27）

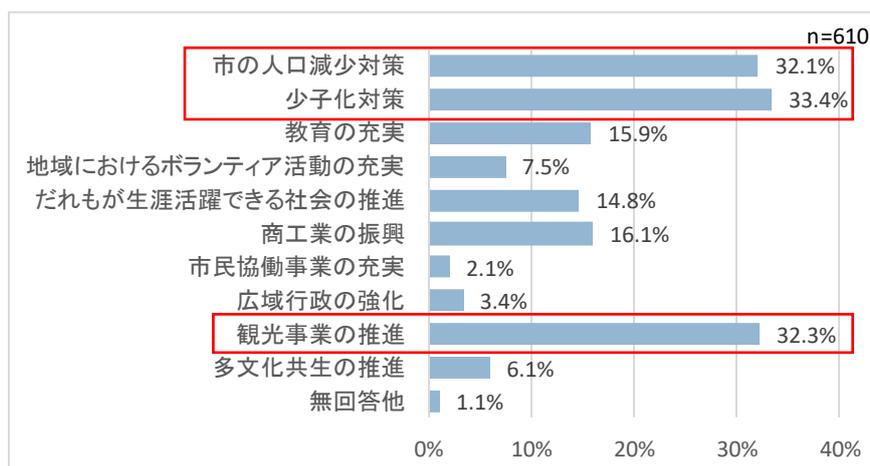
- ・活性化のために重要な取組として、高校生アンケートでは、「市の人口減少対策」、「少子化対策」、「観光事業の推進」を多くあげている。（図 2-47①）
- ・学生アンケートでもほぼ同様の傾向が見られる。（図 2-47②）

図 2-47 まちの活性化のための重要な取組（高校生、学生）

① 高校生



② 学生



(6) 持続可能なまちづくりのために重視すべきSDGs

（市民 Q30、高校生 Q31、学生 Q28）

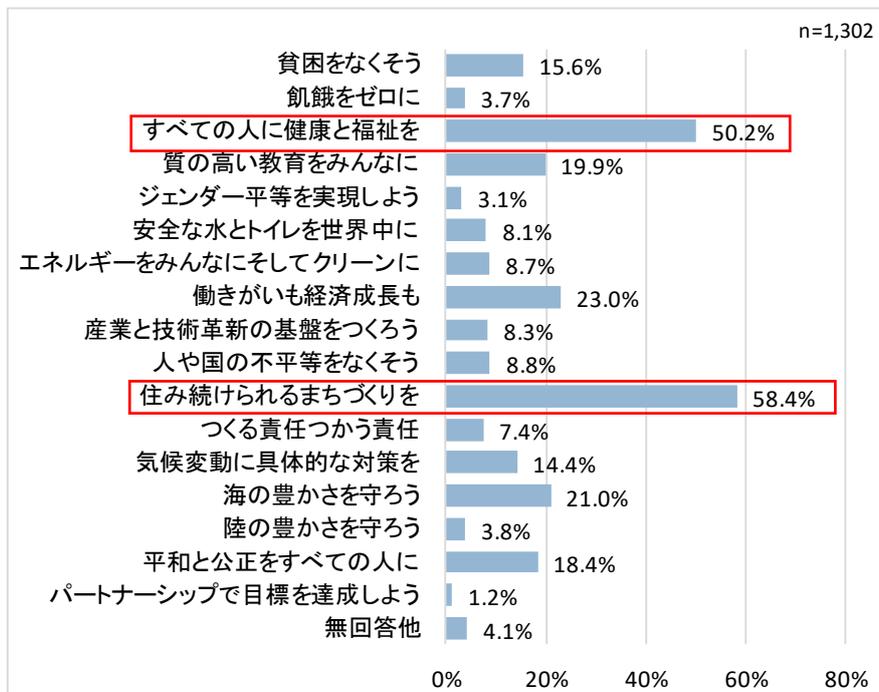
- ・持続可能なまちづくりのために重視すべき SDGs は、市民アンケートでは、「住み続けられるまちづくり」、「すべての人の健康と福祉」が多くあげられている。（図 2-48①）
- ・高校生アンケートでは、「住み続けられるまちづくり」、「海の豊かさを守る」が多くあげ

られている。(図 2-48②)

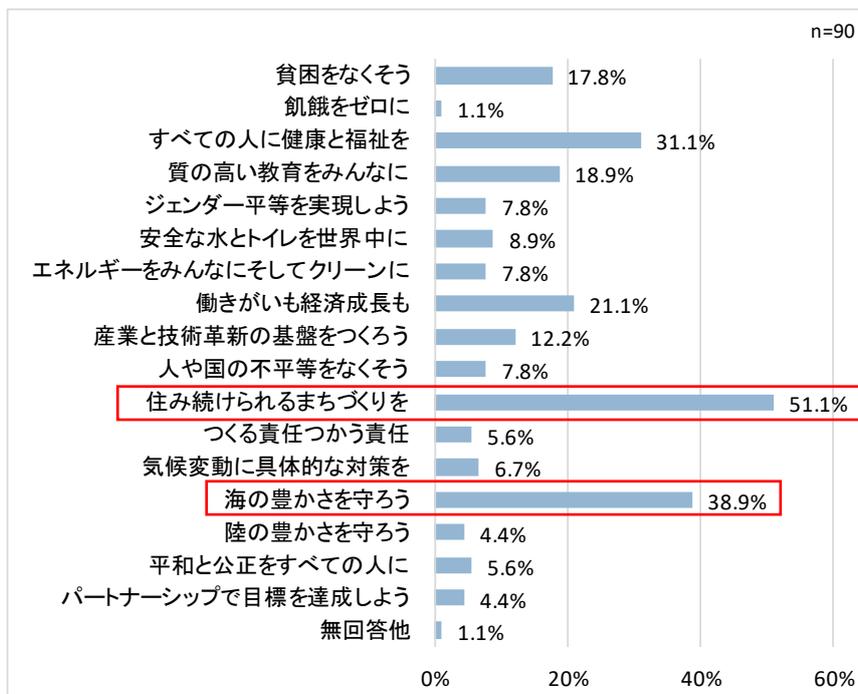
- ・学生アンケートでは、市民アンケートと同様に「住み続けられるまちづくり」、「すべての人の健康と福祉」が多くあげられている。(図 2-48③)

図 2-48 市政において重視すべきSDGs (市民、高校生、学生)

① 市民



② 高校生



③ 学生

